

しんたろうのFX勉強会
水平線レポート
～ローソク足水平線分析論～
第二版

著作権について

本レポート「水平線レポート」（以下、本レポート）は、著作権法で保護される著作物です。取り扱いについては、以下の点にご注意ください。

本レポートの著作権は、SKR オンライン（しんたろうのFX勉強会）にあります。著作権者の書面による事前許可無く、本レポートの一部または全部をあらゆるデータ著作手段（紙媒体、電子媒体、映像媒体、音声等）により、複製、流通、および転載、オークションなどでの転売することを禁じます。著作権侵害を行った場合は、5年以下の懲役または500万円以下の罰金に処せられます。（著作権法119条）

著作権法に違反した場合は、流出源が特定できるようになっておりますので充分ご注意ください。

使用承諾契約書

本契約は、本レポートを入手した個人または法人（以下、甲とする）と著作権者（以下、乙とする）との間で合意した契約です。本レポートを甲が受け取った時点で、甲はこの契約に合意したものとみなします。

第一条（契約の目的）

本契約に基づき、乙が著作権を有する本レポートに含まれる情報において、甲の非独占的使用権を承諾するものです。本レポートは、投資判断の参考となる情報を目的としたものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。

第二条（禁止事項）

本レポートに含まれる情報は、著作権法によって保護されております。乙の書面による事前の許可なく、甲は本レポートから得た情報の一部または全部を一般公開（紙媒体、電子媒体、映像媒体、音声等）することを禁じます。公開には出版、講演および電子メールやツイッター等での配信及びホームページやブログでの公開も含まれるものとします。また、本レポートを第三者へ譲渡、転売することを禁じます。本レポートの情報は、甲が自ら使用する場合においてのみ承諾させるものとします。万一、違反行為を発見した場合には、弁護士を通じて法的手段によって解決いたします。

第三条（契約の解除）

乙により甲が本契約に違反したと判断された場合、乙は何の通告もなく使用承諾契約を解除できるものとします。

第四条（損額賠償）

甲が本契約の第二条に違反した場合、本契約の解除にかかわらず、甲は乙に対する違反金として違反件数と10万円を乗じた金額を支払うものとします。または、インターネットでの公開等により、違反件数が特定できない場合は、一律500万円を甲は乙に対して支払うものとします。

第五条（責任の範囲）

本レポートに記載の内容は投資の手法として高い有益性があるものと確信しておりますが、その正確性を乙が保証するものではありません。運用及び投資にあたっては、投資者である甲自身の責任において行うものとします。万一、本レポートに記載の方法に従って甲が投資を行い損害が発生しても、損失金額の補填及び弁済その他の一切の責任を乙は負わないものとします。

免責注意事項

本書は情報提供を唯一の目的としたものであり、収益の保証、或いは、直接的に投資助言業務、投資勧誘を行うものではありません。

また、投資に関する断定的判断を提供するものでもありません。

投資方針や時期選択等の最終決定は、リスク等を熟知した上、ご自身で判断されますようお願い致します。

本レポートの利用、あるいは取引により利用者が生じた、いかなる損害についても著者及びしんたろうのFX勉強会はそれに対し、一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

目次

1. はじめに
2. 事前準備
3. 水平線の基本
4. レジスタンスとサポート
5. 長期、中期、短期水平線
6. 推進波と修正波の水平線
7. ローソク足の基本
8. 大陽線と大陰線の始値
9. 特殊ハラミ足
10. ネックライン
11. 超短期水平線
12. 長期ローソク足の始値
13. ローソク足の始値の応用
14. エントリータイミング
15. 各章ごとの動画解説
16. 最後に・・・

1. はじめに

しんたろうのFX勉強会 水平線レポート～ローソク足水平線分析論～をご購入頂き誠にありがとうございます。管理人のしんたろうです。

このオリジナルレポートはしんたろうが持っている水平線の全て知識と経験をレポートという形でまとめたものです。

チャートに水平線を引くということはどういうことなのか？という基本から始まり、どこに水平線を引けば良いのか？引いた水平線をどのようにトレードに活かしていくのか？どの水平線が重要なのか？という具体的な分析法まで解説している詳細なレポートとなっております。

全く水平線がわからないという方の道標となるように詳しく具体的に実戦向けに「手法」という形でまとめておりますので、購入者様自身が今まで引いてきた水平線とどのように違うのか比較し検証してみてください。

水平線はトレードの基本であるとともに、トレードする上での武器でもあります。水平線が引けなければどこからエントリーし、どこで決済するのか？全くわからない状態となるでしょう。

このレポートが皆様の相場の見方を変え、読者様のトレードにおける悩みを解消してくれるものと信じ、このレポートを執筆いたしました。

何度もよくお読みになって頂き、実戦で使用できるよう昇華し、必ず自分の武器としてご使用ください。それでは水平線レポート～ローソク足水平線分析論～を開始していきましょう。

2. 事前準備

このレポートに記載されている情報は、一週間の日足本数が 5本のMT4(メタトレーダー4)を前提に記載されております。必ずメタトレーダー4のご用意をお願いいたします。

MT4をご用意されていない方はこちらから準備することが可能です。
[FXトレード・フィナンシャル口座開設](#)

※MT4のインストール方法は下記のサイトにて解説しております。
[メタトレーダー4 PCインストール方法解説](#)

■特典インディケーターの導入方法

水平線をより深く理解するために特典インディケーターの導入をオススメいたします。以下はインディケーターの設定方法となります。

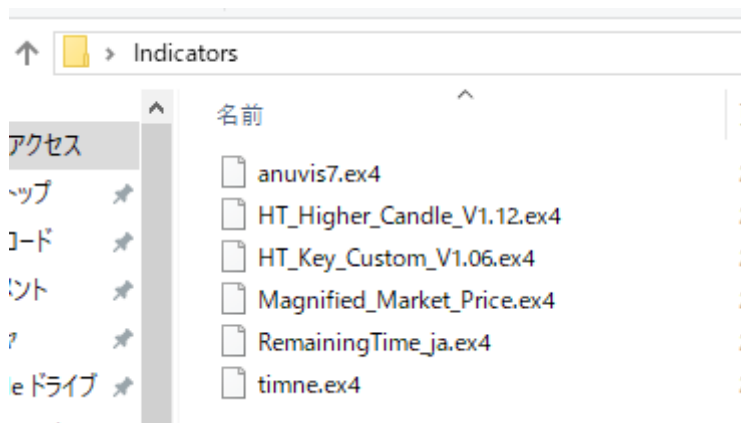
1.特典インディケーターのダウンロード
ダウンロードリンクは[こちら](#)から

2. インディケーターのインストール方法

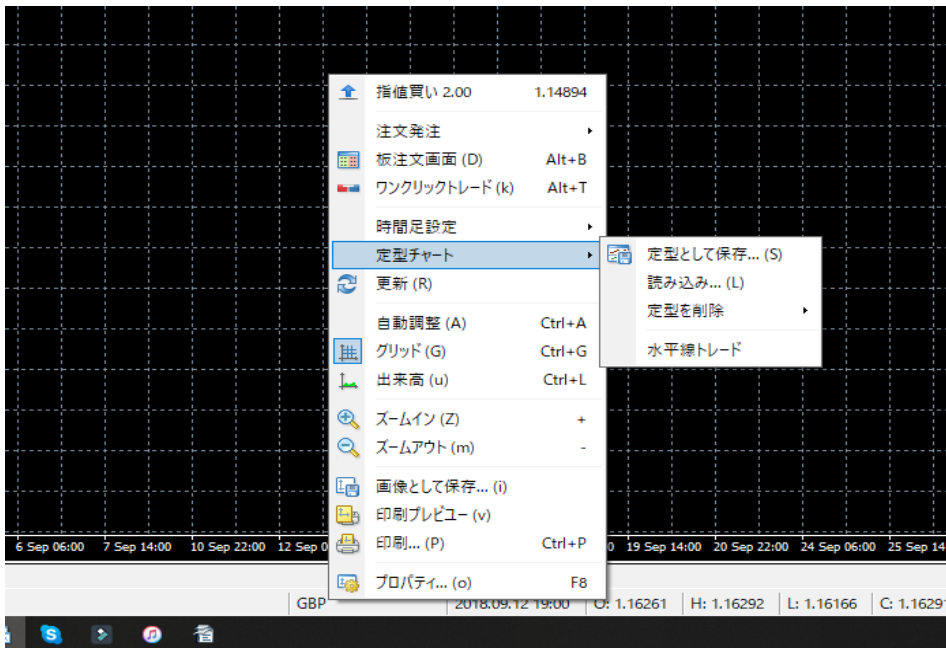
- ・MT4のメニュー「ファイル」から「データフォルダーを開く」を選択
- ・ダウンロードした2つのフォルダー内のファイルを指定のフォルダーへコピー

Indicators フォルダー内のファイル：MQL4→Indicatorsへ

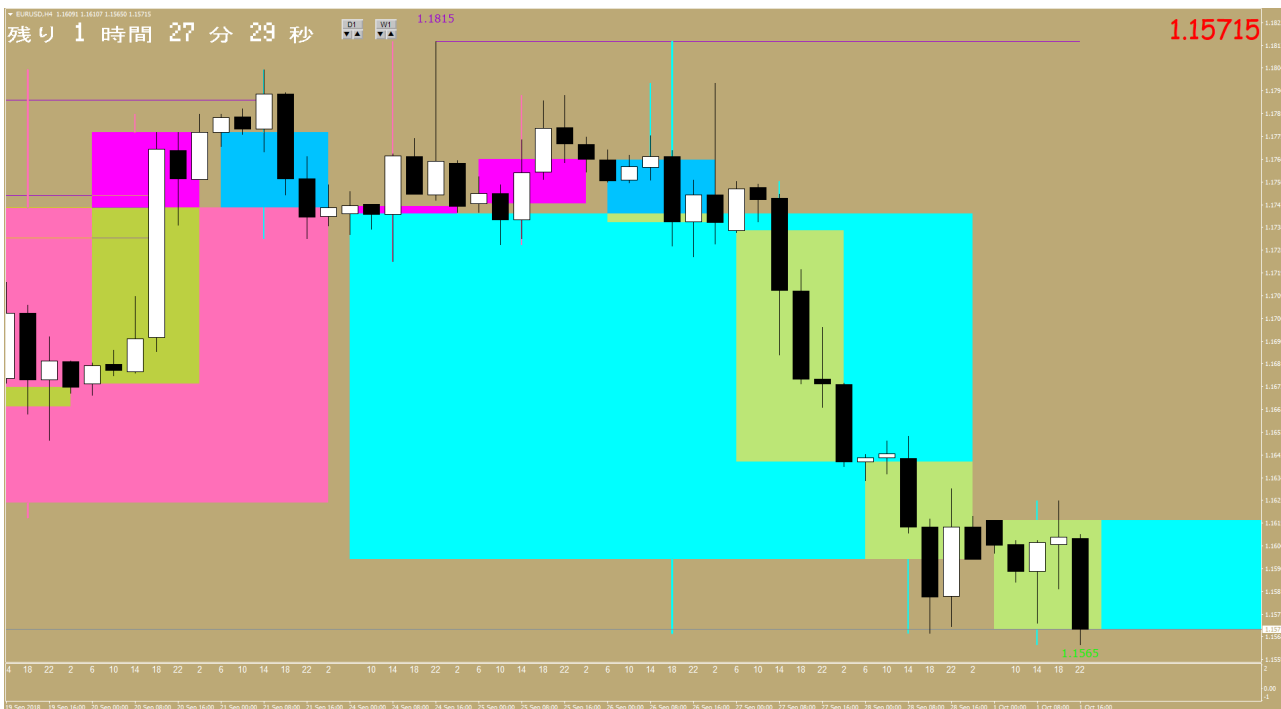
templates フォルダー内のファイル：templatesへ



3. チャートへの導入方法



- ・新規チャート上で右クリック→サブメニューから「定型チャート」を選択
- ・「水平線トレード」を選択



インストールが正常に行われていれば、インジケータが自動的に反映いたします。
左上の小さなボタン「D1」「W1」をクリックするとチャート背景に表示されている
長期ローソク足を表示非表示させることが可能です。

3. 水平線の基本

ローソク足水平線トレードを解説する前に、水平線の基本をおさらいしておきましょう。

■水平線を引く4つの目的

しんたろうのFX勉強会では、以下の目的のために水平線を引いております。

1. 気になる価格帯
2. スタート&ゴール
3. 波の規模を整えるため
4. 相場の領域を確認するため

水平線は、相場の参加者が注目しているポイントであり、神々が作り出した起点に対して引くように考えられております。

水平線付近は、相場のこれからの未来が話し合われているところとだけ思えば結構です。水平線を越えるのか？それとも反発するのか？水平線がチャートの方向性を分けていると言っても過言ではないのです。

水平線の基本は相場の高値安値の確認から始まります。1. **気になる価格帯**というのは相場の中で注目される重要な高値安値を指しております。どこの高値安値が重要視されているのか？相場環境認識を行い、事前に確認していくことが重要なのです。

2. **スタート&ゴール**は、トレードの始まりが水平線からスタートしているのであれば、次に注目する水平線がすなわちゴールとなります。水平線は言うなれば関所のような役目も持っていて、水平線から水平線までをトレードし、もし水平線で躊躇したり立ち止まったりすると相場の参加者は危険を察知してトレードを一旦中止し、観察を始めるのです。なので**ゴール付近でトレードすると大変危険**ということはいうまでもありません。

3.波の規模を整えるために水平線を活用することもあります。というのも水平線の特徴として重要な高値安値に対して水平線を引くことが出来るということは、相場の参加者も同じ高値安値を見ていることが分析からわかります。ということは波引きにおいて、チャートの波のカウントも整理されてきます。

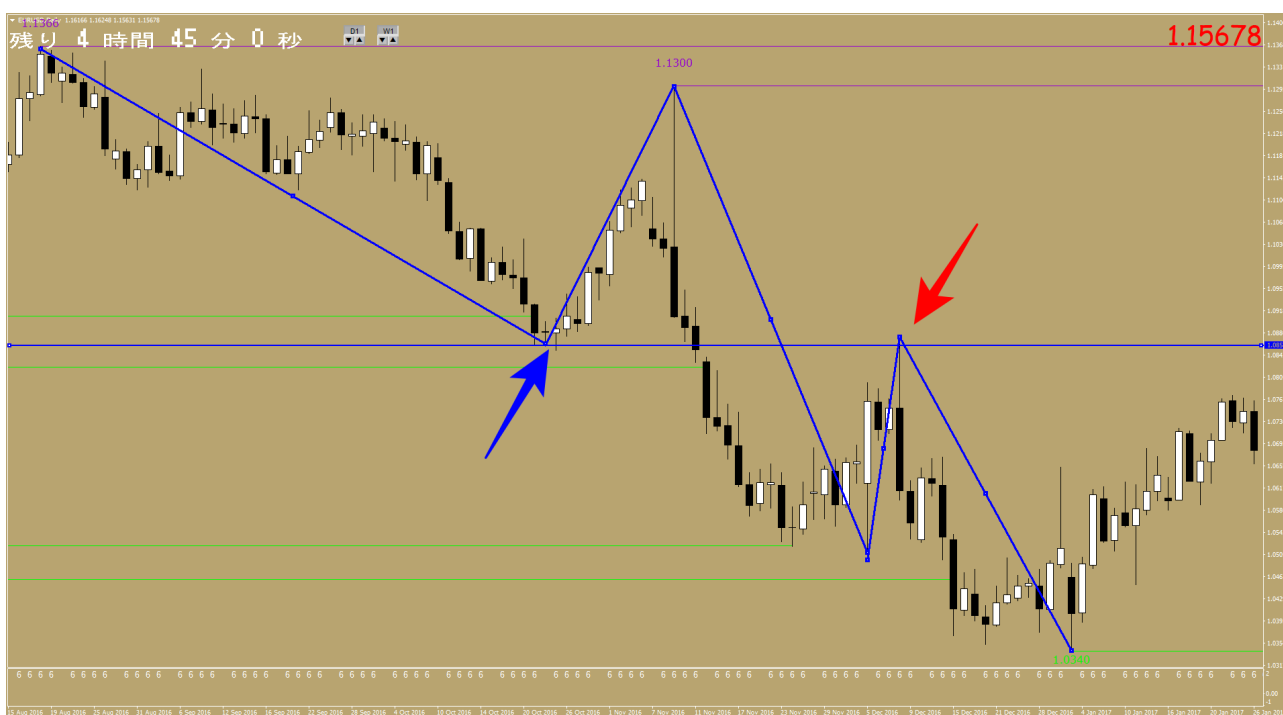
そうなると大、中、小という感じで三段階の波を引いているのであれば、重要な高値安値も三段階で分けて見る事が出来るため、将来水平線になる可能性がある高値安値なのかも、わかるということになります。

大の波の高値安値→大中小の波の高値安値で水平線になりやすい

中の波の高値安値→中小の波の高値安値で水平線になりやすい

小の波の高値安値→小の波の高値安値で水平線になりやすい

このことから波の規模がある程度推測することが出来ます。



波引きの目的は、チャートのノイズを減らし、重要な高値安値を露わにすることです。波引きをした際に、注目する高値安値で水平線が引けたのなら、その修正波は同じグループの中の副次的な波であることがわかります。

レバレッジがかかっている相場なので、正確な値幅を考えるのは難しいのですが、水平線が引ける相場ということは、相場の参加者が注目していた高値安値だったということがわかるので、相場の大きさや基準の波のサイズが私達、一般投資家へ伝わってくるのです。

最後に 4. 相場の領域を確認するためですが、これが 2. スタート&ゴールとも繋がるポイントです。

スタートとなる水平線からゴールとなる水平線までの領域を確認することによって、相場の支配者の領域も分かってきます。



上記のチャートの場合、売りの勢力に対して、買いの勢力が注目する水平線付近まで攻め込んだことがわかります。

しかし水平線付近の本命勢力に負けて再び売りの勢力が相場を支配しました。

ということは買いが攻め込めたのは水平線までで、水平線から上部は売りの勢力が支配している**絶対領域**だということがわかります。

しんたろうのFX勉強会ではこの絶対領域を「ゾーン」と位置付け、相場環境認識を行っているのですが、この絶対領域はかなり強いので、長い期間、領域を侵すものを許さないというように水平線に近づく参加者を押し返すという働きを持ちます。

皆様も自分の土地や庭に侵入者が現れた場合、追い払ったり警察を呼んだりしますよね？

相場の2大勢力である買いのグループと売りのグループは、私達と同じ人間ですので、自分が作ってきたエリアを侵略されるのは、どうしても避けたいと思うのです。



その後の相場ですが、水平線付近まで再び近づいても、水平線を越えることなく下落させられております。

このように高値安値から引ける水平線一本からでも分かる情報はたくさんあり、今回のように絶対領域を知ることにも繋がるということを覚えておきましょう。

水平線を引く目的は非常に重要な要素を沢山含んでおります。それは相場環境認識やエントリーポイントにも必要になってくる情報なので、まずエントリー前に水平線を引く癖付けを行って頂き、水平線を引く目的を忘れないように心がけてください。

それでは水平線の基本項目でもあるレジスタンスラインとサポートラインを解説していきましょう。

4. レジスタンスとサポート

FXの教科書と言われているものには、必ずレジスタンスとサポートのラインについて述べられております。

それだけこのレジスタンスとサポートに引ける水平線は大変な重要ツールということなのですが、レジスタンスとサポートの意味がわかっていない方も多いため、ここではレジスタンスとサポートの基本を解説していききたいと思います。



上記のチャートを御覧ください。水平線が矢印の高値安値で挟まれているように見えますね。

青矢印を抵抗線（レジスタンスライン）

赤矢印を支持線（サポートライン）

と呼びます。

ローソク足が**レジスタンスライン**で抑えられているように見えることから、その水平線に対して価格（レート）をこれ以上、上昇させない何か抵抗する勢力があったと考えられるので**抵抗線**と呼ぶのです。

逆に**サポートライン**では、上記のチャートの場合、水平線よりも上の価格で購入したいという参加者が多数いらっしまったということが分かります。

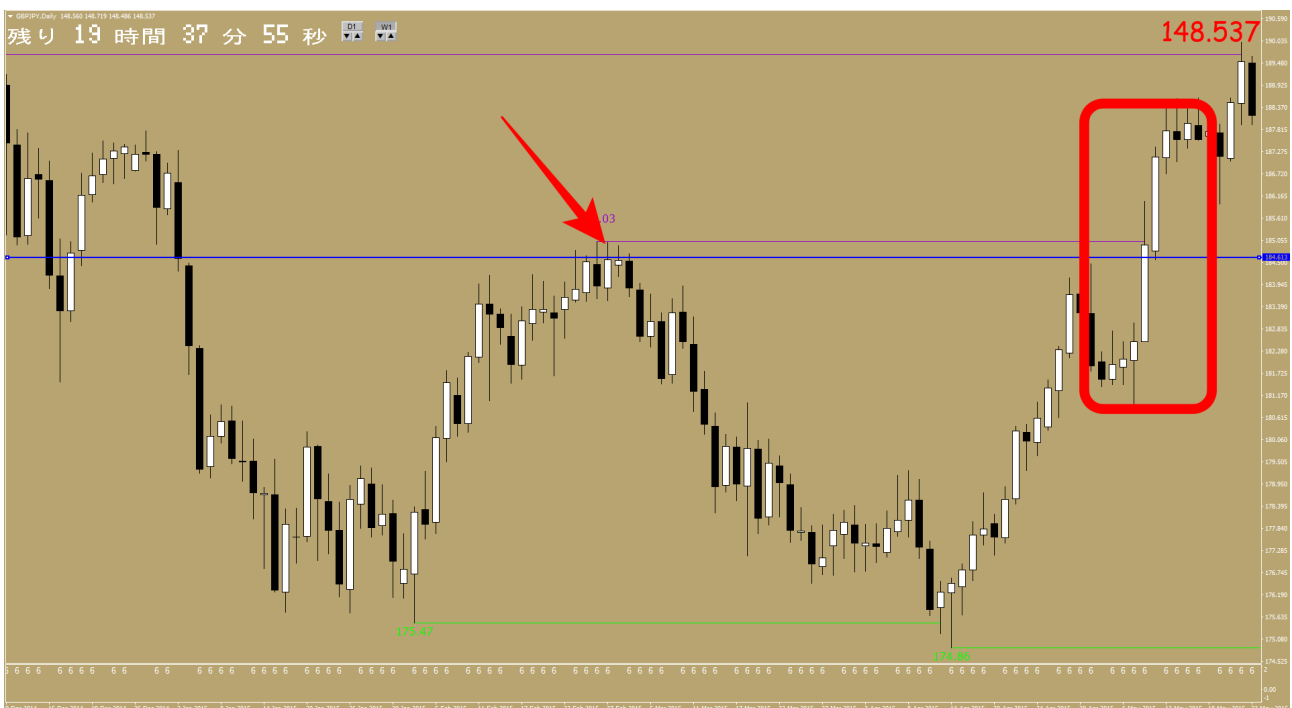
このラインを**支持線**と呼びます。

サポートラインの覚え方は、「トレンドを支持する」と覚えておきましょう。



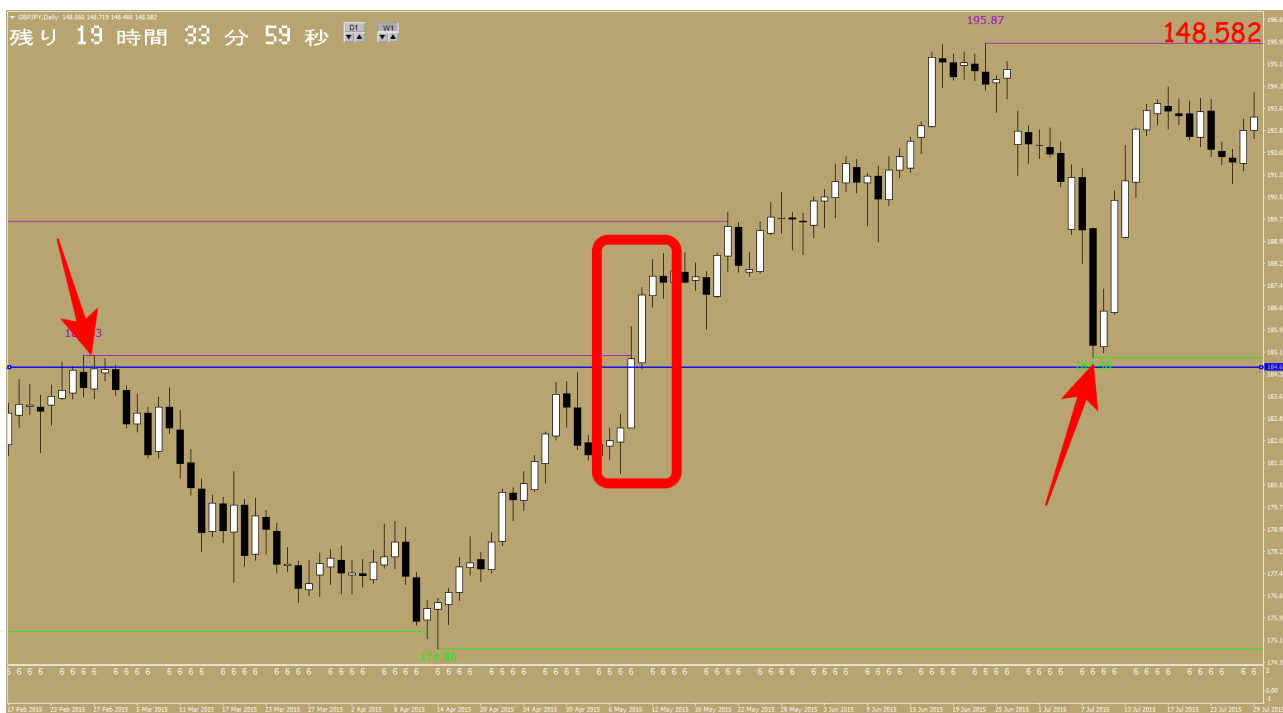
ダウントrend時のレジスタンスラインとサポートラインも確認しておきます。

このレジスタンスラインからサポートラインになる際、**ある条件**を満たすと水平線が引けることが分かるのですが、まずは下のチャートの赤枠を御覧ください。



こちらのチャートは、ダウトレンド中のある高値に赤矢印を記したものです。注目すべき箇所は赤で囲ったローソク足の部分なのですが、赤矢印の高値に対して勢いよく大陽線を形成し、注目する高値を更新しているのがよく分かります。

こういった値動きが発生すると、高確率でサポートラインが出現し、水平線が引けるのです。この後の動きを確認していきましょう。



勢いよく注目する高値を更新後、再び下落を見せ、左側の赤矢印付近の高値の価格までローソク足が戻ってきました。

一見すると水平線を越え、急激な下落を見せそうな相場ですが、水平線付近で止まり、再び価格は上昇することとなります。

では何故このような動きになるのでしょうか？

それは注目する高値安値を急激に更新する値動きを見せる相場は、その動きを見た投資家が、「再び同じ動きになるかも・・・」と考えているからに他なりません。

相場の参加者も私達と同じ人間です。

勝手な判断で無茶苦茶なトレードをするよりも、以前相場が同じ動きになったのを見てから真似をしてトレードしたほうが、何倍も良いと知っているからなのです。

そして大陽線や大陰線を出現させた参加者は私達一般投資家とは違う人達です。

注目する高値安値を更新させることが出来る人は、相場において絶対的な力を保有し、ト

トレンドの更新を決定できるだけの力を持っております。

ということは水平線になりやすい条件を予め知っておけば相場が反転しやすい箇所を知ることとなり、買いと売りのグループがどのような勢力図争いをしているのか知ることに関わり、私達のトレードチャンスが増えることにも繋がります。

しんたろうのFX勉強会では、以下の2つの箇所でレジサポラインが発生しやすいと解説しております。

レジスタンスライン&サポートライン・・・トレンド発生中に出現
サポートライン&サポートライン・・・トレンド転換後に出現

サポートライン&サポートラインは、しんたろうのFX勉強会特有の考え方ですが、今までサポートラインだと思っていた水平線が、トレンドが転換したことによって見方がわかると思っていただけでは理解できると思います。

レジスタンス&サポートラインが発生しやすい箇所を事前に知っておけば対応策も練られますが、注意点もございます。

それは必ずしもレジスタンスラインとサポートラインはペアではないということです。

水平線が引ける条件を満たしたとしても、必ずその価格がレジスタンス&サポートラインになる保証はどこにもありません。

なので自分勝手な判断だけでトレードをするのではなく、必ず水平線付近で反転するローソク足の値動きを確認した後で、ゆっくりトレードするくらいの余裕で相場を判断しましょう。

覚えることはたくさんありますが、ポイントを抑えることによってトレンドも分かりますし、相場の見方も必ず変わるはずです。必ず理解して自身のトレードに活かしてください。

5. 長期、中期、短期水平線

水平線は大きく分類すると3種類の水平線に分けられます。しんたろうのFX勉強会では、長期、中期、短期水平線に分類してトレードの判断材料として使用しております。



長期水平線

長期水平線は、長期間相場にさらされた高値安値に引く水平線。比較的大きな相場で見られる傾向にあり、殆どの参加者のゴールとして使われる水平線になります。

中期水平線

中期水平線は、短期トレード、主にデイトレードなどで用いられる水平線です。大量にポジションを保有している参加者が、ポジションを軽くするために使用する可能性が高く、中期水平線に到達すると、短期的な戻りが発生しやすいと考えられております。

短期水平線

短期水平線は、普段私達が、レジスタンスライン&サポートライン（以下：レジサポ）と言っている水平線です。レジサポが発生しやすい相場は推進波中であり、修正波のように複雑な動きをしている相場ではレジサポが発生することは稀です。なので短期水平線を確認できる相場は、トレンドの力が強い推進波ということが分かります。

長期、中期水平線は、その特徴から、**今すぐ使用してトレードするための水平線ではなく**、引けたとしても使用するのはかなり時間が経過してからに限定されます。

例えば、長期水平線をゴールとして考えた場合、先程のチャートでは、アップトレンドが終了し、ダウトレンドが形成されてからでないと、長期水平線をゴールとして見ることはまずありません。

なので相場においては最も重要な水平線なのですが、短期的なトレードでの使用では使いませんので、ご注意ください。

中期水平線も同様で、先程のチャートではアップトレンド時に中期水平線が作られていくのですが、こちらでもアップトレンドからダウトレンドに転換した際にトレードで使用され、大量にポジションを保有している参加者がポジションを軽くし、一旦の決済ポイントとして利用する可能性が高く、利益をある程度確定する場所として使用されます。

なので長期、中期水平線は今すぐ使用することはない水平線なので、価格が近づいた時に使用できるように準備だけは行っておきましょう。

私達が普段使用しているのは短期水平線です。こちらは最も使用頻度が高い水平線となっておりますので、短期水平線が必ずどんなチャートでも描かれているように日頃から意識してチャートを確認していきましょう。

もちろん長期、中期、短期水平線が分からなければトレードは出来ません！

さて長期、中期、短期と説明してきましたが、ここである疑問が生まれると思います。それは**どこの時間軸のチャートを基準にし、長期中期短期と判断しているのか**ということです。この判断をするためには自分が見ている時間軸が決まっていなければ話になりません。

短期だから1時間足じゃなければいけないとか、長期だから月足チャートを見なければいけないということではありません。購入者様がどの時間軸を自分のトレードの基準として使用しているかによって考え方は異なりますし、相場環境認識や波引きなどで、注目する高値安値は異なってきますので、まずは自分の基準となるチャートを決めることが肝心です。

しんたろうのFX勉強会では日足、4時間足を中心に話を進めておりますので、チャートに慣れるまでは日足、4時間足を中心に波引きを行い、高値安値を確認し動画や参考資料とともに比較していただければ問題はないと思います。

それでは、水平線が発生しやすい相場はどのような相場なのか確認していきましょう。

6. 推進波と修正波

水平線が発生しやすい相場はトレンドの力が強い推進波ということが分かっており、逆に水平線が発生しにくい相場は修正波ということもわかっております。

では何故、推進波に水平線が発生しやすく、修正波に発生しにくいのでしょうか？その答えを解説する前に、まずはこちらのチャートを御覧ください。



こちらのチャートは、アップトレンド時のチャートの一部なのですが、見事なレジサポになっておりますね。

赤で囲った部分もしっかり大陽線を形成し勢いよく注目する高値を更新されており、サポートラインも出現しているのがよく分かります。

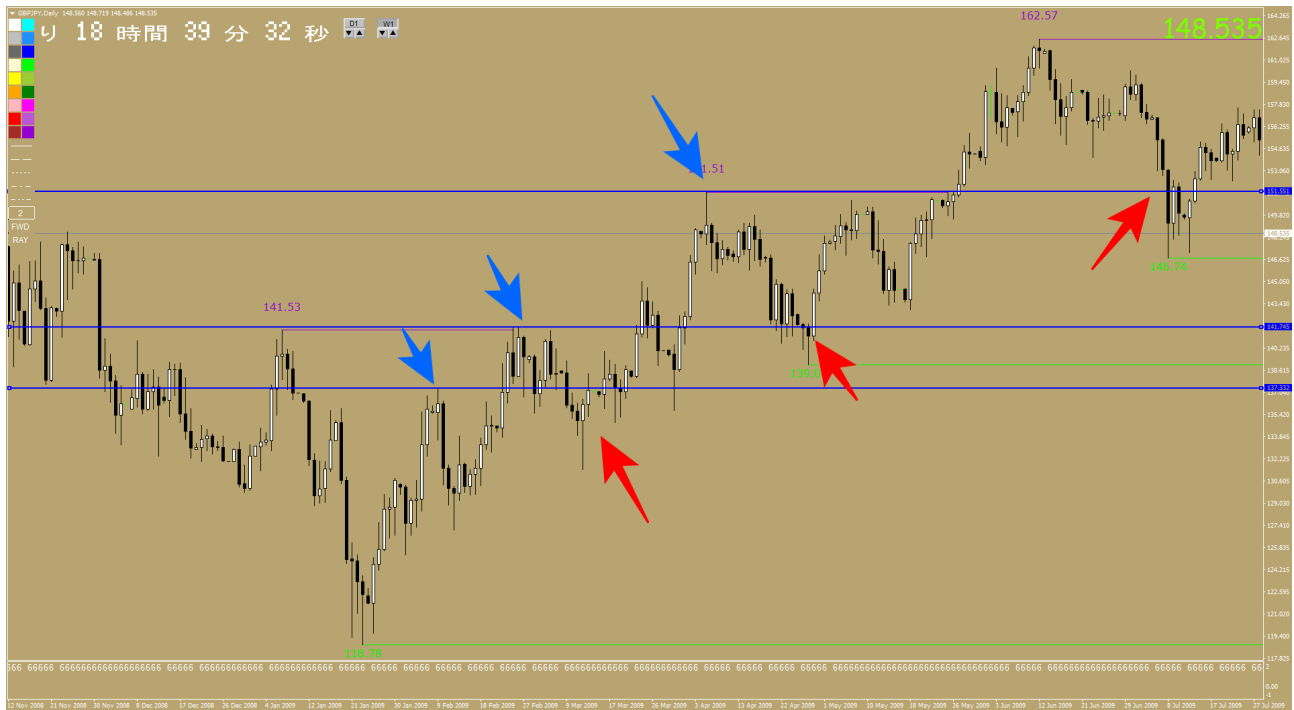
相場の参加者は、赤枠の勢いよく更新する動きを前回確認しておりますので、再び同じレートに戻った際に「また同じ動きになるのかも」と購入の準備を始めたに違いありません。

ということは「また同じ動きになるかも」と思っている相場は、更に上昇することを意味し、上のステージへ移行することを相場の参加者は既に知っているということではないでしょうか。

なので推進波で水平線が多数出現する理由は、相場の参加者がまだ相場が動き、上

のステージへ移行することを予め知っているから水平線付近で購入するとも言えるのです。これは非常に重要な情報です。

それでは修正波ではどのように水平線が見えるのでしょうか？



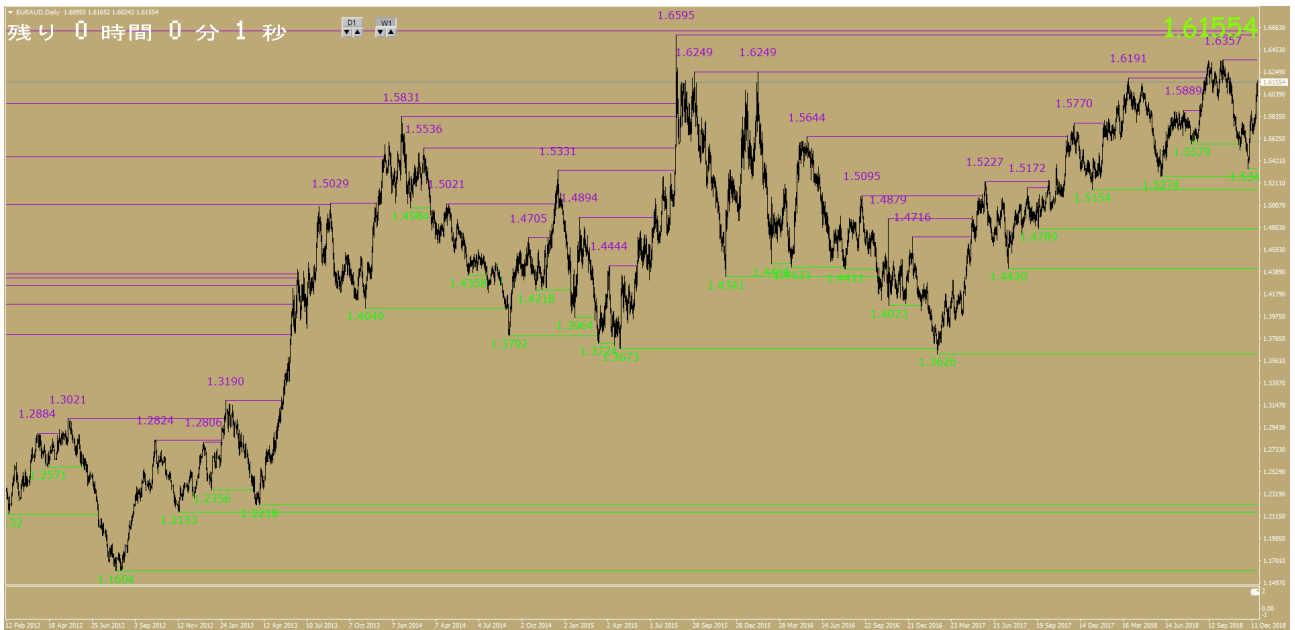
このチャートは修正波の中に一部分にレジサポとなる水平線を引いたものです。

修正波の中の注目する高値に対して水平線を引いてみましたが、赤矢印付近を確認していただくと分かる通り、殆どのポイントでサポートラインを割ってしまい、サポートを下回ってから、再び上昇するのがわかります。

更に注目する高値を更新する付近では勢いよく更新しているローソク足が見えず、かなり迷いながら更新しているようにも見えます。

ということは相場の参加者が修正波ということを知りながら、価格が上昇することに迷っているのではないかと、この可能性がチャートから読み取れるのです。

相場の参加者が迷うということは、相場がこれ以上動かない、もしくはこの後の相場の動きを既に知っているからポジションを売買し保有する必要がないと考えている可能性は十分にあります。現にこの相場はその後、下落を見せているのです。



こちらのチャートは2018年頃のEURAUD日足チャートです。

長期的に見ても水平線が引きにくいことは分かると思いますが、長期足がかなり迷っている状態であれば短期足に落とし込んでトレードするのはかなり無理があるとしんたろうは考えております。

相場において水平線が引きにくい箇所は**修正波や相場に迷いがある時**と覚えておくと、やらなくても良い相場を回避する事に繋がり、チャンスをしっかり待つことが出来るようになるだけではなく、大切な資産を守ることに繋がってきます。

まずはしっかり水平線が引ける相場なのか確認し、トレード回数を減らしチャンスが来るのをしっかり待てるようになってください。

実際のトレードでは**買い、売り、休む**を徹底して行わないとローソク足の動きに翻弄される博打トレードになってしまいます。

何度も言いますが水平線を用いて、しっかりチャンス相場が来るまでひたすら待ち続けることがトレーダーの重要な仕事と心がけてください。

7. ローソク足の基本

ここまで水平線の基本を学習してきましたが、水平線の重要性が少しわかってきましたか？

水平線が引けないとマズイ！！と感じていただければいいのですが、でもどうすれば水平線をより深く理解できるようになるんだろうと疑問に思っている方も少なくないと思います。

しんたろうのFX勉強会では、水平線の基本だけ知っていても不十分と考え、満足のいくトレードは出来ないと考えております。

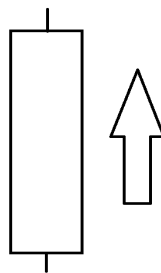
エントリーを行うためには、更に詳細なローソク足レベルの水平線も理解し、チャート上に描けなくてはなりません。

今までは波に対しての水平線を中心に考えてきましたが、エントリーでは波の大きさを水平線を考えてしまうと見ている規模が大きすぎるため、そこからの落とし込みが難しく、どこがエントリーポイントなのか考えるとなると初心者にはトレードチャンスが減ってしまうように感じるはずです。

なので波の水平線も考慮しつつ、ローソク足レベルの水平線も同時にチェックしていかなければエントリーポイントを見つけるのは不可能だと断言させていただきます。

でも水平線の基本を知っていれば、何とか勝てるのでは？とここまで説明していても思っているかもしれませんね。ですがローソク足レベルの水平線を理解するとそのような考え方は意味がないと気がつくはずですよ。

ではローソク足レベルの水平線とはどのようなものなのでしょうか？それを知るためにはまずローソク足の基本を知る必要があります。この図のローソク足を御覧ください。



このローソク足は陽線です。矢印の方向へ動いているのがよく分かりますね。

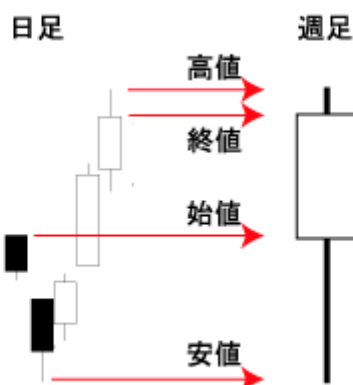
私達が見ているチャートは全てローソク足が始値からスタートし、終値でクローズしたものです。過去チャートも全てクローズした後のローソク足の痕跡を確認しているに過ぎません。

ということは始値付近から、すべてのローソク足がスタートしているということは、始値付近に神々がいて、その神々がローソク足を作り出し成長させていることが分かります。

神々のような巨大な資産を使えば、ローソク足を作り出すことも出来ますし、ローソク足の色を変えることも出来るはずです。

私達一般投資家はローソク足の始値の重要性をもっと深く知らなければいけません。始値だけチェックしておけばいいのでは？と思うかもしれませんが、実際はその始値の本当の意味を深く知ることが重要なのです。

始値の意味も知らず、かなり重要な情報がたくさん含まれるポイントになっていることも分からない方が殆どなのが現状なのです。



更にローソク足を知りチャートの右側を考えるには、難しい技術や知識も要求されます。

動いている最中のローソク足の始値を考えるのは、ベテランのトレーダーでも難しく、経験や高等技術が必要で陽線の始値だと思っていたものが陰線の始値に変わることだってローソク足では日常茶飯事です。

1時間や4時間足の始値を考え判断することは、トレードにおける経験値も必要で大変難しい作業ですが、長期足ではある程度ゆっくりローソク足が動いておりますので、始値を狙うこともある程度可能です。この詳細情報は **12章長期足ローソク足の始値** でご説明したいと思います。

短期 < 長期

※トレンド力は時間軸によって異なる

長期ローソク足の始値ともなれば、どの参加者でもチェックしている重要なポイントでもありますし、ボラティリティーも短期より長期のほうが強いことは明白な事実です。

なので長期ローソク足の始値や長期ローソク足の高値安値を知ることは、ローソク足レベルで水平線を引く際の重要なポイントにもなります。

相場環境認識は必ず長期足から確認するように勉強会では徹底しておりますが、それは長期足に神々が鎮座し、お金持ちは長期足の動きを逐一チェックしているからに他なりません。

神々が長期足にいたのであれば、私達一般投資家が長期足の動きを無視してトレードすることは危険性が増すだけではなく大切な資金を失うことにも繋がります。長期足を確認したことがない方は、今一度確認されたほうが良いと思います。

なので長期足チャートで目立っているローソク足は世界中のトレーダーが確認しているポイントだと言えるのです。

それではローソク足の基本が少しずつわかってところで、皆様をFXのもっと深いところまでお連れしたいと思います。

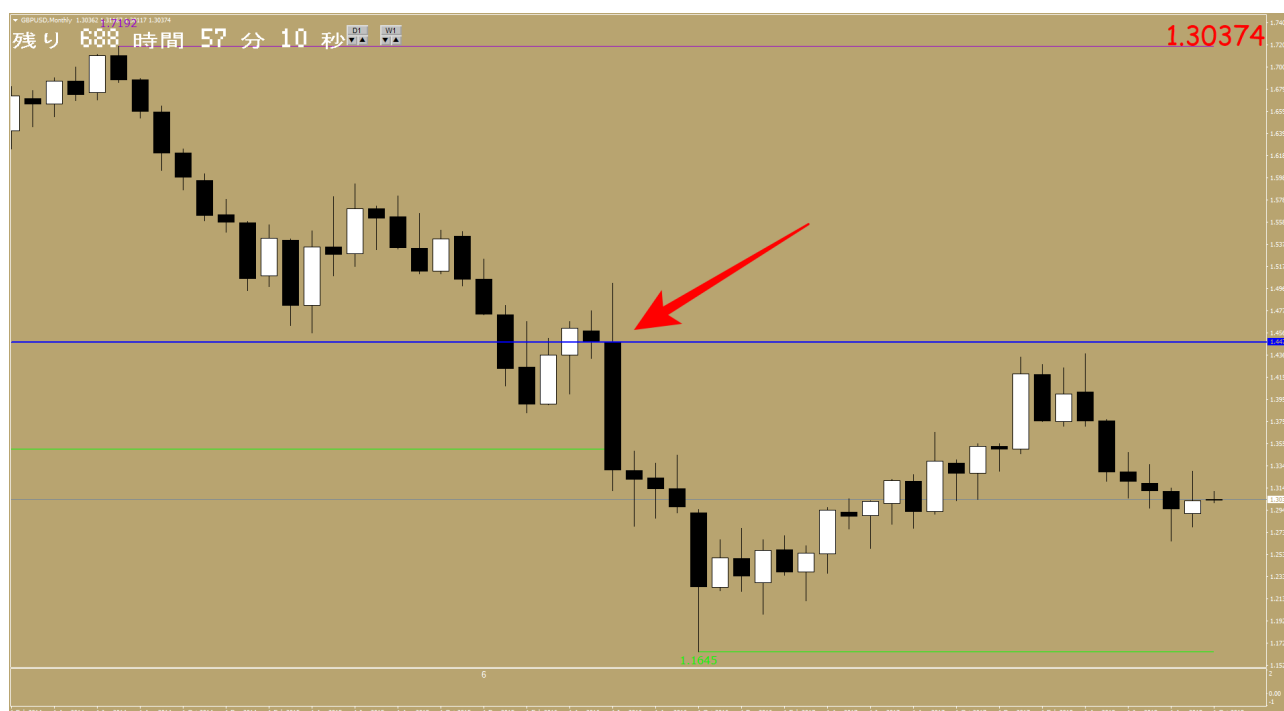
次の章では、ローソク足レベルの水平線を引くポイントを幾つかご紹介したいと思います。

8. 大陽線と大陰線の始値

ローソク足レベルの水平線を描く際、最も重要なポイントの一つが大陽線や大陰線の始値に引く水平線となります。

特に長期足（月足、週足、日足）に出現した大陽線や大陰線に引く水平線は使用頻度も高く、重要なポイントになりますので、必ずチェックしておきたい箇所です。

それでは具体例をチャートで確認していきましょう。



こちらはGBPUSD月足チャートです。注目すべき箇所は赤矢印のローソク足の始値です。このローソク足が出現した後、かなり下落しているのが分かりますね。

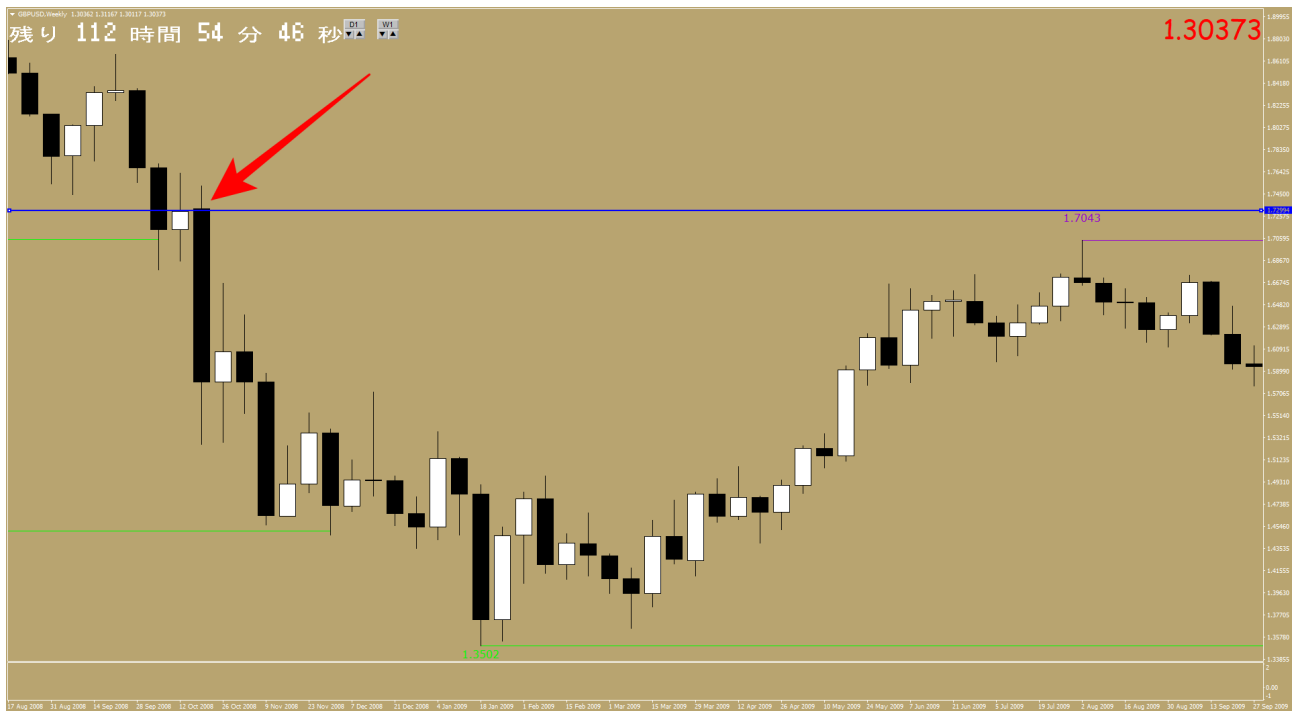
その後、赤矢印の始値水平線付近まで相場が一旦戻りますが、水平線付近で再び下落しているのがわかります。

ということは相場の参加者が大陰線の始値に対して、何かしらの「判断」を行い、売りポジションを更に持った可能性があるということです。

チャートの中で、大陽線や大陰線はかなり目立つ存在です。どんな相場の参加者でも必ずチェックし、その注目する価格付近を注目しているのではないのでしょうか？

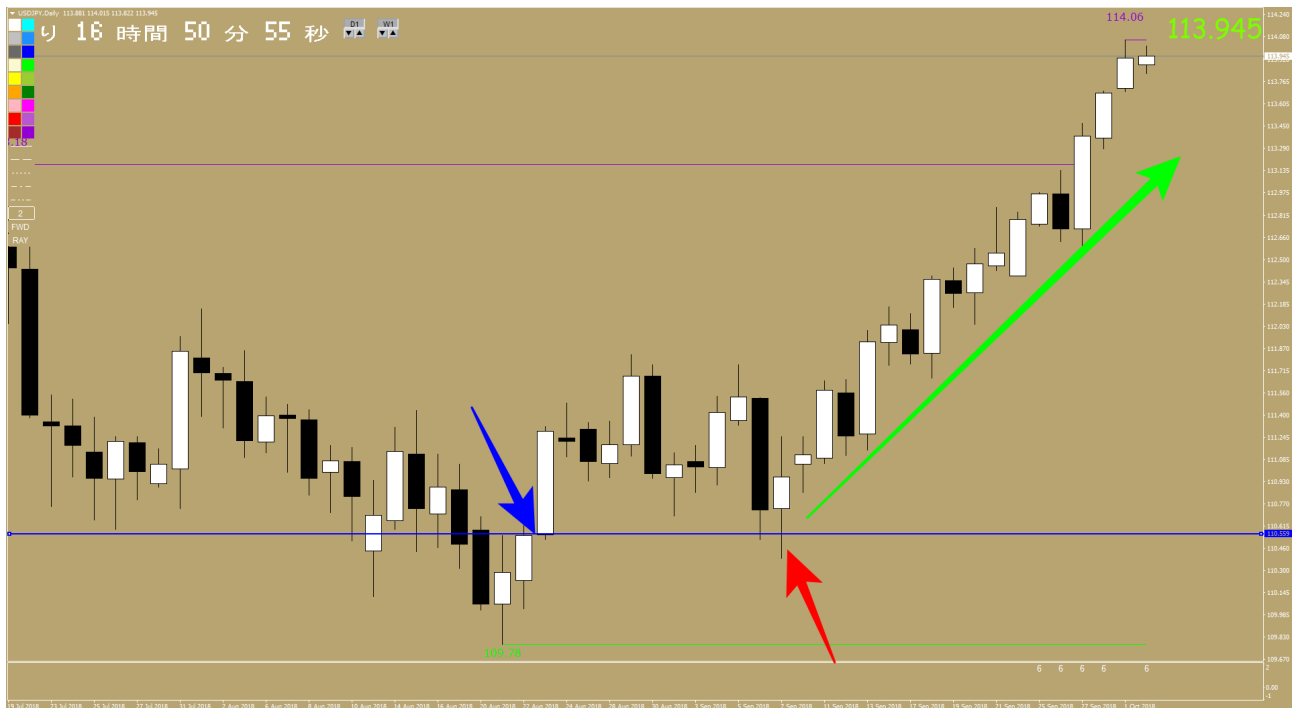
ローソク足のスタート地点でもある始値は、相場の参加者の大多数が確認している

箇所という可能性は大いに高いと思われますので、長期足の始値はローソク足レベルの水平線を引く絶好のポイントとも言えるのです。



先程の月足チャートから週足チャートに変更しても、大陰線の始値付近を相場が意識していることがよくわかります。

なので月足、週足、日足で大陽線や大陰線を作り出している相場を、いち早く察知し、始値に水平線を引くことができれば、相場の見方も変わりますし、どこまで待てば良いのか？どこがチャンスなのかを知ることも可能です。



ローソク足の始値に水平線を引くメリットはまだあります。注目しているローソク足の始値に対して向かってくる反対勢力のローソク足の値動きや、どこへ向かうつ

もりなのかという考え方がよくわかる点です。

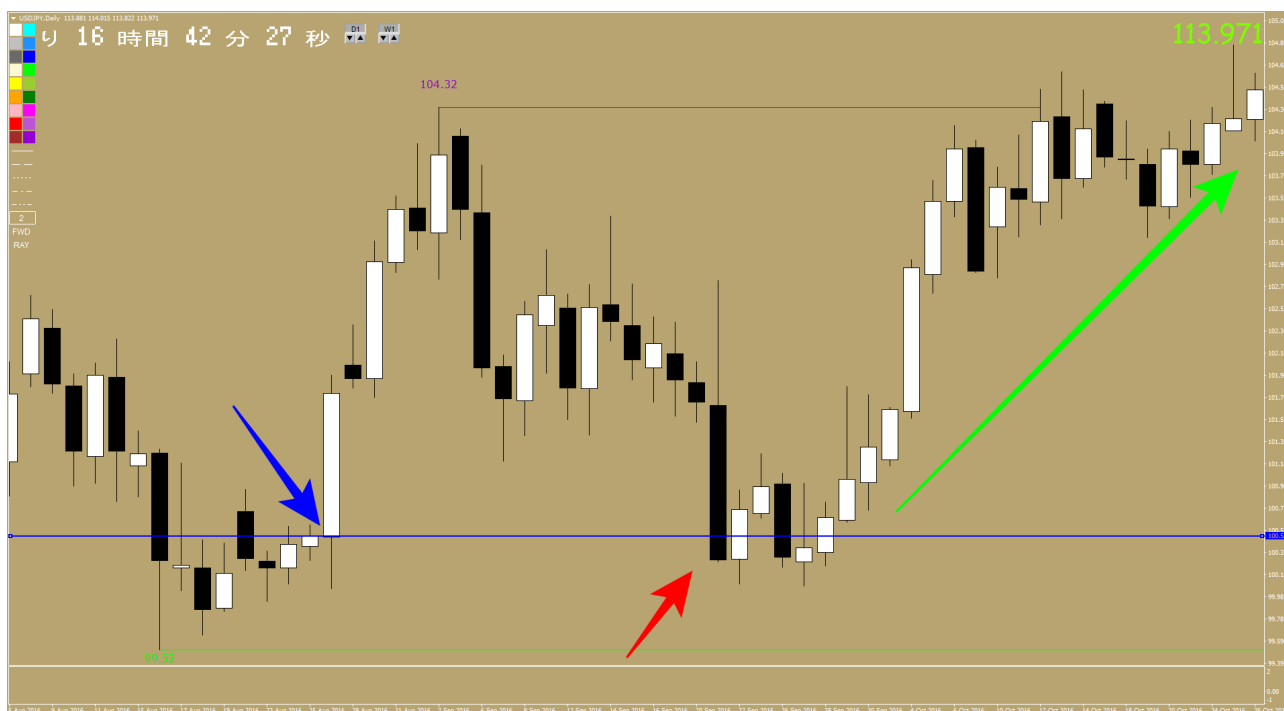
先程のチャートのように注目する大陽線の始値に対して、反対勢力が攻め込んできましたが、大陰線まで作っても結局、注目する大陽線の始値を負かすことが出来ず、そのまま相場は、急激なアップトレンドへと変貌しました。

相場は意外と単純な考えで動いているので、神々の作ったローソク足の始値を反対勢力が負かすことが出来ないと判断されれば、逆の勢力が弱いということが相場の参加者に知れ渡ります。

相場は現在、安全に購入することが出来る相場として認識され、大多数の参加者は勢力が強いと判断されたグループ（メイントレンド）へ賛同し動くことになるのです。

このように始値に水平線を引くとローソク足のプライスアクションをいち早く捉えることも可能になります。

では注目するローソクの始値を反対勢力が越えてしまった場合はどうなるのでしょうか？実際のチャートで確認してみましょう。



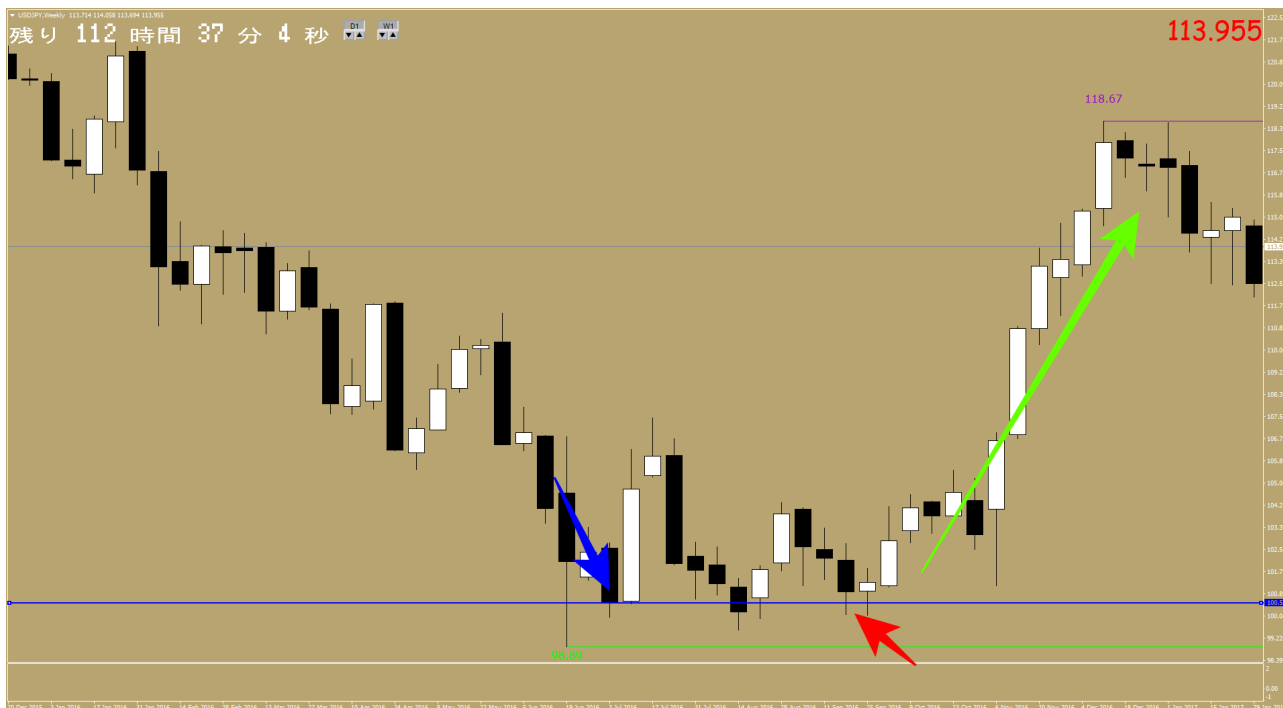
このチャートでは、注目する大陽線の始値に水平線を引いて、反対勢力が注目するレート付近まで戻ってくるのを待っていたのですが、反対勢力の大陰線に負かされてしまい、大陽線の始値は弱いということが分かってしまいました。

しかし相場は、そのまま上昇しアップトレンドへと変化しております。このような

ケースの場合、どのように考え対応すればよかったですのでしょうか？

普通であれば、注目する大陽線の始値を負かしたのですから、そのまま下落するのではないかと思いますよね？

これは皆様が注目している時間軸のチャートではなく、上位のチャートの参加者の考えが出てきていることを表しているのです。



先程の日足チャートを週足チャートに変更してみました。左側に何だか気になる大陽線がありますよね。

その始値に水平線を引くと上のチャートのようになり、赤矢印あたりで反応していることが分かります。

ポイントは自分が見ているチャートが相場の全てではないということを常に考えることが重要です。

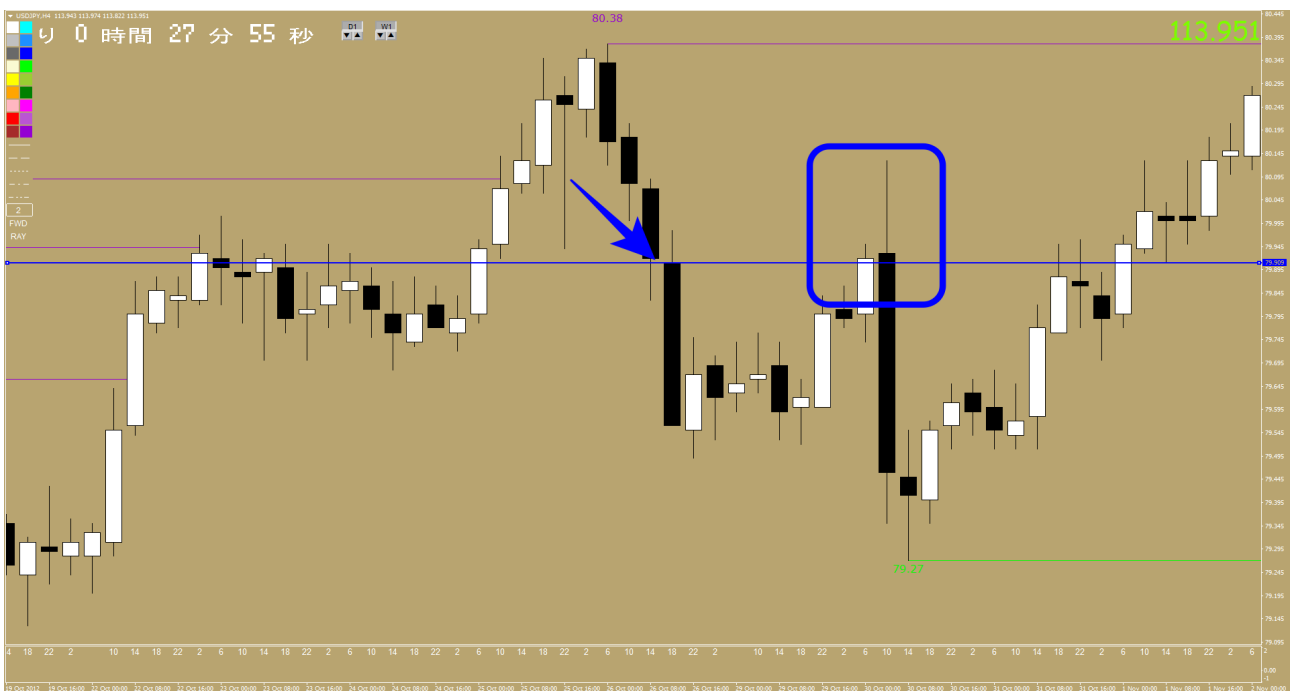
先程のチャートでは、始値付近の水平線を更にはみ出す、陰線があつたりしますので、更に上位足を確認してみましょう。



月足チャートを確認したところ、どうも相場の参加者が気になっている水平線に当たっていることがわかりました。

太陽線の始値だけでなく、相場全体の動きや気になっている水平線を見つけると赤矢印の付近の考え方もよく分かってくると思います。

特にレバレッジがかかっている相場なので、正確な精度で水平線が出るほうが珍しいのですが、はみ出しても「もしかしたら・・・」と上位足を確認するだけでも十分な情報を掴むことは可能なはずです。



初心者が多い行動として、大陽線や大陰線を負かした反対勢力のローソク足が出現すると、すぐにポジションを持ってしまう方が多くいらっしゃいます。先程のチャートでは、青矢印の大陰線の始値を、青枠の中の陽線が負かしているように見えますね。

でも実際には再び、大陰線が出現し、相場は下落することになりました。大陰線の始値を負かしたのだから、相場は上昇するはず！！と思い込んでいた方は大負けしているかもしれません。

この相場では見落としているポイントがいくつかあります。

1. 波を作っていない（波を打っていない）
2. 上位足を確認していない
3. 波のカウントを行っていない

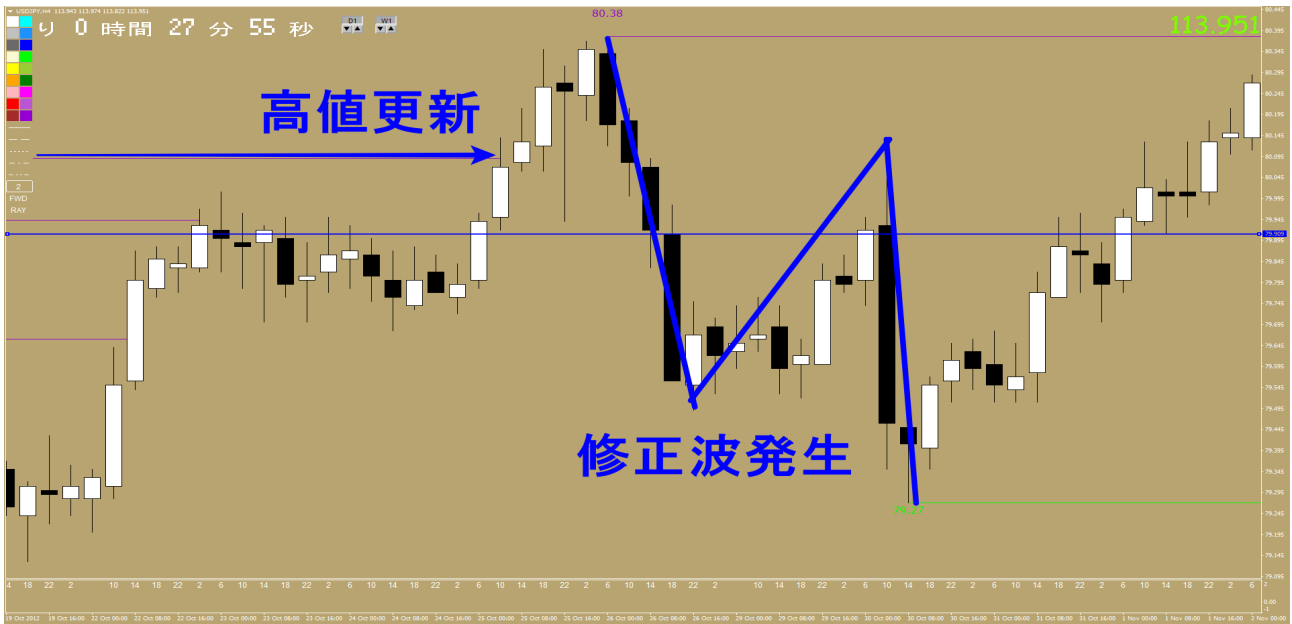
最低でもこの3つの情報を確認しなければ水平線を理解し実戦でトレードすることは出来ません。まず波を引いて波を打っているのか確認してみましょう。

波を打つというのは、自分が考えている波の中に高値安値を表している修正波（押し安値や戻り高値）を確認することです。

推進波は5波になりやすく修正波は3波で構成されやすいという特徴を考えると、**どんな相場でも最低3つの波で一つの波を構成している**ことがわかります。ですがこのチャートはまだ波を打っていない相場だということが直近のチャートを見ればよく分かります。

しかもどこかの波の高値を更新した後に下落してきた相場だということもチャート上部を見ればわかりますので、今現在、自分は大きな修正波の中の修正波にいるということが波を見ても分かると思います。

6章、推進波と修正波でも学習しましたが、修正波の中では水平線を引こうと思っても引きにくいということも解説しました。これはローソク足レベルであっても出現する波が修正波であれば同じことが言えるのです。



このチャートの場合、修正波が完成してから、大陰線の始値に水平線を引き始めることが肝心です。

もっと相場全体を確認し、今、自分がどの波の中にいるのか確認し、大きなローソク足の始値がどこにあるのか？気になるポイントに水平線が引けるのか？納得がいくまで確認することが重要な水平線を見つける鍵となります。



その後のチャートです。

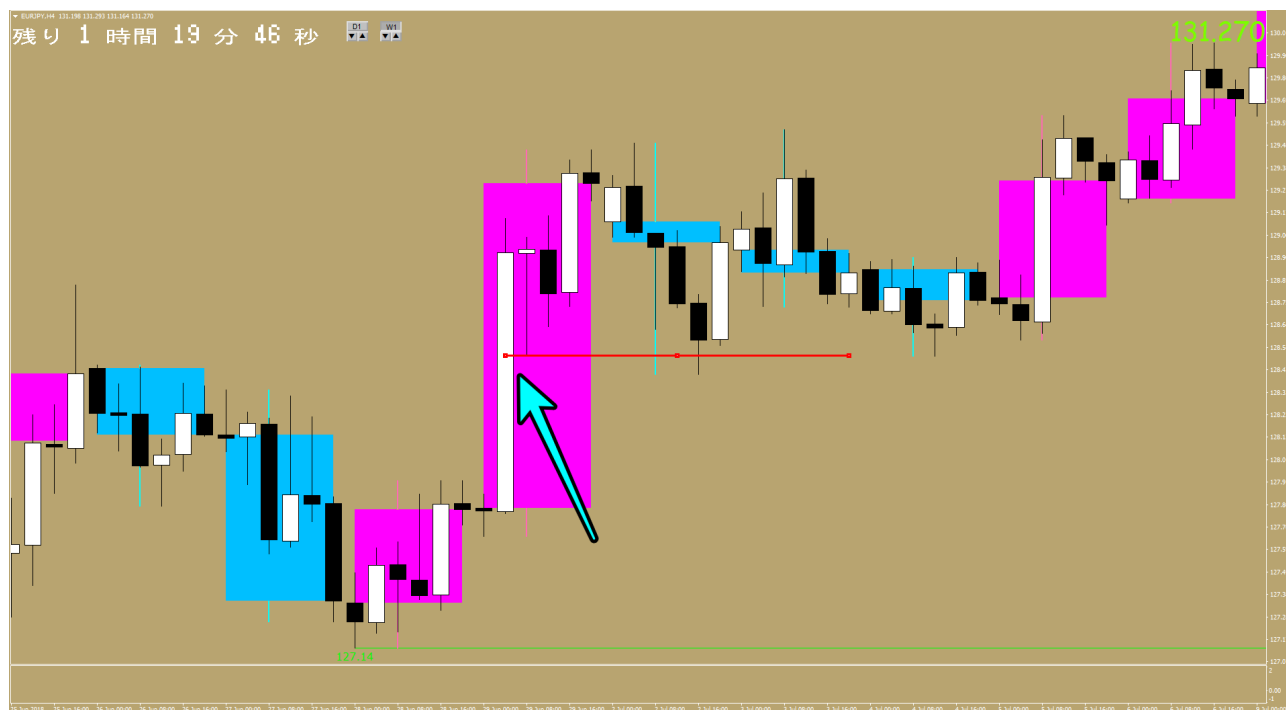
しっかり水平線が引けるポイントになっておりますね。水平線が引けそうと安易に考えるのではなく、必ず相場環境認識を行ってから水平線を引くように心がけていきましょう。

次は更に特殊なローソク足が教えてくれる水平線の見方ができるポイントをお教え致します。

9. 特殊ハラミ足

この特殊ハラミ足という用語はしんたろうのFX勉強会で作られた俗語になります。その内容は、ブログ内にも記載されていない内容になりますので、レポート限定の情報となります。

まずはこちらのチャートをご覧ください。



中央の水色の矢印に注目してください。

大陽線が出現したあとに下ヒゲが長い唐傘のようなローソク足が出現しているのがお分かりになるでしょうか？

これは特殊ハラミ足と勉強会では呼んでいて、大陽線や大陰線が出た後に、一旦戻るが、押し返されるローソク足の高値安値に対して引く水平線です。

上記チャートのように、周りのローソク足と比較しても比べ物にもならないほどの大きさの大陽線が出現するものの、次に発生するローソク足が、大陽線大陰線の中腹くらいまで攻め、それでも押し返されるローソク足に対して引くことが出来る水平線となります。

この水平線の有効な点は、上記のチャートのように水平線付近を相場の参加者が起点（支点）にする点です。

相場の参加者は、大陽線大陰線が出た後は、何も基準とする高値安値が見つからないので、「どこかを高値安値にしたい」と考えております。

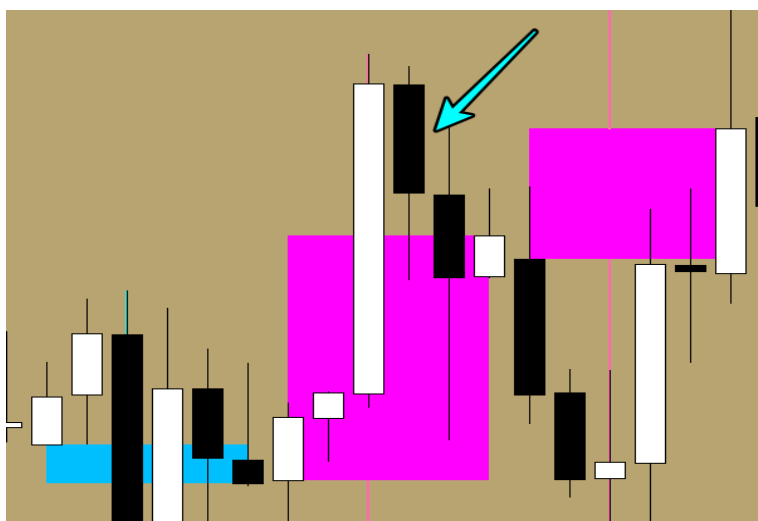
そのヒゲ先を背景にトレードを行っていくのですが、損切りを設定する場合もあって、利用される頻度が高いポイントなのです。ですので大陽線大陰線の次に出現するローソク足に水平線を引くことは重要であると言えます。

この一旦戻るローソク足を利用して、無秩序と思われる相場に土台（基盤）を作ります。

先程のチャートも二番目に出現するローソク足の安値に水平線をあてると、相場は再び下落してくるのですが、水平線を引いた付近で止まっているのが分かります。大陽線に対して、ここまでは許すけど、その先の領域は許さないと警告していることから大陽線がいかに相場の参加者に影響を与えているかということが見て分かるのです。

もちろん注意点もございます。ここで勘違いしてほしくないのが、類似チャートです。この形は似ているものが数多くありますので間違いやすく勘違いをしたままトレードを行ってしまうと損害を被ってしまいます。間違えないための例題を出題します。

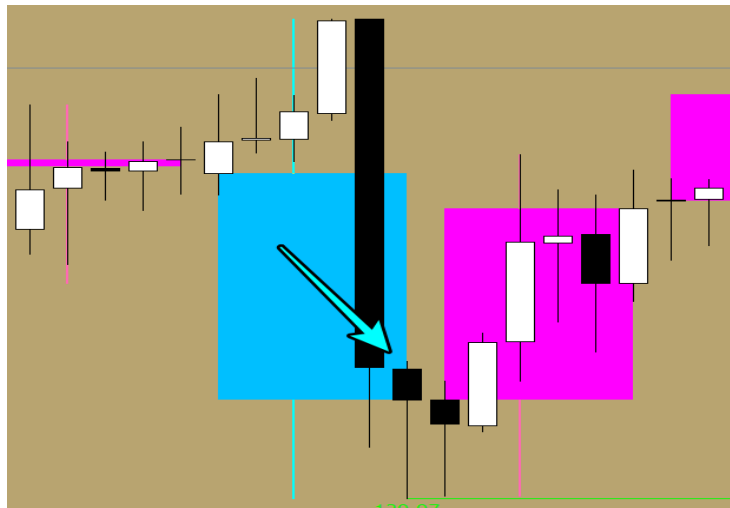
間違いやすいパターン①



この場合は大陽線の次のローソク足は陰線になっており、押し戻されることなくそのまま陰線で確定しております。

もちろんこのあと上昇すれば特殊ハラミ足になる可能性はありますが、陰線で確定している以上、押し戻されるよりも休む相場となっており迷っていることは間違いありません。

間違いやすいパターン②



水色の矢印に注目していただきたいのですが、押し戻すローソク足のヒゲが短いのが分かります。

この短いというのは特殊ハラミ足にならない可能性を秘めているのです。それは何故かと言うと押し戻す参加者がいないということです。

参加者がいないということは反対勢力が全く参加していないかもしれません。もちろんこの箇所ではトレードを控えて様子見をしている箇所かもしれません。どっちにしろトレードするには都合が悪いところでもあります。

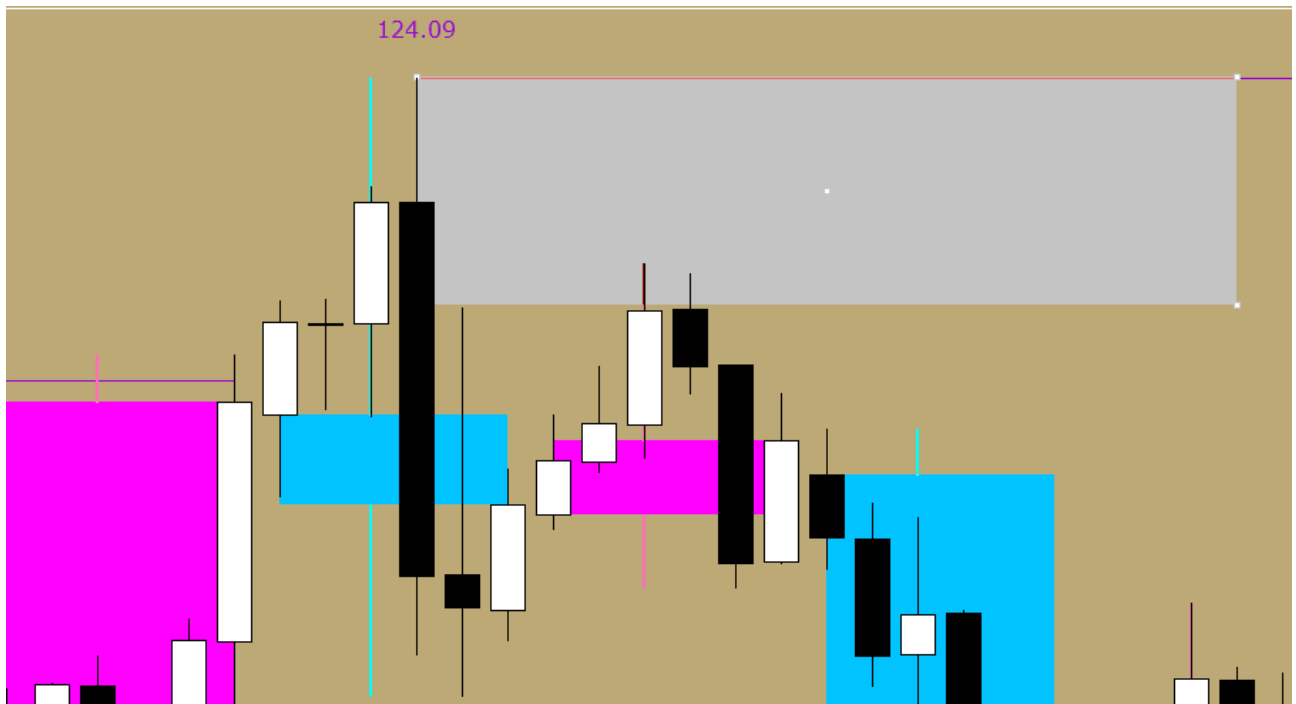
ではどのくらいヒゲが長ければいいの？という疑問が出ると思いますが、長ければ長いほど支点になりやすいとだけお教えします。

というのもパーセントで測れる世界ではないということです。

全てを数字で表すことはレバレッジがかかった為替相場では無意味だということです。

ただ大陽線大陰線に対して戻るローソク足（ヒゲが短すぎるローソク足）の考え方は2つしかなく、大陽線大陰線の勢力が強いのか、それともこれ以上ポジションを持つ必要がない箇所なのか？という二点だけです。ということは私達は短いローソク足の出現とともに撤退し、傍観と観察を行う必要が出てきます。

しんたろうのFX勉強会でも、大陽線大陰線の次のローソク足はしっかり待つ！ということルール化し徹底しております。動きすぎた相場は危険なので、その後にトレードすることがないように注意が必要です。



特殊ハラミ足の考えはゾーンの考え方から得たものとなっております。

ゾーンは神々が鎮座している領域を視覚化した理論なのですが、ローソク足レベルでもゾーンは存在します。

大陽線大陰線出現後の次に出現し戻ってくるローソク足で大陽線大陰線が作り出した領域に侵入するのですが、それでも押し戻され長いヒゲを作るローソク足があるのであれば、そのヒゲ先が今後の相場の基点となり、ローソク足レベルの修正波（押し安値、戻り高値）の終点を教えてくれる水平線でもあるのです。

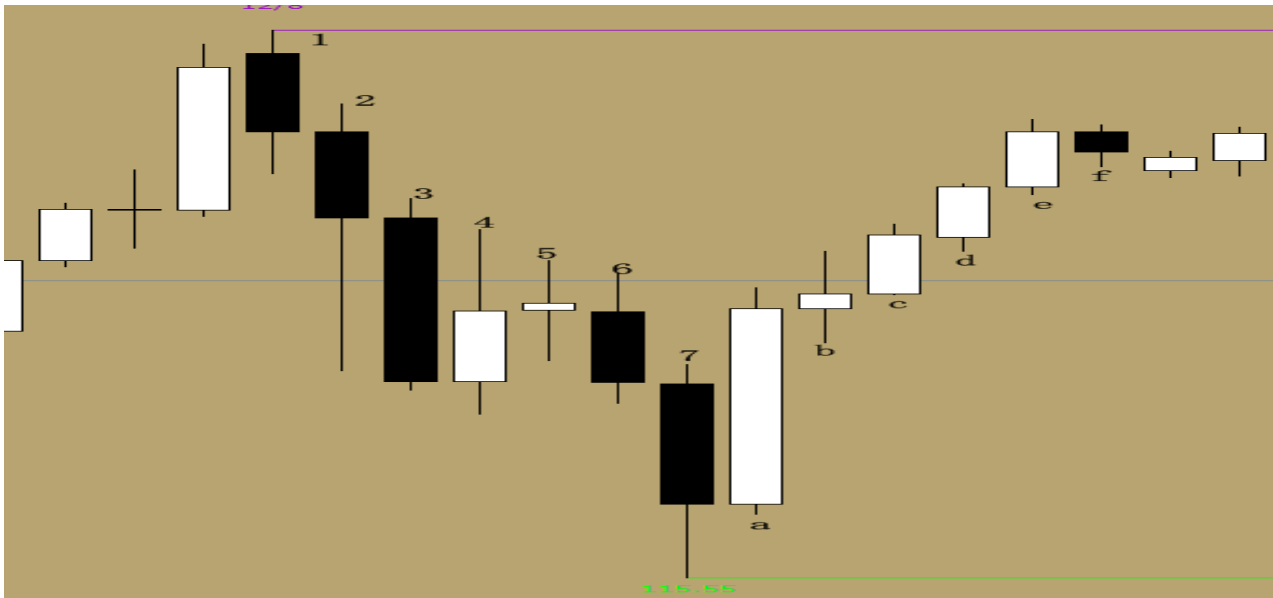
この水平線を見つけるためには、ある程度の検証が必要になります。

まずは4時間足以上のチャートで検証してみてください。

何度もいいますが、大陽線大陰線に対してどこまで攻め込まれたのか？どこから押し戻されたのか？というポイントが、神々の領域を測り知ることにつながります。このローソク足のスキルが、重要な水平線を見つけるヒントになっているということを覚えておきましょう。

10. ネックライン

ネックラインも実戦のトレードでは多用する水平線なので、確認できないとエントリーの判別が難しくなってしまいます。それでは実際のチャートで確認していきましょう。



ネックラインの確認には、ローソク足の高値安値を知ることから始まります。

まずローソク足の高値安値を確認していくのですが、上記のチャートのようにきれいにローソク足の高値安値が並んでいるところを選ぶようにしてください。

ポイントは自分が見ているローソク足の一步前のローソク足の高値安値をチェックしているローソク足が超えていないことがポイントです。

更に見るポイントは、ダウントレンド中であれば、ローソク足の高値を確認し、アップトレンド中はローソク足の安値を確認します。

上記のチャートの場合、数字の1～7までは高値が一つ前のローソク足の高値を超えず、英字a～fまでのローソク足は安値が一つ前のローソク足の安値を下回ることなくローソク足を形成しております。

何故このようなことになるかというのとローソク足の中にもトレンドが存在しているからです。

トレンドの定義では、アップトレンドは安値を切り上げ、高値を更新するとあり、

ダウントレンドの定義では、高値を切り下げ、安値を更新するとあります。ということはローソク足の中にもトレンドが存在しているのでローソク足の高値安値がきれいに並んでいるチャートがあるということなのです。

ということはトレンドの転換を確認したいのであれば、まずはローソク足の高値安値を確認し転換していることを確認できれば、トレンドを知る手がかりになるはずです。

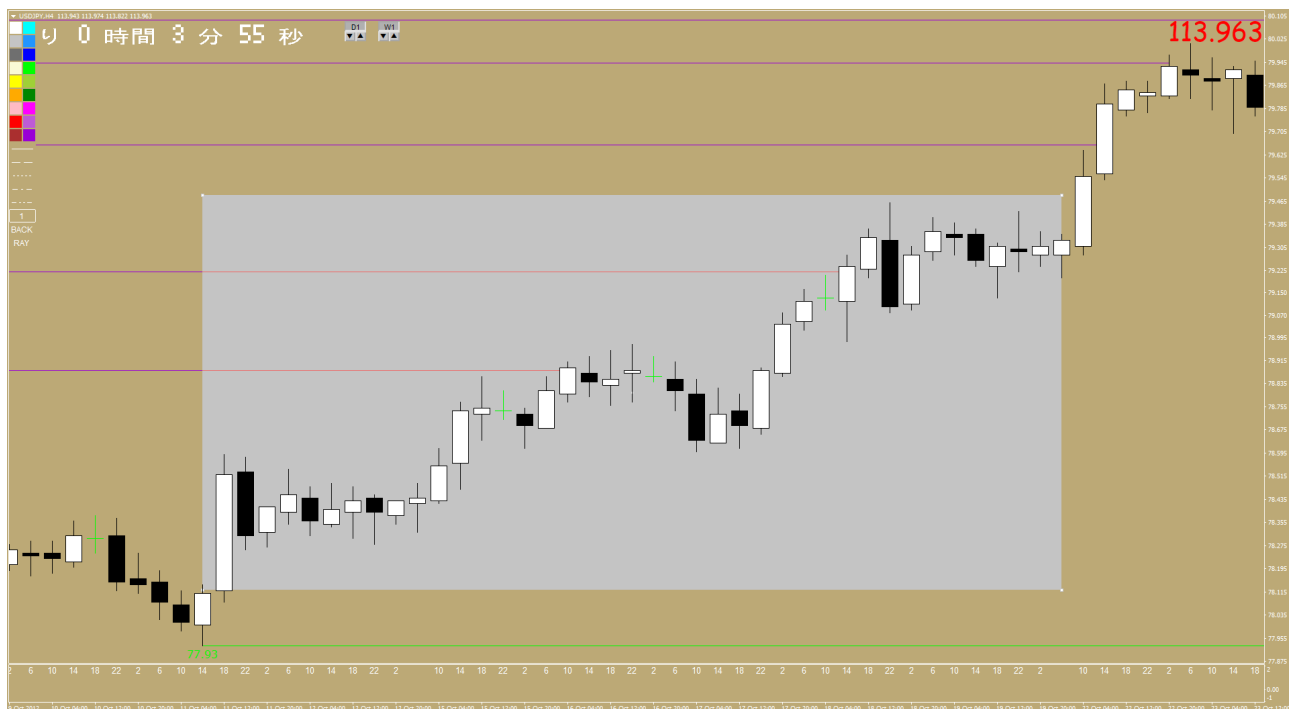
もっと言うなればトレンドの転換をする際、一番最初に反対勢力が直近のローソク足の高値安値に対して勝負する形になります。このチャートの場合、7番目の陰線の高値をaの陽線が更新しております。

これはローソク足であっても波でも同様で、1～7番までのローソク足はダウントレンド、a～f番までのローソク足はアップトレンドと置き換えることができます。

ということはこのチャートの場合、ダウン終了とアップ開始は7番目の陰線の高値を壊したaのローソク足ということがわかり、このポイントに水平線を引くことが可能となるのです。

これがネックラインという水平線になります。

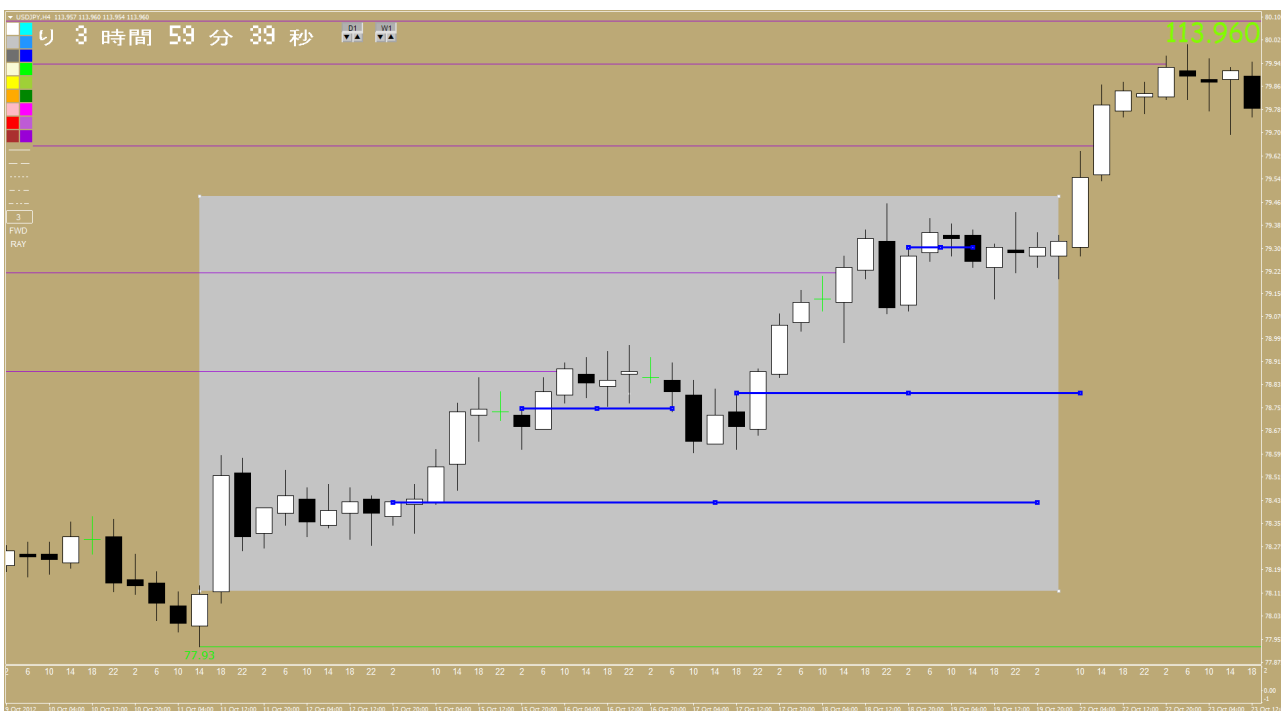
それでは練習問題です。これから出題するチャートのどこにネックラインがあるのか確認してみてください。



グレーで囲った部分の中にネックラインが含まれているのですが、皆様はお分かりになるでしょうか？

このチャートはアップトレンドなので、ロングポジション側のネックラインだけ引くようにしていただければ、すぐわかると思いますよ。

さて答え合わせです。皆様はどのくらいネックラインが引けましたか？



答えは4本でした。合っていましたか？

ええ～！！こんな短い水平線もネックラインなの～？と疑問に思う方もいらっしゃると思いますが、それは出来上がったチャートで水平線を見ているから言えることです。

実際に動いているチャートでは、ネックラインになるかもしれないと考えながらトレードを行っております。

なのでネックラインの条件を満たしているのに、ネックラインにならなかったという場合もあるのです。

ではネックラインになるための条件とは一体何でしょうか？

- ①ローソク足のトレンドがわかりやすい箇所であること
- ②ローソク足の実体が最終地点のレートを更新していること
- ③引いたネックラインを逆勢力のローソク足が負かさなないこと

この3つが挙げられます。実際のチャートではどの箇所になるのでしょうか？



まずはローソク足のトレンドがきれいに見えていることが重要となります。

トレンドの切り替わりをいち早く察知出来るのは、ローソク足の本数がある程度多く、ローソク足の高値安値がきれいに見えている箇所だからです。そのほうがネックラインになりやすく相場の参加者の目にも付きやすいので、注目するポイントになります。実際のチャートでも同じ動きになっているということが上記のチャートからも分かりますよね。

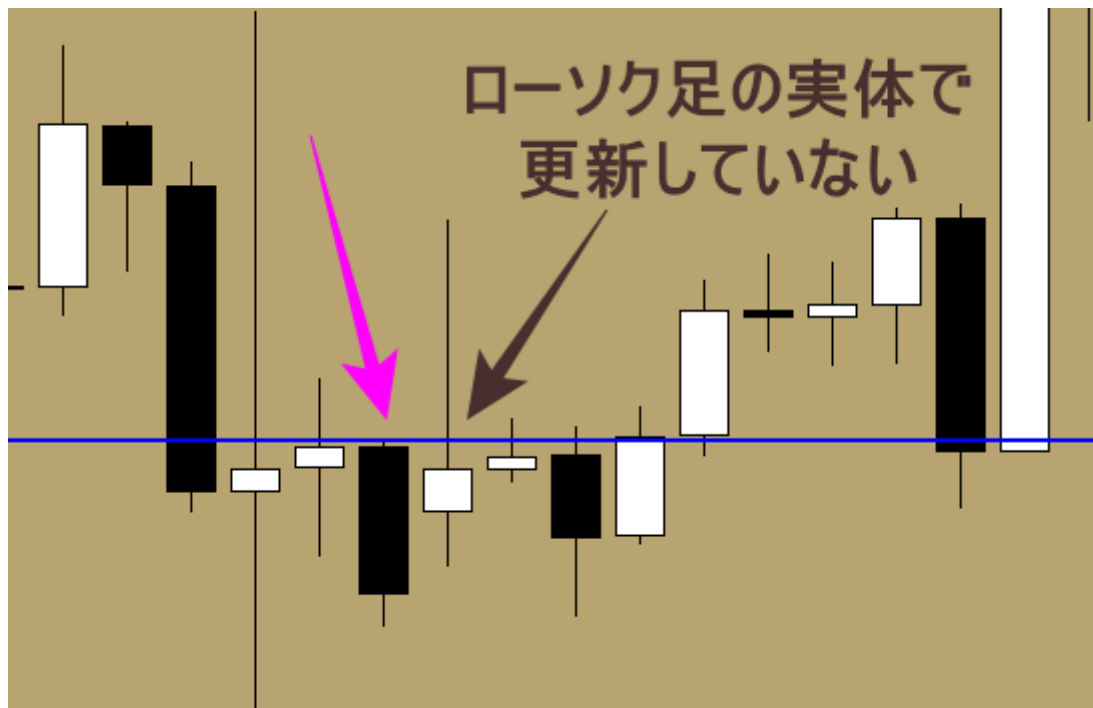
もちろんローソク足2本くらいの短期のトレンドでも、ネックラインになることもありますが、その後の動きをしっかりと確認していただくと、**本数が多いローソク足のネックラインのほうがサポートラインになりやすく、重要な水平線になっていることが確率的に高いのです。**

次に②のポイントですが、ここも重要な箇所になります。

このチャートの場合、ダウントレンドですからローソク足の高値をしっかりと確認し、高値を更新されたところをネックラインとして見ます。

②の箇所で発生した陽線は、一つ前の陰線ヒゲ（高値）まで上昇し、陽線の実体が陰線ヒゲ上まで更新しているのでダウントレンド中に発生したローソク足とは明らかに違う別グループのローソク足だということが分かります。

そこでネックラインの水平線を引いた場合、ローソク足陽線がネックラインをローソク足の実体でまたいでいる状態になっていることがネックラインとしての最大のポイントです。



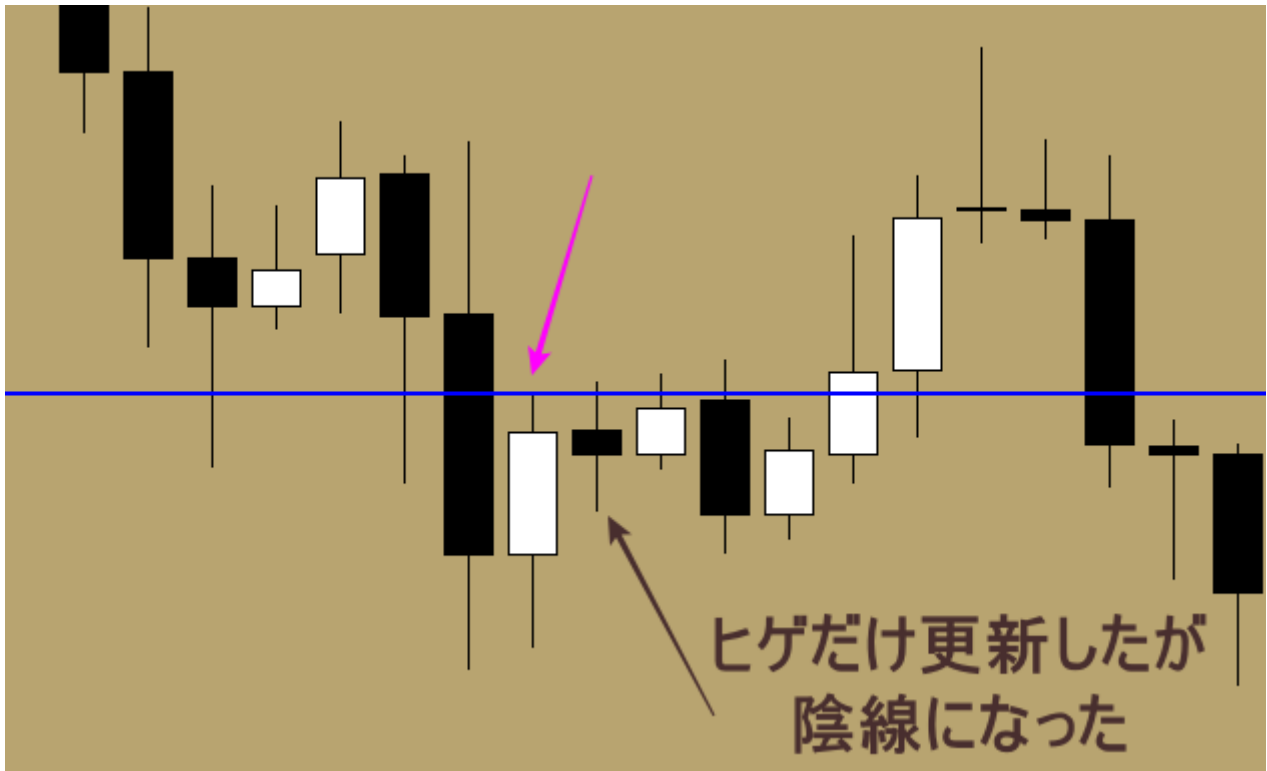
ネックかな？と想着いても、次に発生したローソク足が、ヒゲだけで更新していたりすると、ネックにはならず再び下落したり、弱気相場になったりすることが多くあります。

長い上ヒゲ下ヒゲが出ている相場は、反対勢力の力も強く、なかなかネックラインの形成を許さない相場であるとも言えます。

最後に③ですが、ネックラインに対してローソク足の実体が交差しない状態（勉強会では串刺しともいう）であることが重要です。

ネックラインを見つける際は、ローソク足のヒゲではなくローソク足の実体に注目して確認してみてください。先程のチャートでは見事にネックラインに対してローソク足が反応していることが見て取れます。

なので条件が揃いそうとって、安易にネックラインとして捉えるのではなく、ローソク足が完全にクローズし、ネックラインが完成してから判断しトレードするように心がけましょう。



こちらのチャートでは、一見するとネックになるのかな？と思われがちです。しかし実際にはネックラインにはなっておりません。

ピンクの矢印の陽線高値を次に出現するローソク足が、一旦は更新するのですが、実際には陰線になってしまい、ネックライン下部でローソク足がクローズし陰線確定になってしまいました。

ということは、このローソク足のパターンではネックラインを越えたとは言えませんので、ネックライン完成の条件を満たしていないことが分かります。

このように見切り発車で、ネックラインを判断してしまうとやらなくても良い相場ですらトレードを行ってしまう可能性が出てきますので、意味のない損切りを量産してしまうこととなります。

しっかり相場が成熟し完成するまで待つように心がけることが重要だと言えます。

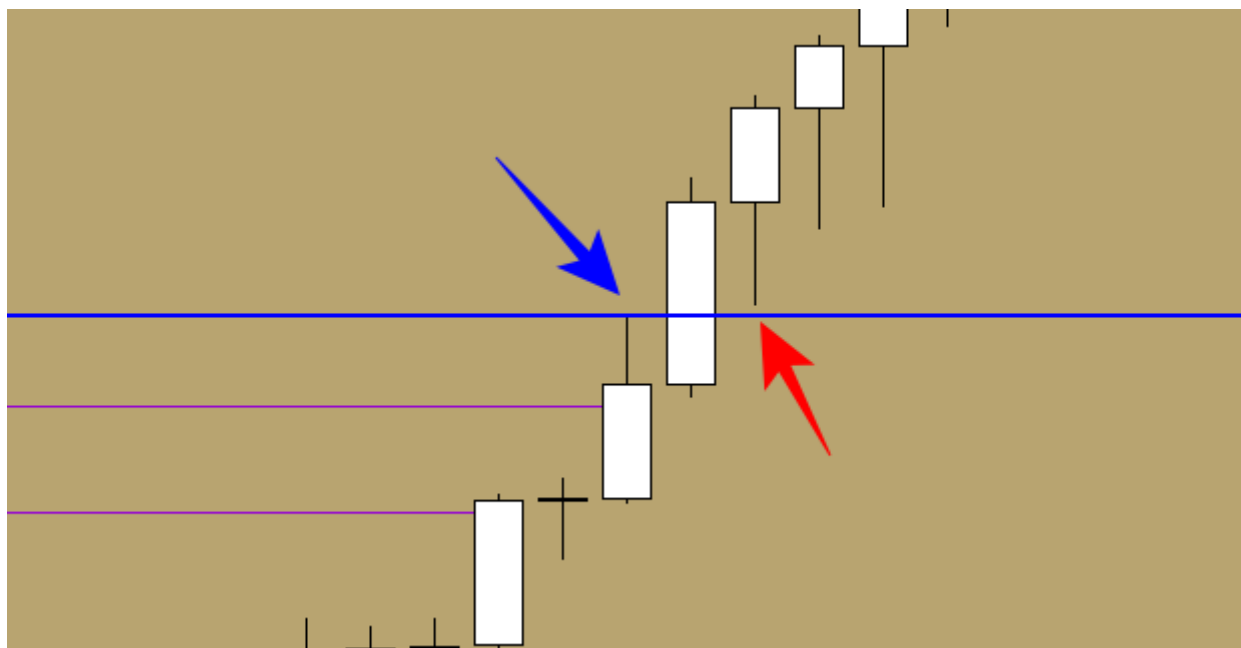
もちろん長期足になればなるほどネックラインの重要度が増すことは言うまでもありません。

月足、週足、日足チャートのネックラインをいち早く察知できるように毎日長期足の動きをチェックするように癖づけておきましょう。

11. 超短期水平線

超短期水平線というのは、しんたろうのFX勉強会で作られた俗語です。

こちらにもエントリーを行う上で重要な情報を色々と含んでおります。実際のチャートで確認していきましょう。



超短期水平線とは、ローソク足の高値安値で水平線が引ける箇所を指します。

ローソク足レベルの水平線としては**最も短い水平線**となりますが、いろいろな時間軸で使用できることから超短期水平線と名付けました。

もちろん長期足になればなるほど、超短期水平線は発生しやすく、推進波の中でも多数見かける事ができます。

超短期水平線は、**短い時間軸チャートのレジサポライン**なのですが、それなら短期チャートを見ているのと変わらないじゃない？と思われると思います。ところがそうではないのです。

このローソク足の動きを長期足のローソク足を使って判断することによって、長期足でトレードをしているはずなのに、短期足レベルの損切りと長期のゴールを狙う損小利大となるトレードを実現出来ます。ここがポイントとなっております。

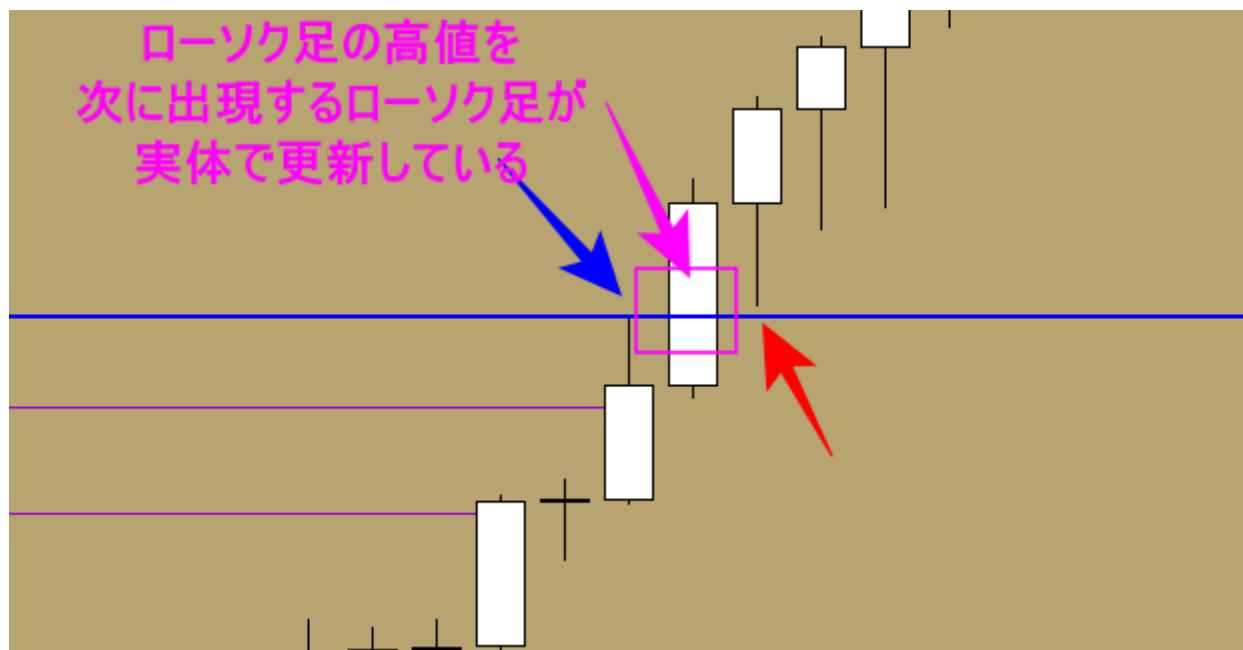
押し安値、戻り高値を狙っていたんだけど、相場が見ていないうちに、かなり動い

てしまってトレードできませんでした！という方にもこの超短期水平線は有効で、ある程度完成した相場でも実行可能な手法の一つです。

それでは超短期水平線になるための条件を解説したいと思います。

1. トレンドが強く現れている相場であること
2. ローソク足のヒゲ上、ヒゲ下が判別できること
3. 注目するローソク足のヒゲ先を次に出現するローソク足の実体で更新していること

これが条件となります。先程のチャートでも同じ条件が出ておりますので再度チェックしていきましょう。



まずチェックすべきポイントは、トレンドがしっかり出ているところを見つけることです。

水平線が引きやすい箇所は推進波であると説明しましたが、超短期水平線も同様に、ローソク足の高値安値がきれいに出現し、整っている相場で超短期水平線を引くことができます。

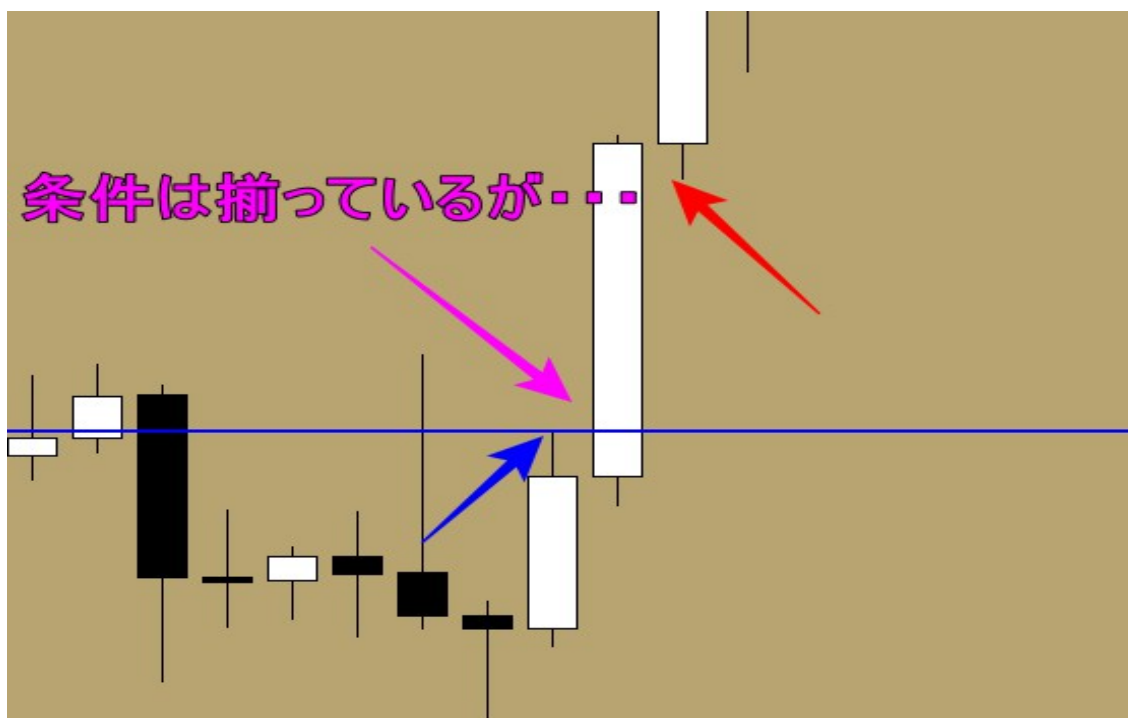
まず注目するローソク足の高値安値を確認します。次にそのヒゲ先を更新するローソク足を確認します。ポイントはローソク足のヒゲを次に出現するローソク足が実体で高値を越え（この場合、串刺しになっている状態）相場の参加者に勢いがある

ローソク足であることを分からせることが重要です。

そして最後に発生するローソク足が、注目するローソク足のヒゲ先のポイントまで戻ってくると、ローソク足が反転し、トレンド方向へ動く可能性が高くなり、超短期水平線が完成となります。

4時間足でも日足でも超短期水平線が発生すれば、注目度が高いことは間違いありませんし、損小利大なエントリーも出来て、しかも損切りはかなり浅く、自分が定めているゴールまでPIPSを獲得することが可能となります。

では逆にどういった相場が超短期水平線になりにくいのか？こちらもご説明させていただきます。



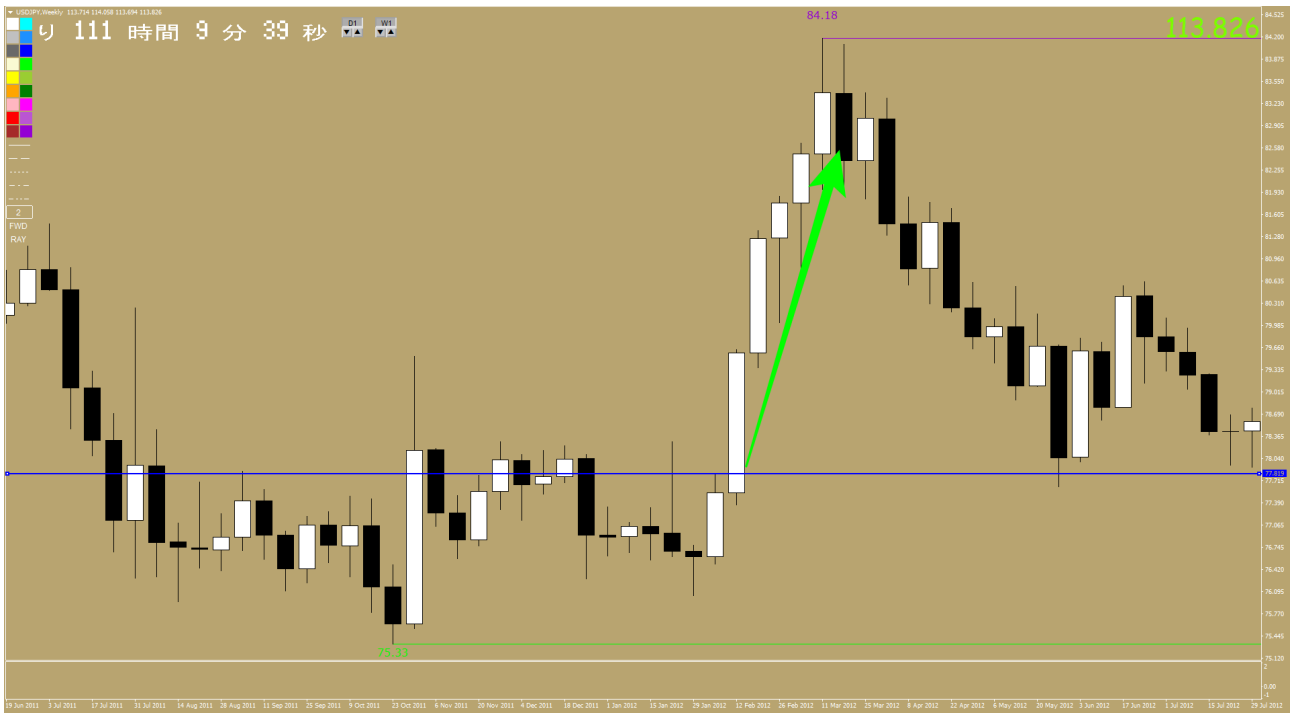
1つ目は、大きく伸びすぎたローソク足の場合です。

推進波には大きく分けて2つの波があります。衝撃波とダイアゴナルトライアングルです。

このチャートの場合、衝撃波になっている可能性があり、相場がローソク足のヒゲまで戻る必要がないと判断している可能性があります。

衝撃波は非常に強いトレンドが発生している中で出現する波で推進波の一種ですが、ローソク足でもこのように発生することがあります。

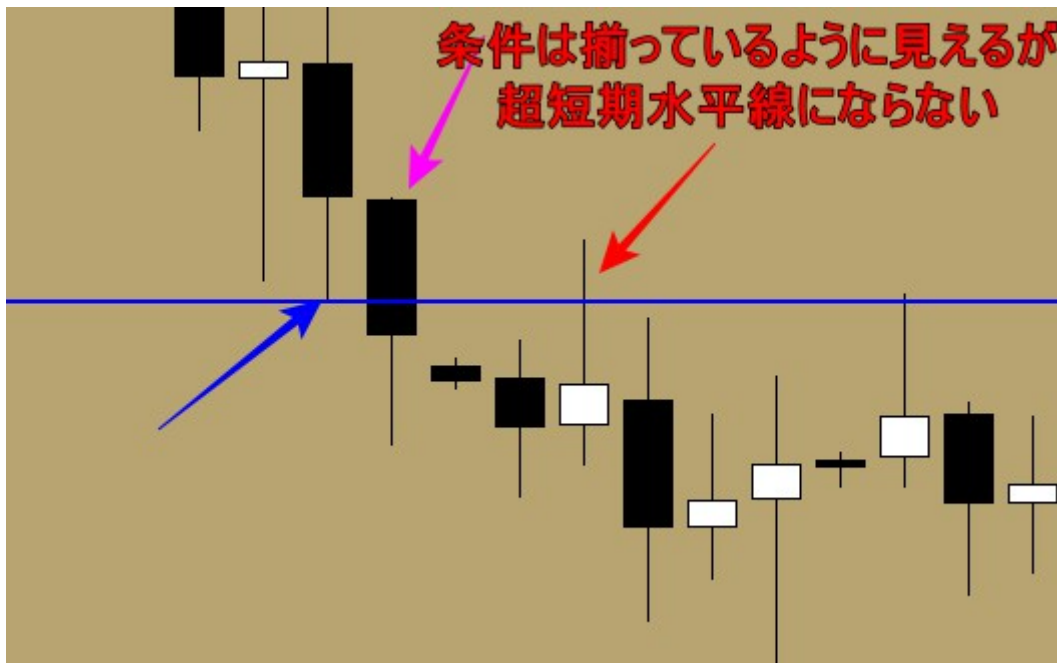
この場合は超短期水平線を待っていても、そのまま通り過ぎてしまう動きになるのでエントリーすることは出来ませんし、損切りも深くなってしまう可能性が高く、途中からのトレードには不向きです。



その後の相場を確認してみると、かなり動いているのが分かりますね。

無理に入るとどういう動きになるのかわからないという不安や恐怖が出てくるだけでなく、意味のない損切りにも合いやすいのでチャンスがなかったと諦めるしかないと考えたほうが無難です。

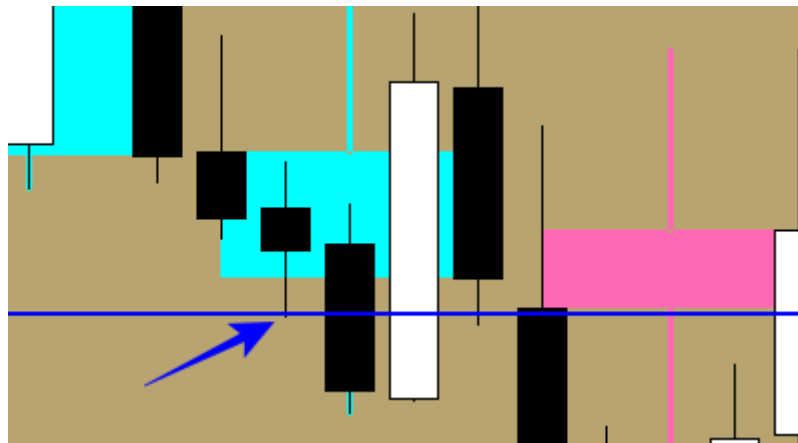
もちろんこのチャートは週足なので、日足や4時間足に落とし込めばもしかしたらPIPSを獲得できたのかもしれませんが、無理な行動は事故の元なので無茶なトレードは控えておきましょう。



今度は修正波中の弱気相場に対して超短期水平線を配置してみました。

一見すると条件を満たしているように見えますが、超短期水平線のラインを越えてしまっているため、相場的にはトレンドが弱いという判断になります。

この後の相場を確認してみても、トレンドが強い相場ではなくなっておりますので、条件を満たさない相場では超短期水平線のラインを無理やり使って水平線を引いても意味がないということが分かります。



条件を満たしそうだから、我慢できない！エントリーしてしまえ！という考え方は飛び乗りや見切り発車エントリーでしかなく、危険極まりない行為であることは言うまでもありません。

しっかり条件が整うまで待てないと、上記のチャートのように超短期水平線のラインを越えるような大陽線が発生するかもしれません。ですのでローソク足はクローズしてから判断するように油断せずに確認していきましょう。

まず超短期水平線がこのあたりにあるのでは？と思ったら、その超短期水平線付近を短期の時間軸に落とし込んでチャートを確認することも、トレードにおいては重要なポイントになります。

最初から短期を見ていけばいいんじゃない？と思うかもしれませんが、直前まで長期足を確認し、ここぞという時に短期足を使って、エントリーの判断を行えば、損小利大の考え方でしっかりトレードを行うことが出来、メイントレンドの波をしっかり捉えることが出来るようになります。

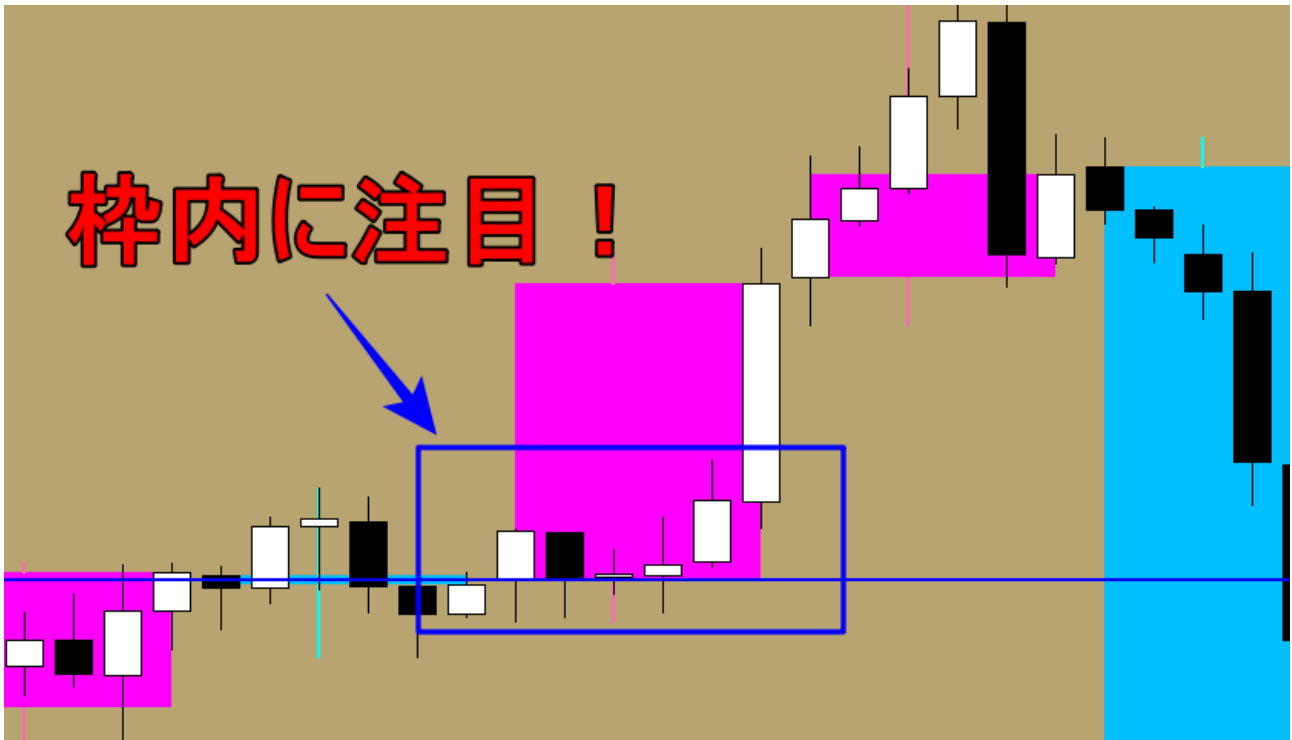
上記チャートのように見切り発車のようなトレードを少なくする事も勝ち続けるための大切な要素です。

必ずそうなる！！ではなくありとあらゆる可能性を考えて対応策を考えておきましょう。

12. 長期ローソク足の始値

さてここから更に更に水平線の深いところまで潜ってみることにしましょう。

今度は長期足を使ったローソク足の始値付近を水平線と見立てたエントリーになります。まずはこちらのチャートをご覧ください。



このチャートは4時間足の背景に日足を配置したチャートです。

MT4（メタトレーダー4）の特典インディケーターを使ったチャートとなりますので、MT4をご用意していない方はちょっと面倒な作業になるかもしれません。

注目すべきポイントは、この青枠の中のローソク足の動きです。

日足の始値付近を4時間足が、とても意識しているように見えませんか？

確かにアップトレンド中ですから、4時間足も先程のチャートのように動いているのかもしれませんが、4時間足だけみてもネックラインがあるようにも見えますよね。でもこの動きは何か重要なポイントがあって何かにサポートされているようにも見えると思います。

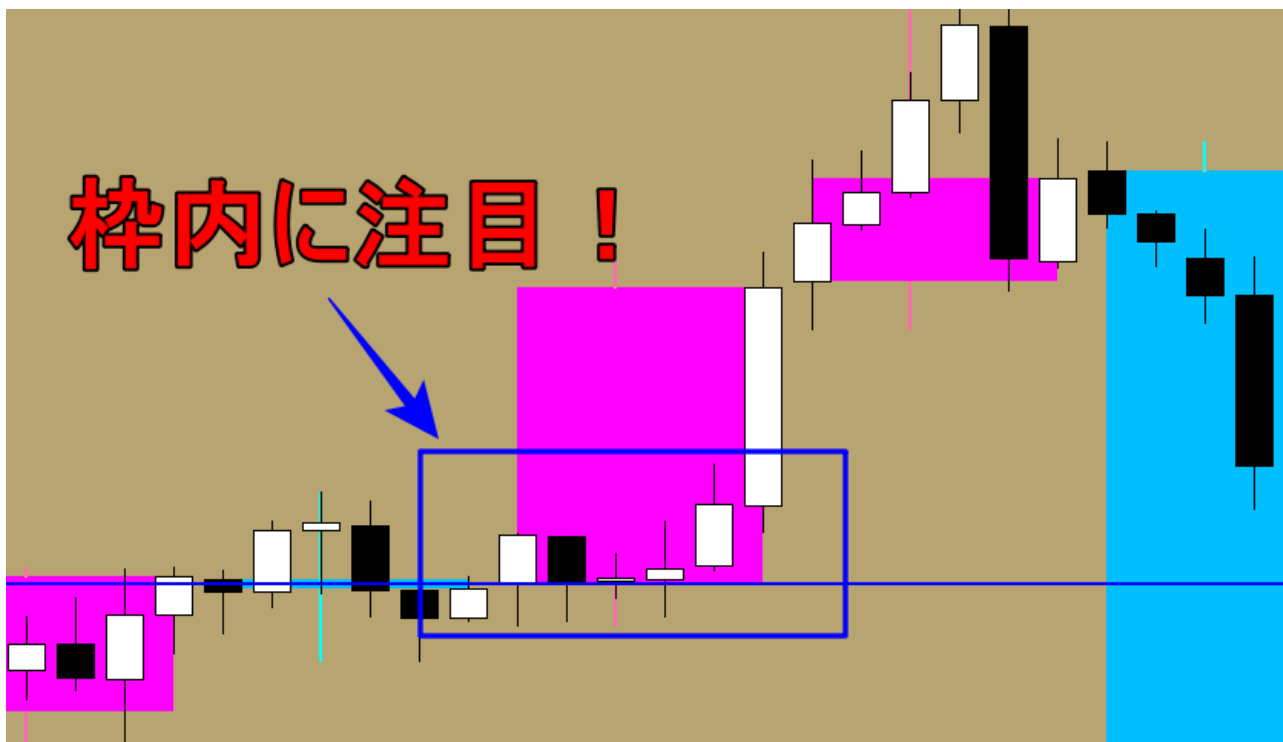
そして完成した日足は見事に陽線となっております。

ということはここで仮説が生まれます。この日、予め陽線になる予定だったローソク足だとすれば、日足の始値は神々の場所。4時間足や短期足が日足の始値を作ったのではないかな？

日足が陽線になる予定なのだから、わざわざ下落させるような陰線を出現させる意味はないのではないかな？このように相場の参加者が考えていたらどうでしょうか？もし予め分かっていたらそのように考えることが出来ると思います。

長期足の始値は、このレポートでも解説している通り、かなり強い勢力がいる神々の聖域です。ということはローソク足形成初期段階から日足の始値付近を4時間足や短期足を使って判断し確認することができれば、日足を丸ごと狙うことも出来るのではないかな？と考えられます。

この考えを踏まえて、先程のチャートを再度確認してみてください。

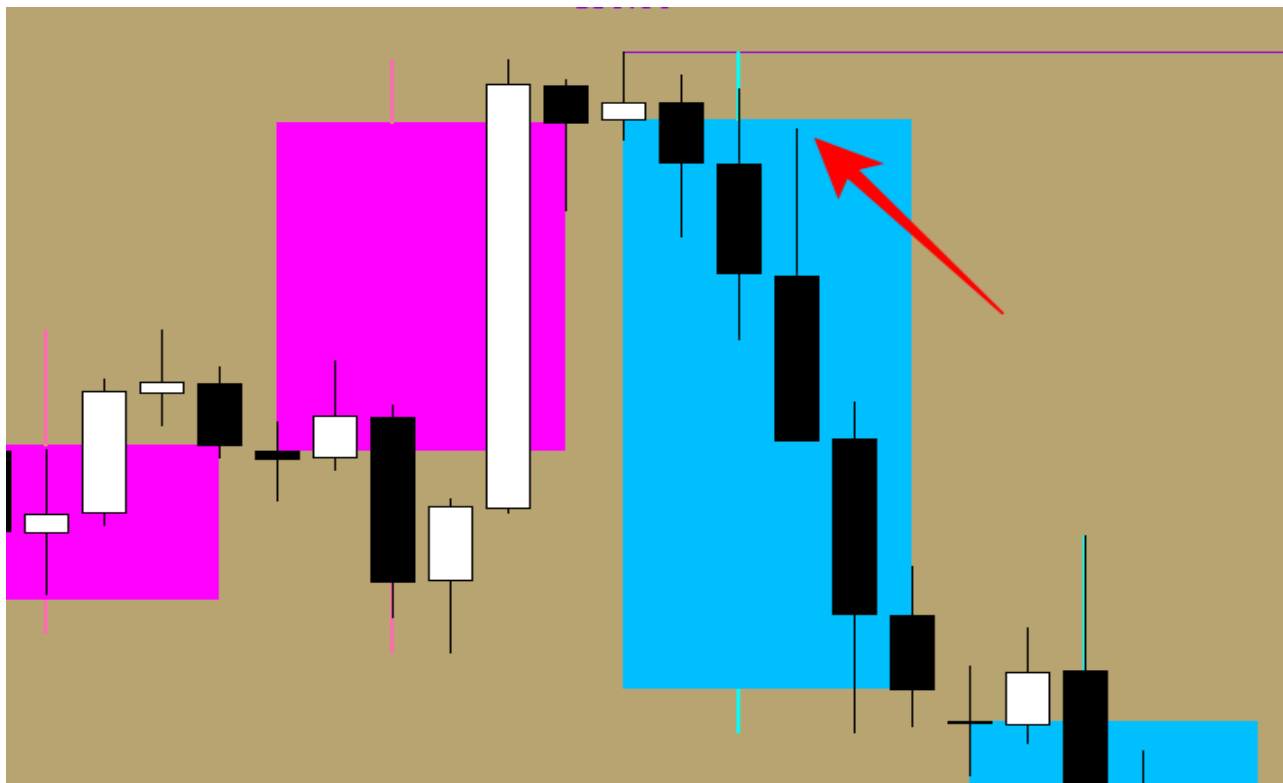


日足の始値付近で4時間足が十字足やコマ足を作り、相場の力も弱くなっていて、アップトレンドなのにどうしたんだろう？という弱気相場になっております。

しかしそのあと時間の経過とともに4時間足が陽線を作り、大陽線を作って日足を陽線化させ日足ローソク足を完成させております。

ということは事前に日足の始値付近の動きを4時間足で監視しておけば、トレンド方向へ行くローソク足の動きを日足レベルで追いかけて、相場を確認することも可能になるはずです。

それでは違うローソク足でも確認してみましょう。



このチャートでも始値をかなり意識していることが4時間足のローソク足でもよく分かります。

赤矢印が指し示すローソク足に注目してください。

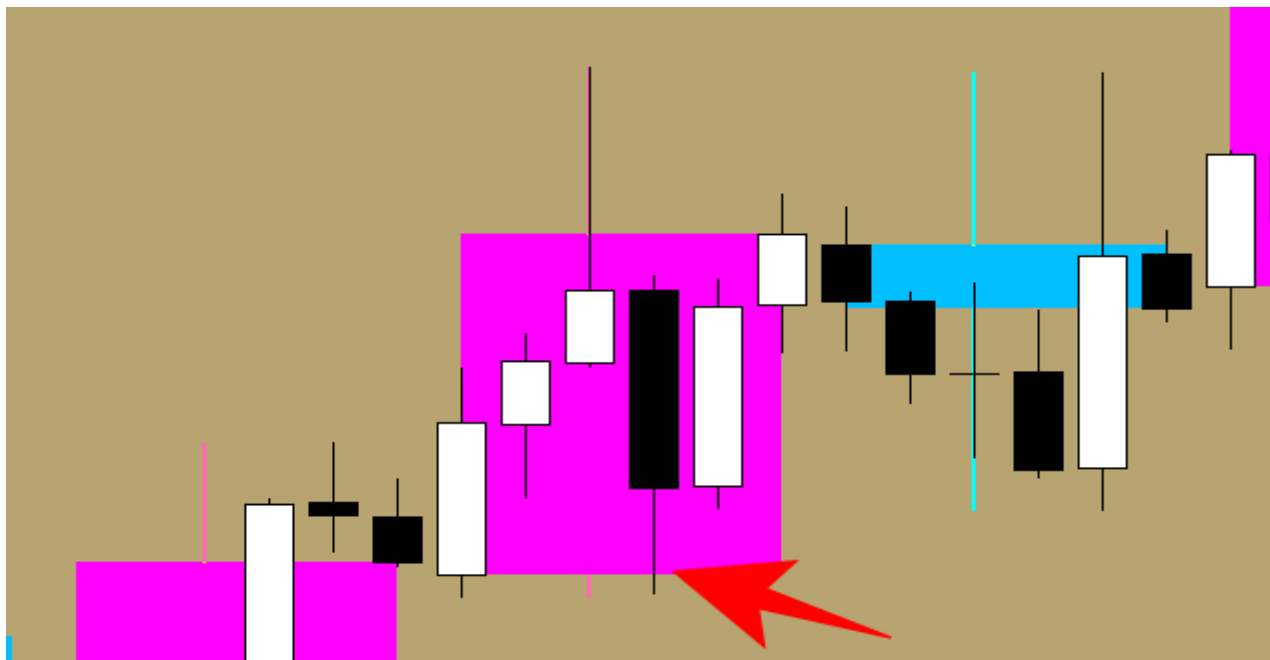
日足始値ギリギリまで4時間足の上ヒゲが近づいているのに、そのまま下落し陰線となっていることがわかりますか？日足の始値には相当強い神々がいることがローソク足の値動きからもよくわかります。

もし日足の始値に対して、経済発表や要人の発言などで急上昇急下降し、しかも日足の始値を負かすことが出来ないようなローソク足の値動きになったら、相場の参加者はどう判断するでしょうか？

相場の判断としては「これほど重要な発表があったにも関わらず、ローソク足の色（始値）を変更させることも出来なかったし、注目の水平線を負かすことも出来なかった」といって、トレンドを決定し相場を動かすこととなります。

先程のチャートでもそうでしたが、仮に急激にローソク足が動いてきたとしても、始値に対する考え方を持っていれば、冷静に判断しトレードすることも出来るようになります。

そして本当のトレンドはどちらに向いているのかという根本的な問いに対してチャートは答えてくれるのです。



こちらのチャートでは急激に落ちて日足始値付近まで下落しているのにも関わらず、日足始値に当たって4時間足が反発し、そのまま上昇していることから、日足の始値が相当強いということがチャートからも見て取れると思います。

そして相場はアップトレンドであると明確に答えております。実際にこの後のチャートを確認してみましょう。



もしトレンドの力が仮にダウン方向へ向いていたとしたら、日足の始値を壊し、早い段階で下落し、日足は陰線になっているはずです。

トレンドの方向が相場の参加者に知れ渡っているから、日足の始値付近で短期足が反発し、相場が本来のトレンドへと動き出すのです。

そしてこのトレードの最大のメリットは損切りです。

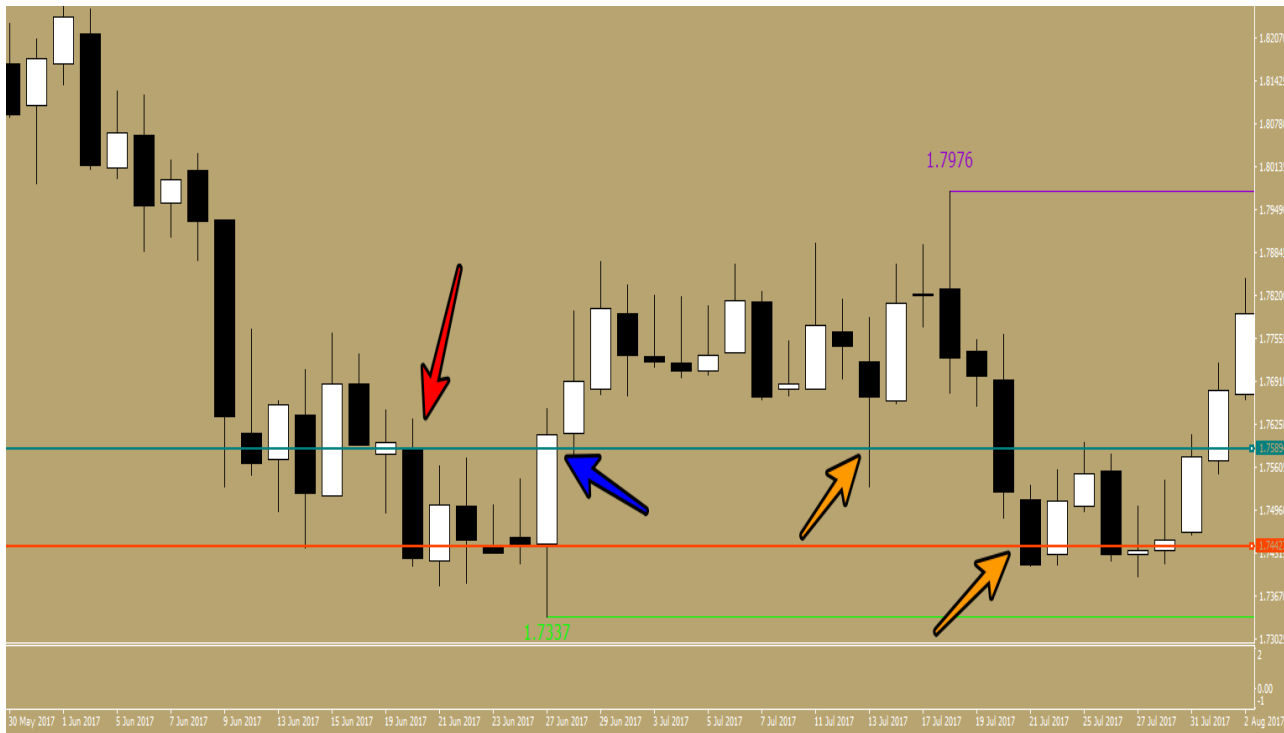
損切りが日足レベルで決められるのに、その損切り幅が非常に浅いことが最大のメリットになります。

仮に始値を意識したにもかかわらず、そのまま動いてしまったとしても、損切りが明確なので躊躇することなく損切りが出来るはずです。

損小利大になるトレードとしては一番の理想形となりますので、デイトレやスイングトレードを行っている方は、日足ローソク足始値に注目してみてくださいはいかがでしょうか？短期の値動きが本当のトレンドを教えてくれるかもしれませんよ。

13. ローソク足の始値の応用

ローソク足の始値には深い意味が隠されておりますが、その意味を知る箇所として有効なのが相場の転換点です。まずはこちらのチャートをご覧ください。



こちらのチャートはダウントrendからアップtrendへと転換する箇所の一部分となります。

注目すべき箇所は赤矢印です。

赤矢印のローソク足の始値を反対勢力である陽線が負かしたことが確認されました。

トレンド的にはまだこれだけではアップtrend開始になっておりませんが、それでもアップtrendになるための要素は見え隠れしております。

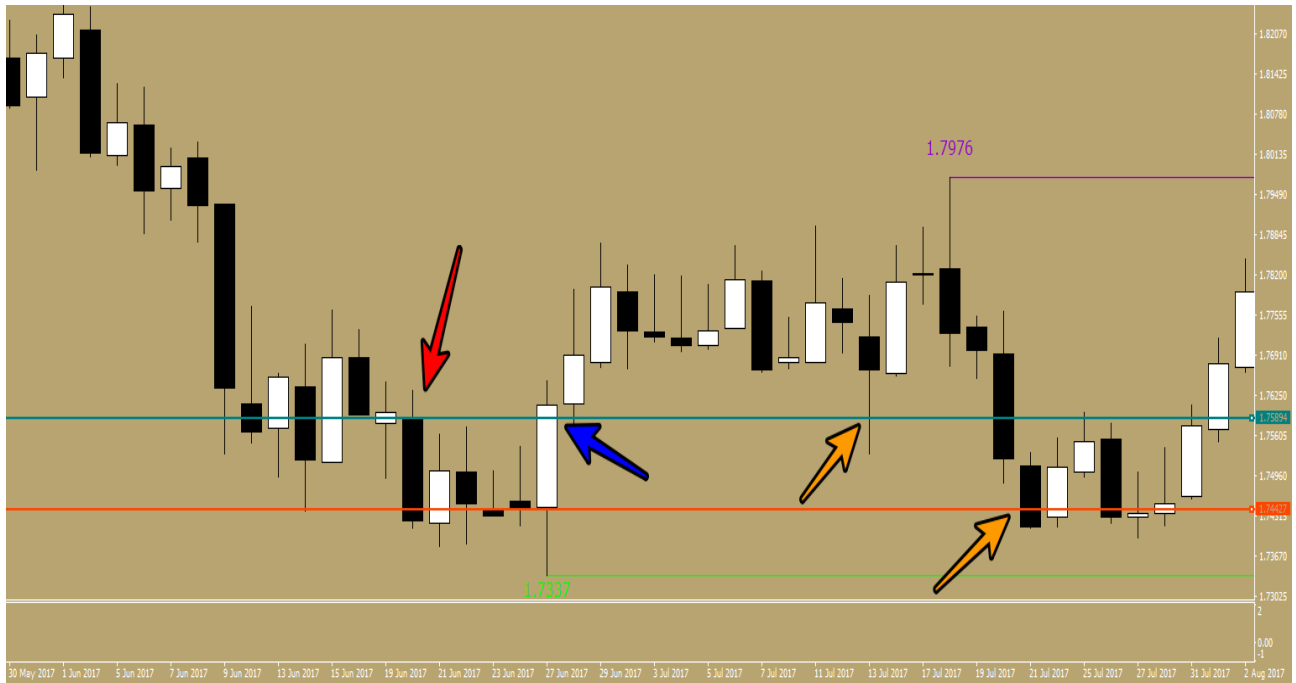
ポイントは陰線始値を負かしたローソク足のレート付近です。

水平線を左側から右側へ継続させると、オレンジの上矢印が反応し長い下ヒゲを作っていることがおわかりでしょうか？

更に更新を決定したローソク足の始値に赤い水平線を引いてみると、レートが陽線始値付近まで戻ってくると反発を見せるローソク足の値動きが確認出来ます。

ということは注目するローソク足の始値を更新するローソク足の価格帯には、意味があるということです。

それを踏まえて先程のチャートをもう一度確認してみましょう。



条件があるとなれば、陰線が出現した後に細かいローソク足が何本か出現しており、そのあとに陽線が出現して注目する陰線を負かしております。

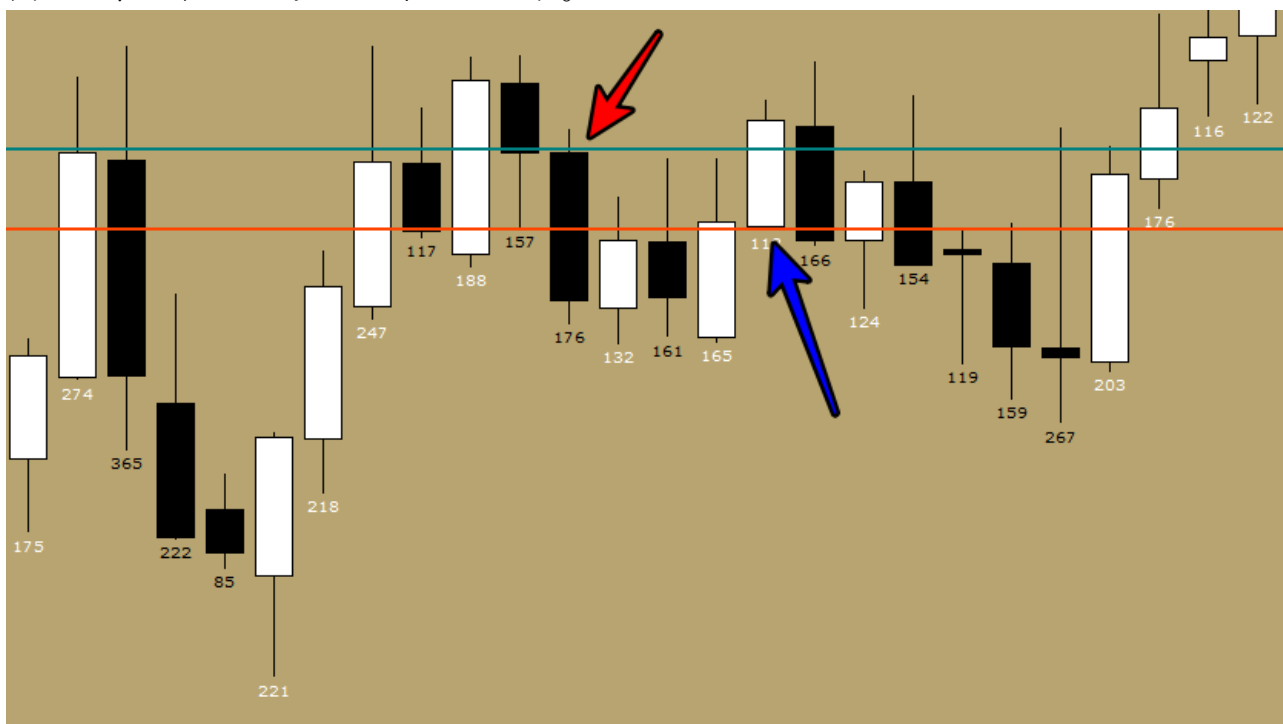
これは酒田五法で言うところの「鍋底」というローソク足の組み合わせなのですが、こちらの有効な点は更新付近に水平線を引くことによってローソク足の値動きを確認することが可能になる点です。

もし先程のチャートが、推進波第5波目や修正波C波の終了付近にあったらどうでしょうか？

いち早くトレンドの転換を知ることが出来るようになり、メイントレンドの方向を知ることが出来るようになります。

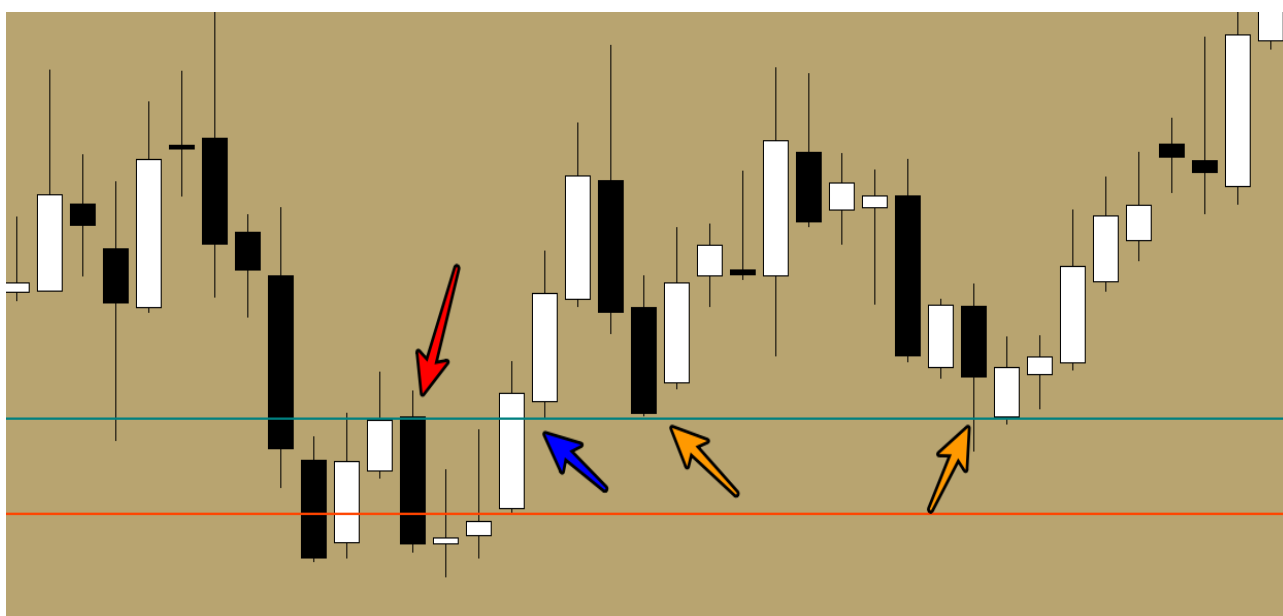
もちろん類似チャートもありますので、注意が必要です。

例えば、上記のようなチャートです。



一見すると同じようなパターンになっていると思いますが、こちらは修正波中に出現しており、波の終了付近とは明らかに違います。

下のチャートと見比べてみましょう。何が違うのか説明できますか？

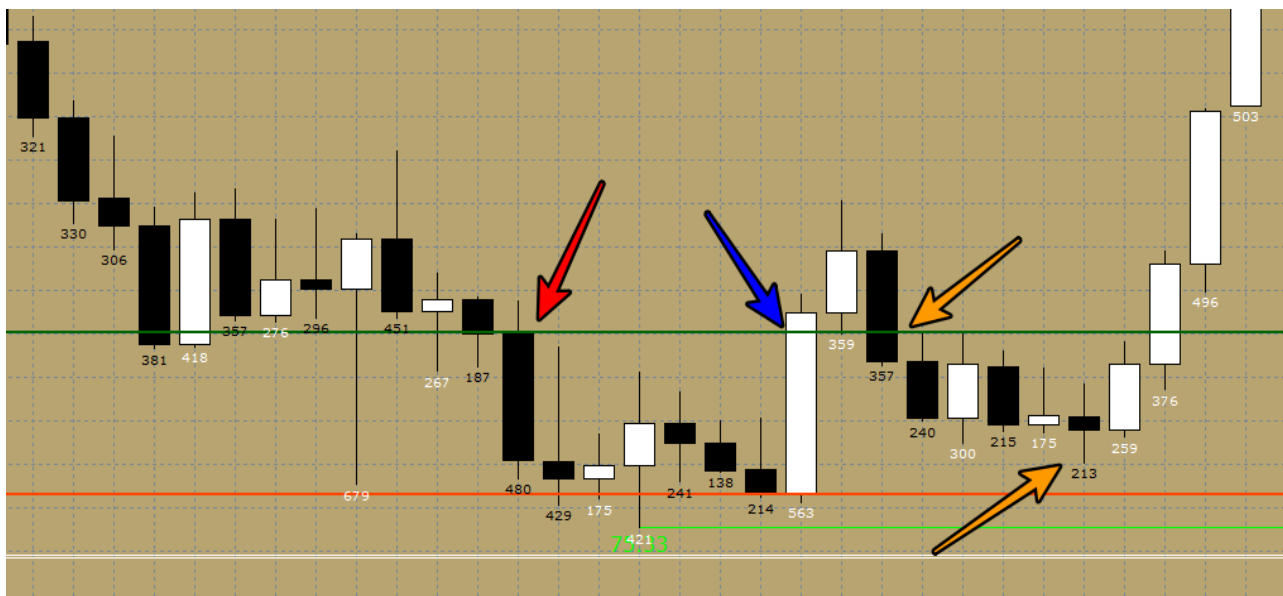


この2つのチャートの違いが見えてくれば、相場の転換を知るヒントは分かってくるかと思います。

見つけるためのポイントは以下の4つとなりますので参考にしてみてください。

1. 推進波や修正波の終点を確認すること
2. 注目するローソク足が出現した後にコマ足や十字足などが現れている箇所
3. 注目するローソク足を完全に反対勢力のローソク足が負かしていること
4. 注目しているローソク足の始値の水平線をチャートの右側まで延長し、ローソク足が反発することを確認すること

これらの条件を満たしている場合、ローソク足の始値の水平線が応用できますので、見つけた場合は積極的にトレードに取り入れたい箇所だと思います。



見つけるポイントは相場の転換付近ですが、必ずそうなるというわけではありません。ポイントは「可能性がある」という見方なのです。

上記のチャートはUSDJPYの月足チャートです。相場の転換点で条件も満たしておりますが、オレンジの矢印を確認すると一見反応してそうに見えます。しかし反応していないことがわかります。

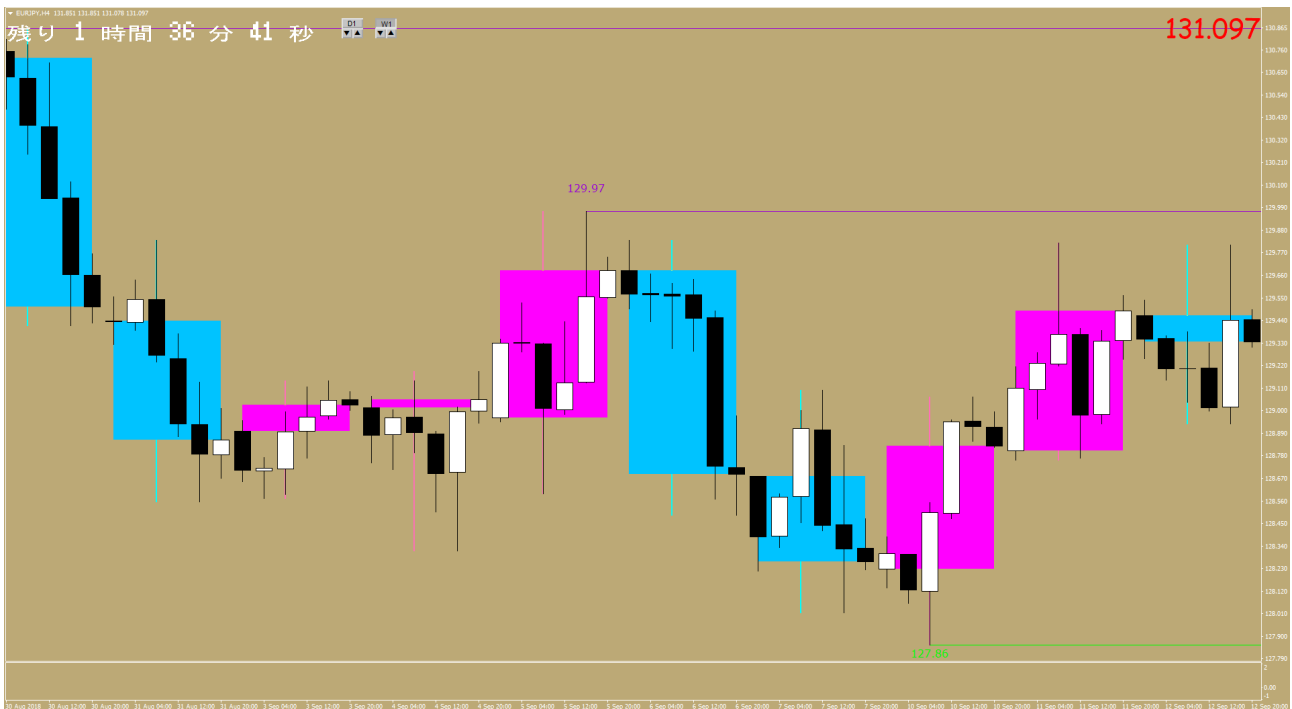
なので条件を揃えていても、途中まで反応しているような動きを相場は見せますがローソク足がクローズするまでは安心できませんので探す場所を間違えないでチャートを確認してみてくださいね。

14. エントリータイミング

それでは、ここまでローソク足レベルの水平線を使ったトレード方法をご紹介してきましたが、エントリーするイメージは出来ておりますか？

この章では更に細かく実戦向けのエントリータイミングについて、いくつか例を出しながらご説明して行きたいと思えます。

エントリーパターン①

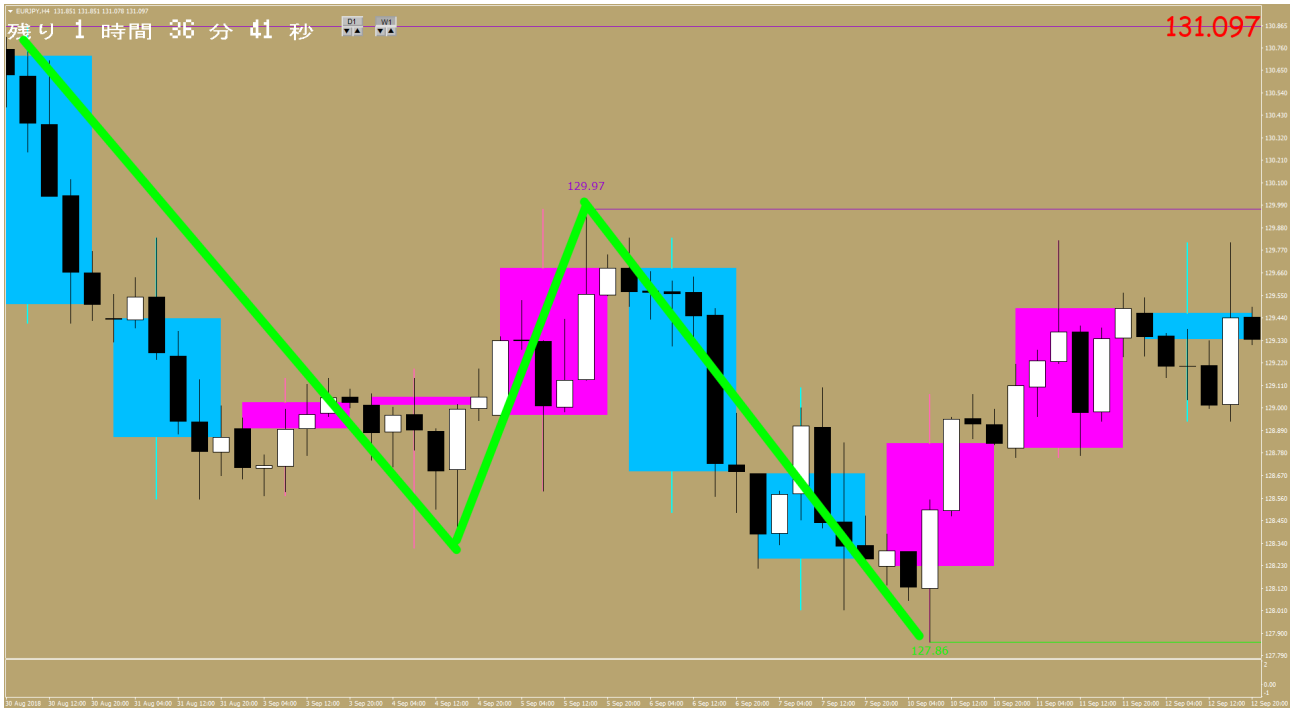


皆様は今、チャートの右側にいらっしゃいます。このようなチャートではどのように考えればいいのでしょうか？相場環境認識を行ってみましょう。

- トレンド方向は？
- 波のカウント（現在地）は？
- 水平線はどこに引ける？

などいろいろな情報をチャートから調べ、習った知識を駆使して調べていきましょう。今まで習った水平線の情報を使えば、エントリーするタイミングがわかるはずですよ。分かりましたか？まずは落ち着いてどこに水平線が引けるのか考えていきましょう。

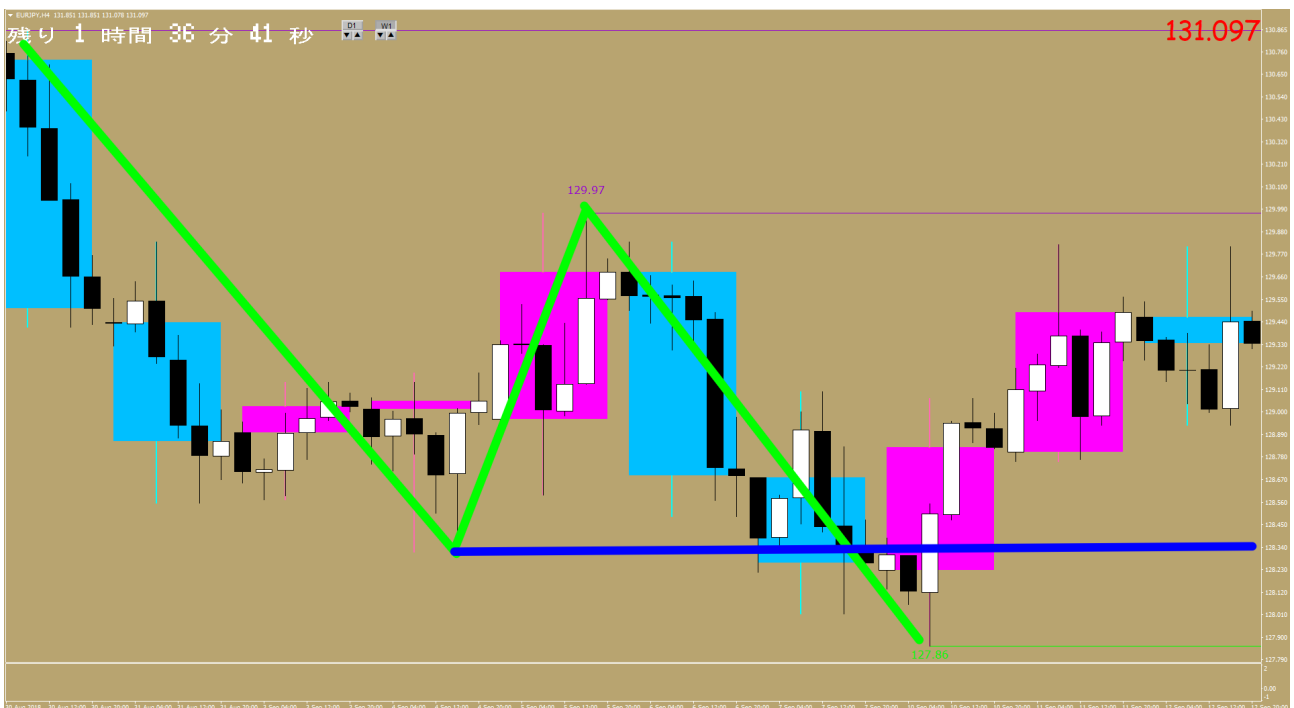
見るべきポイントは波です。先程のチャートに波を引いて確認してみてください。



波を引くとこのようになります。高値安値がはっきり現れておりますね。

そしたらここにまず水平線を引いてみましょう。このチャートの場合、下落している相場に見えますので、水平線を引く位置はあの辺りになりますよね？

どこに水平線が引けるのかお分かりになりますか？分からない方は一度戻って復習してみてくださいね。それでは引ける水平線は、まずここになります。



ここに水平線を引くと、レジサポラインにはなっていないことがわかりますね。

こんな分かりきっているところにも水平線を引くの？と思うかもしれませんが、これが重要なのです。

こういった地道で無駄と思える作業を怠ると、思わぬしっぺ返しを食らうことになります。まず油断せずに石橋を叩きながら相場環境認識をしてみてください。チャートが見えるようになるまでは、誰でも出来る簡単な作業でも、しっかり行っていただきます。

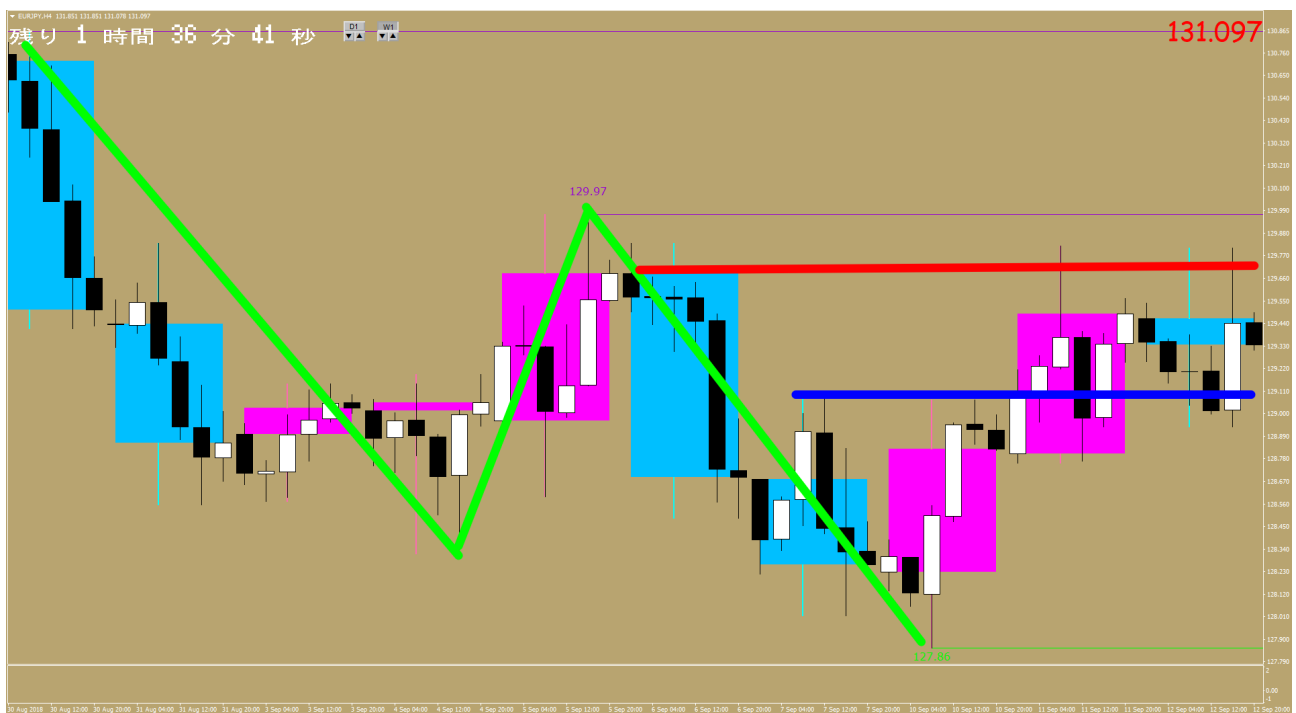
水平線を引いて分かったことは、ダウトレンドの力が弱く、相場が逆へ動くのではないかという可能性を示唆している点です。

この場合、注目する高値はまだ越えていないのでダウ理論だけで考えれば、ダウトレンド継続中となりますが、水平線がダウトレンドではないと言っておりますので、アップトレンドになる可能性を考え、ロング目線で相場を見ていきましょう。

再び水平線に戻りますが、次は、どこに水平線を引けばいいのでしょうか？皆様はお分かりになりますか？

ここでも重要なことは、まず長期足をしっかり見ることです。とにかく長期足を確認してください。4時間足の後ろに日足を配置しているので日足も同時に確認することがこのチャートの最大のメリットになっております。

日足でネックラインや大陰線などの始値に水平線が引ける箇所がないのか確認してみましょう。



日足に対してネックラインと日足陰線始値に対する水平線を引くことが出来ました。

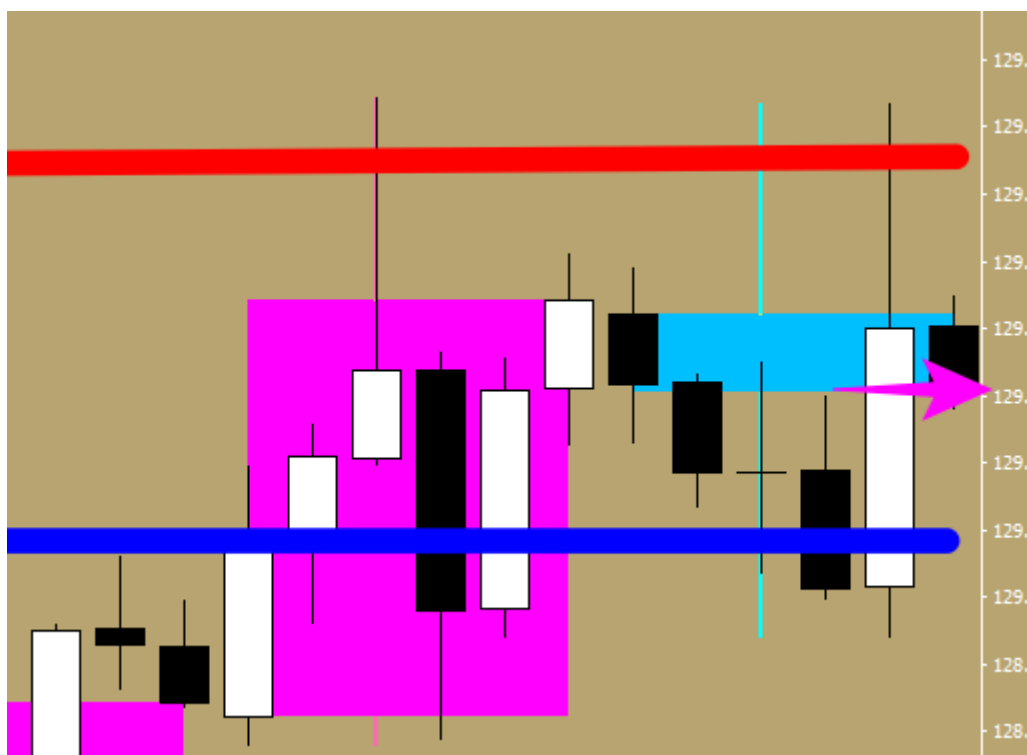
ここからどのようなことが分かりますか？考えてみましょう。

- チャートの右側に発生している日足は陰線だが、日足ネックラインに反応している。上昇する可能性がある？
- 赤い始値の水平線付近で反発していることがわかる。上昇は赤いラインを越えてからかな？

このような情報が分かりましたね。

先程も申し上げましたが、波のレジサポラインになっていないことが既にわかっておりますので、ここはロングポジションを持ってみましょう。ではどこからエントリーすればいいのでしょうか？

そのためには4時間足のネックラインも同時に使ってエントリーポイントを探ることをオススメいたします。先程のチャートでは右側に4時間足で陽線が出現しておりますので、ネックラインが引けそうです。チェックして行きましょう。

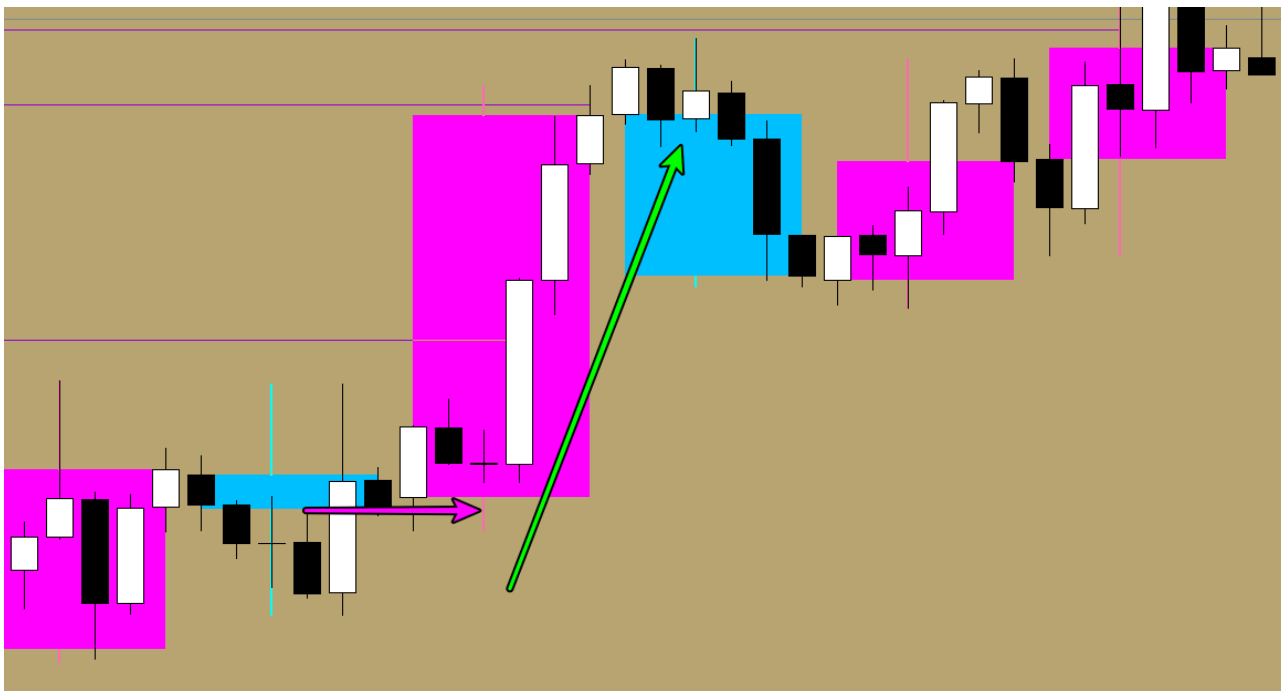


ピンクの矢印付近で、もし反発が起き、ネックラインの条件を満たすことが出来るとすれば買うことは可能だと考えられます。

何故ならネックラインになるということは相場全体が上のステージを目指していることの証明になるからです。水平線が引ける箇所を再度考えてみましょう。トレンドの力が強いことですよ？ネックラインになったということは相場がこれから動

き出すことを教えてくれているのです。

ネックラインの条件になったことを確認し、ロングポジションを持ってみましょう。
この後の相場がどうなったでしょうか？



4時間足のネックラインにあたり、ヒゲ下で一度は更新されたように見えたが
しっかりトレンドを形成し相場がぐんぐん上昇していきました。

このように日足のネックラインや始値の水平線を相場環境認識に取り入れ、4時間
足でもネックラインになるところを探れば、トレンドに乗って順張りを行うこと
も可能になります。損切りも浅くなりますので、しっかりとしたトレードが可能に
なります。

エントリーパターン②

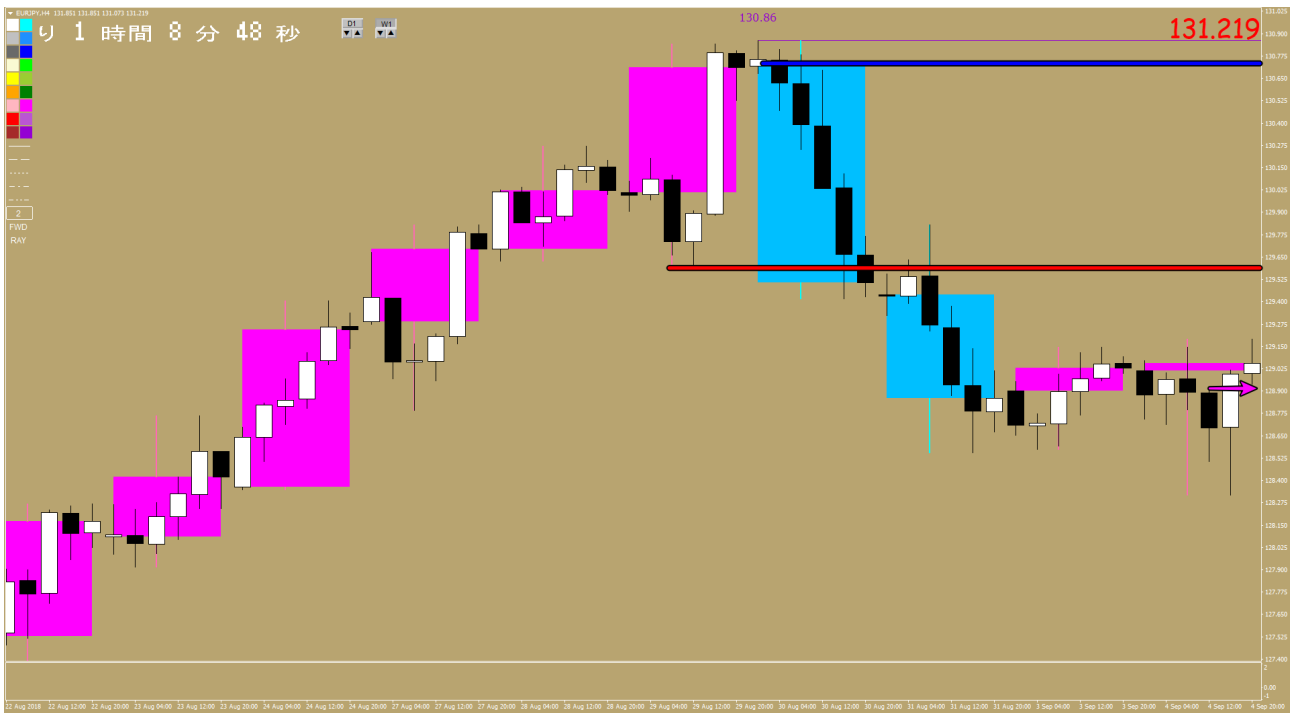


次はこのようなチャートパターンです。今度はどのように考えていけばいいのでしょうか？

まずは落ち着いて相場環境認識を行きましょう。

- トrendはアップトレンドだが短期的に下落している。修正波の可能性はある。
- チャートの右側は動きが弱い。ここからアップトレンドになる可能性はあるが、まだ修正波 a-b-c 波が出来上がっていない。
- 短期的な上昇を見せるかもしれないが、もしかしたら b 波になる？

このような情報が出てくれば相場環境認識がほぼ出来ております。それでは、どこに水平線が引けるのかチャートで確認してみましょう。落ち着いてネックラインや始値の水平線を引いてみてくださいね。



まず大きなローソク足の始値に水平線を引いてみます。このチャートの場合、陰線が大きそうなので青のラインで始値に描いてみました。次にネックラインですが、こちらは赤のラインで引いてみました。アップトレンド最後の陽線の安値に対してです。

先程のエントリーパターン①で解説した通り、日足の判断ができていますので4時間足のネックも同時に考えてみると、現在、ピンクの矢印付近が4時間足のネックラインになっている可能性が出てきております。

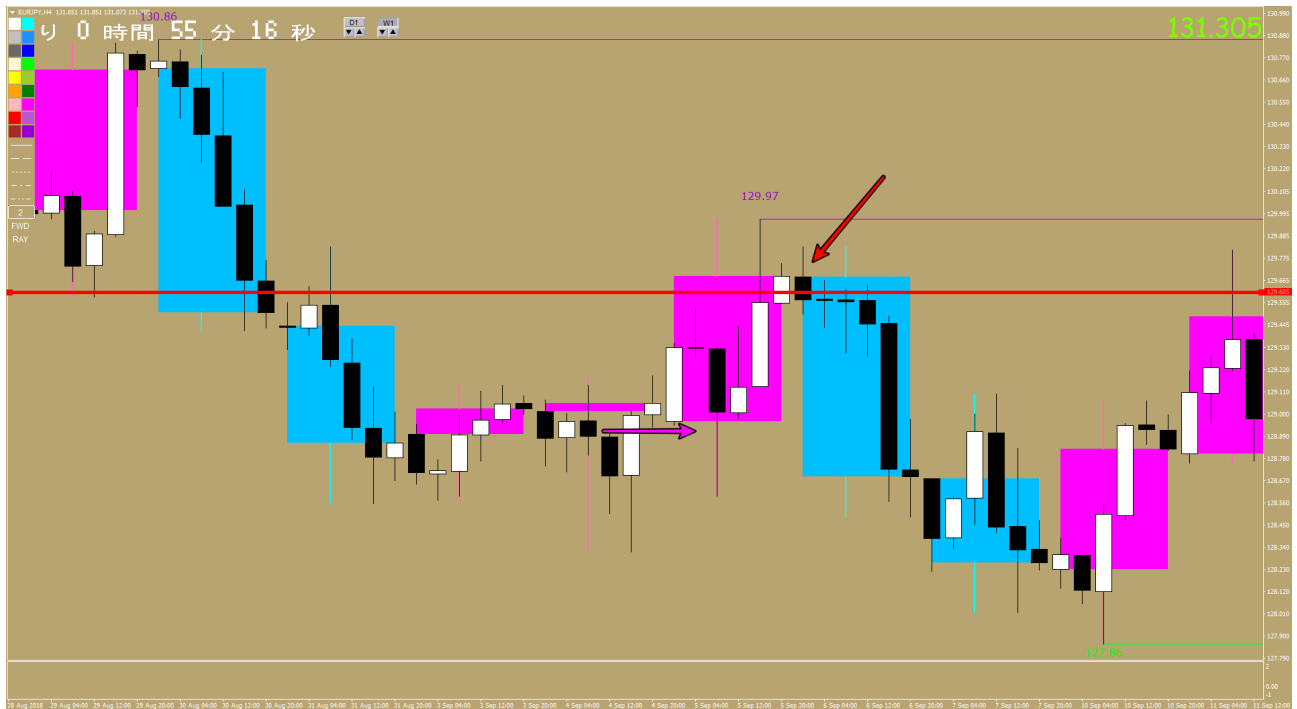
それではロング目線で買いましょう！！というわけにはいきませんよね^^;

というのも先程、相場環境認識を行った際にb波の可能性がある以上、短期的な上昇を見せてもその後下落し、c波になることだってあります。なのでロングポジションを持つ場合は、赤いネックラインまでとするか、または赤いネックライン付近で反応するかもしれないローソク足を狙ってエントリーするか、それとも休んで相場を監視するか考えたいところです。

欲張りな方は「そこまで分かっているのなら買ってから即座に売れば？」と思うかもしれませんが、短期的な判断は決断力がものをいいますし、慌てふためいて往復ビンタになるようなトレードならしないほうがマシです。自信がない方はどちらかに絞ったトレードをするべきだと思います。

とりあえず短期で買うことを選んだ場合と、日足ネックラインで売りを選択した場

合とで、どのような結果になったのか確認してみましょう。するとこんな結果になりました。



先程の、ピンクの矢印付近で、もしロングポジションを持っていたとすると、途中までは良かったのですが、急激な陰線の動きで損切りにあっていたかもしれません。

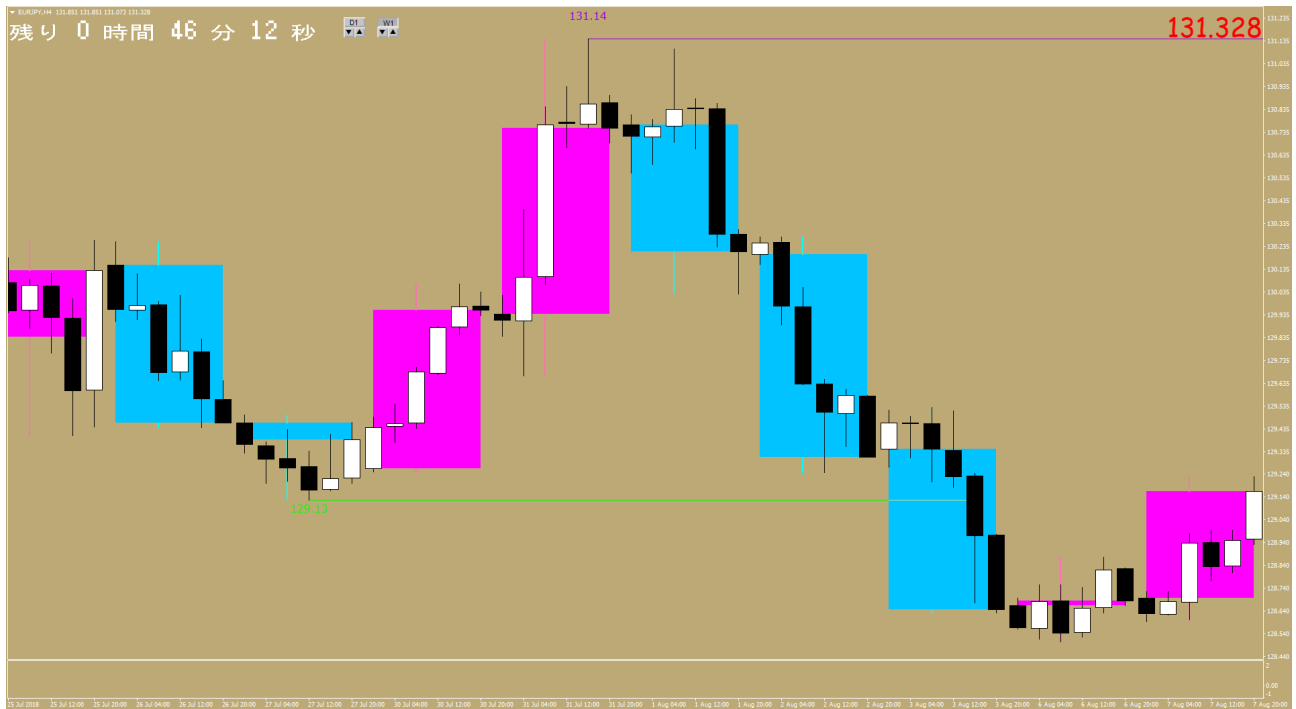
こんな動き予想できないよ！と思うかもしれませんが、よく考えてみてください。修正波の中の、しかもb波なんですから、水平線になりにくいことは十分考えられた情報だと思います。ましてや修正波の中の修正波なので、複雑に動いて当然の波です。

それでは日足ネックラインからのショートポジションを持っていたとすれば、どうだったでしょうか？一見すると、売っていれば勝てそうな相場ですが、日足レベルでも修正波なので、ネックラインを越えるようなローソク足が何本も出現しており、ショートポジションを持っていたとしても不安で仕方がないトレードですね。

その後の相場を見れば、ショートで正解！と思うかもしれませんが、水平線を引こうにも引きにくく難しかった相場だと言えると思います。

修正波の中でも、しっかり狙いPIPSを獲得することはプロトレーダーでも難しいことなので、私達一般投資家は極力、修正波の中をトレードせず修正波が終わるまで耐え抜くかわかるところだけ短期トレードをするか決めておきたいところです。結果的に資産を守ることに繋がりますので無理はしないほうがいいのかもしれないですね。

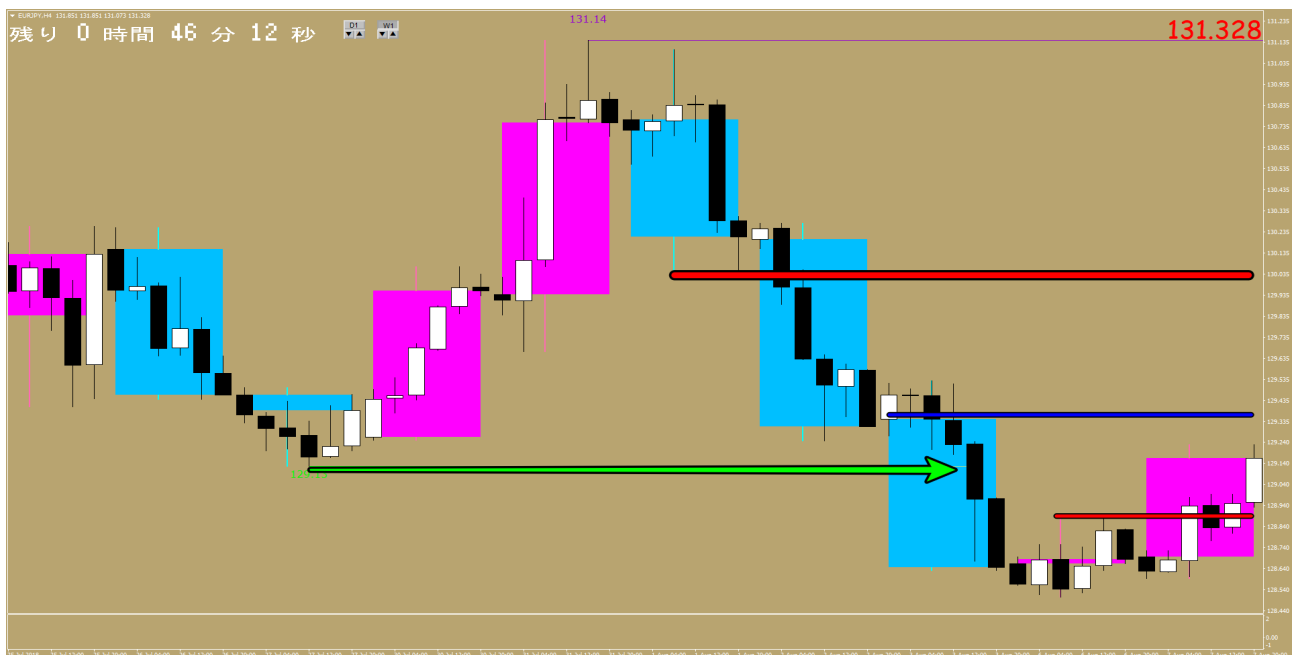
エントリーパターン③



それではこのようなチャートパターンではどのように考えていけばいいでしょう？
今までの学習で得た知識を活かしながら考えてみてください。

- トrendはダウントrendになっていて、戻り高値を作っている途中。
- 日足ネックラインも引けそう。でも引ける場所まで遠いかな？
- 大きな大陽線大陰線はまだ出現していない。始値に水平線を引くことは難しいかな？

このような情報や考えが出てきておりますか？それではどこに水平線を引いていけばいいのか考えてみましょう。



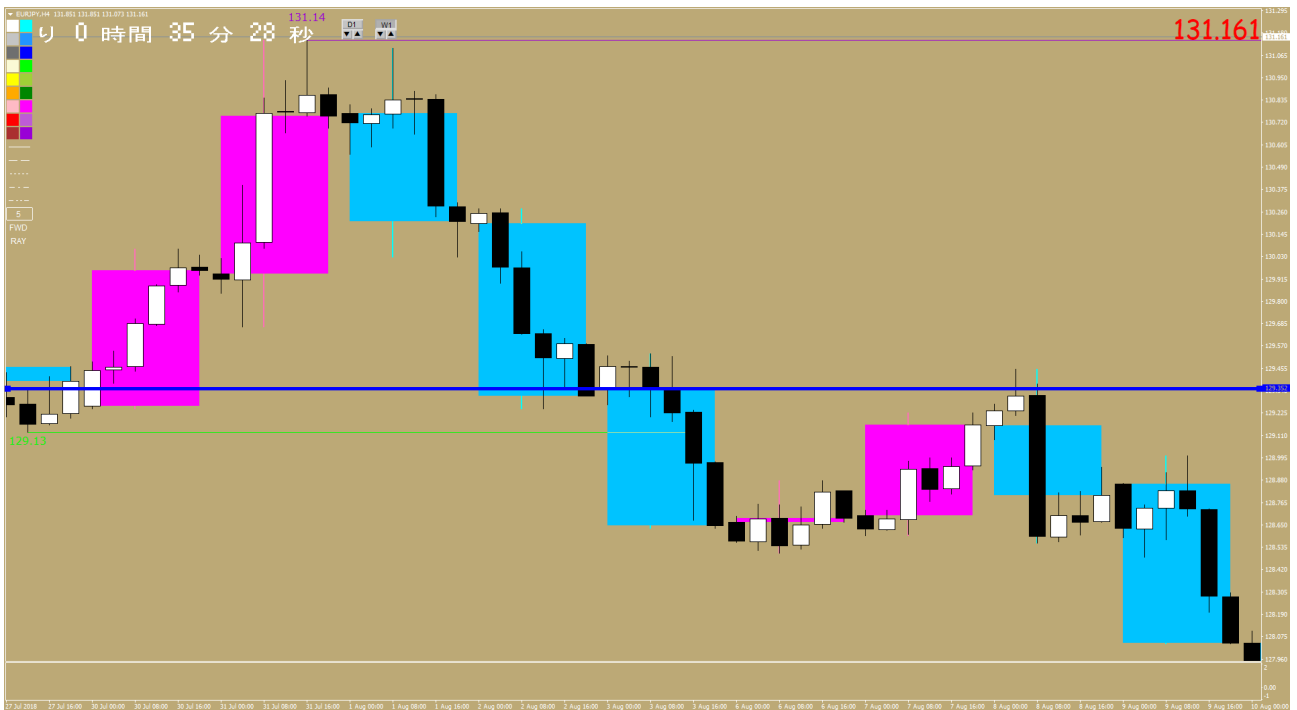
このような箇所にネックラインが引けましたが、ここで注意しなければいけない情報は、この相場がダウントレンドだということです。

一見するとネックラインが引けたように見えますが、ロングポジションを持つためのネックラインを引いても、ダウントレンド中では、もしかしたら役に立たないのかもしれない。

ただ引かないよりは引いて確認しながら、相場をチェックしたほうが良いと思いますので必要があるのかどうかを確認しながら進んでいきましょう。引いても必要がなければ消せばいいだけです。どんな相場でも水平線を引くように心がけましょう。

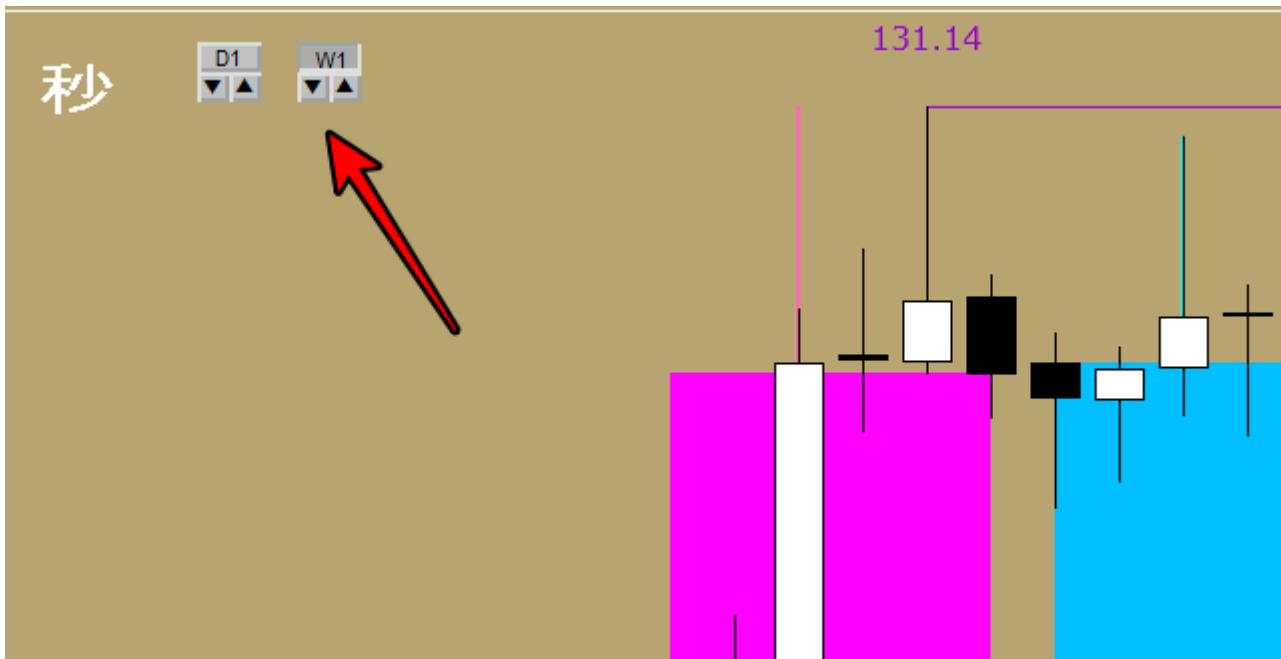
今回のチャートでは左側に安値があって、その安値を更新しているローソク足が見えます。そこに緑色のラインを引いてみました。この注目する安値を更新するローソク足というのは、相場の中でも注目度が高く、トレンドの継続を決定する重要な役目を持っているローソク足なのです。

こういったローソク足の始値はしっかり水平線を引いて確認しておきたいポイントです。トレンド継続のローソクに水平線を引いて、ここでのポジションはショートポジションを持つて行くことにしましょう。そうすると青いラインである始値の水平線を越えないで下落するローソク足を狙ってポジションを持つ事ができそうです。



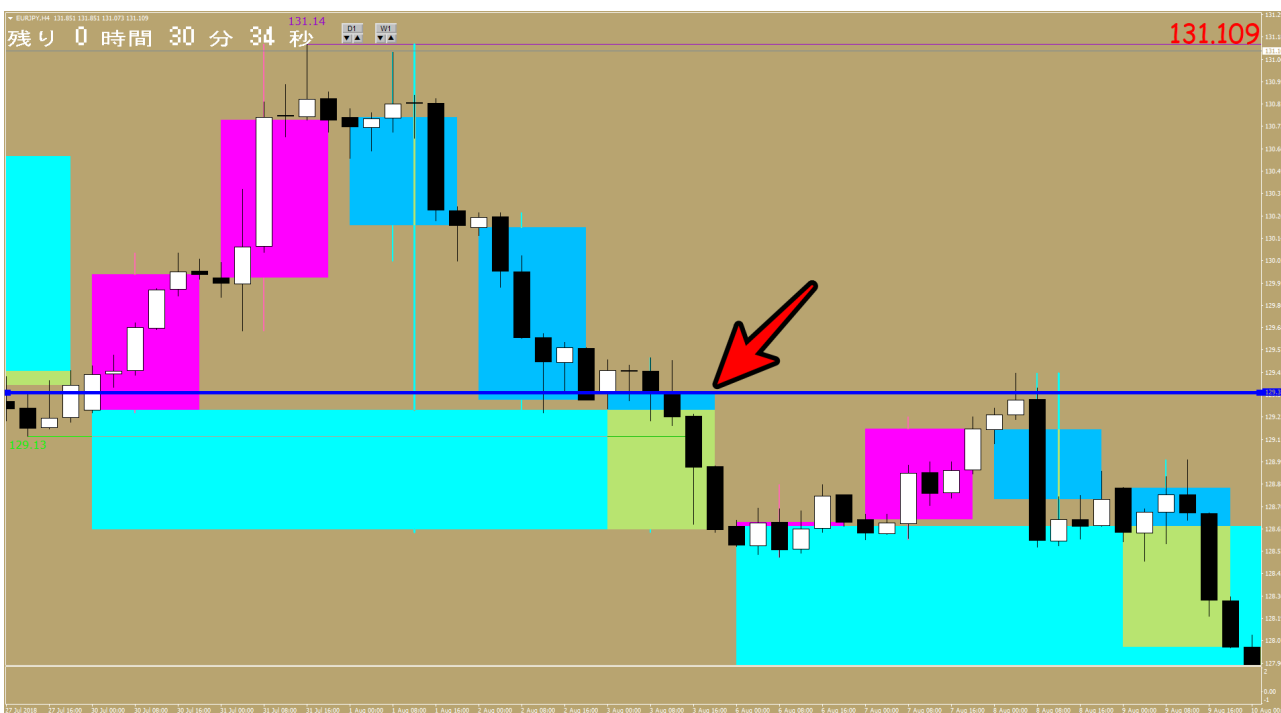
始値の水平線まで待っていたので、水平線付近での動きがよく見え、しっかりショートポジションを持つことが出来ました。おまけに大陰線も出現してくれたので、マイナス損益を見ずに動きましたね。

ここでもう一つ自信を持ってトレードするポイントをお話したいと思います。



まずチャート上部に注目してください。こういったボタンがあります。

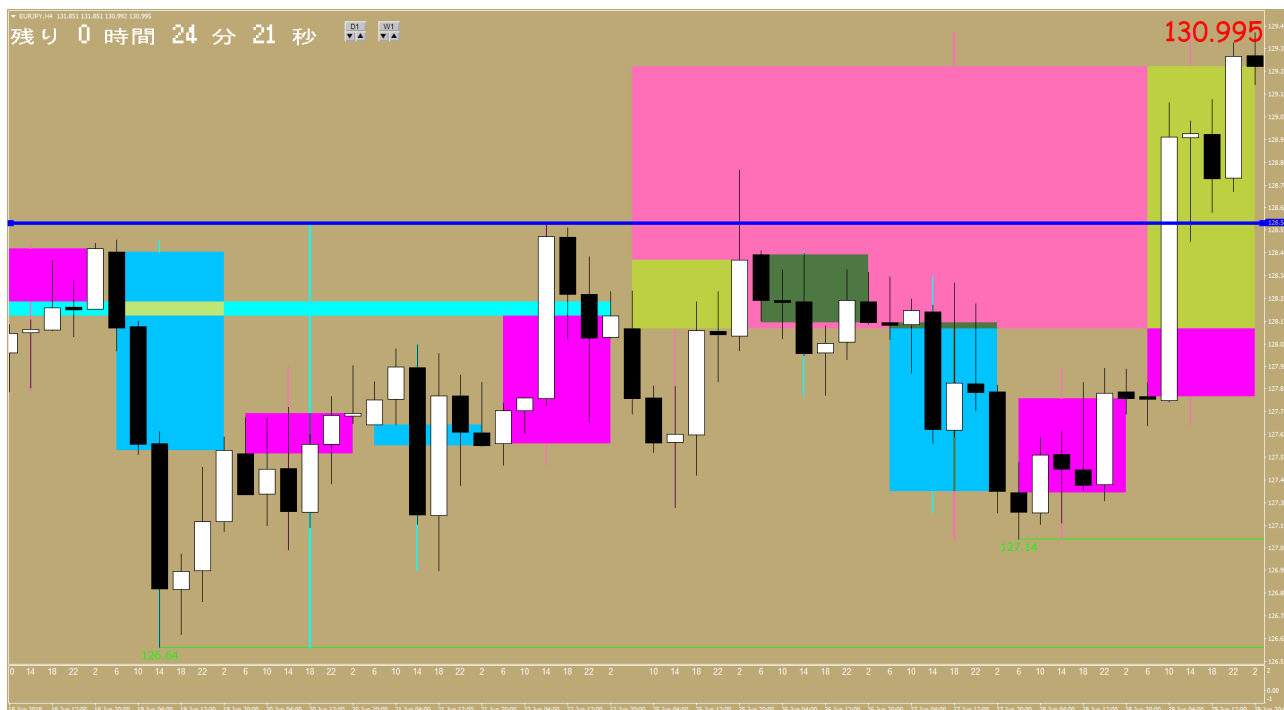
これは4時間足の背景に日足や週足を配置するインディケーターボタンのボタンなのですが、先程のチャートに週足（W1）をクリックして週足を配置してみましょう。するとこのようなチャートが現れます。



先程のチャートに週足を配置すると、日足始値に引いた水平線が、週足始値でもあったことが分かります。となるとエントリーした箇所が日足でも週足でもかなり注目していた始値だったことが分かりますので、相場的には強い水平線だったということが分かります。

このように日足でも週足でも引ける水平線は、見ている参加者の数も大変多く注目するポイントでもあります。今回のように重なった水平線が分かるよう同時に違う時間軸のローソク足を配置し、考えられるようにインディケーターのボタンをうまく使ってチャートを見るようにしましょう。

エントリーパターン④

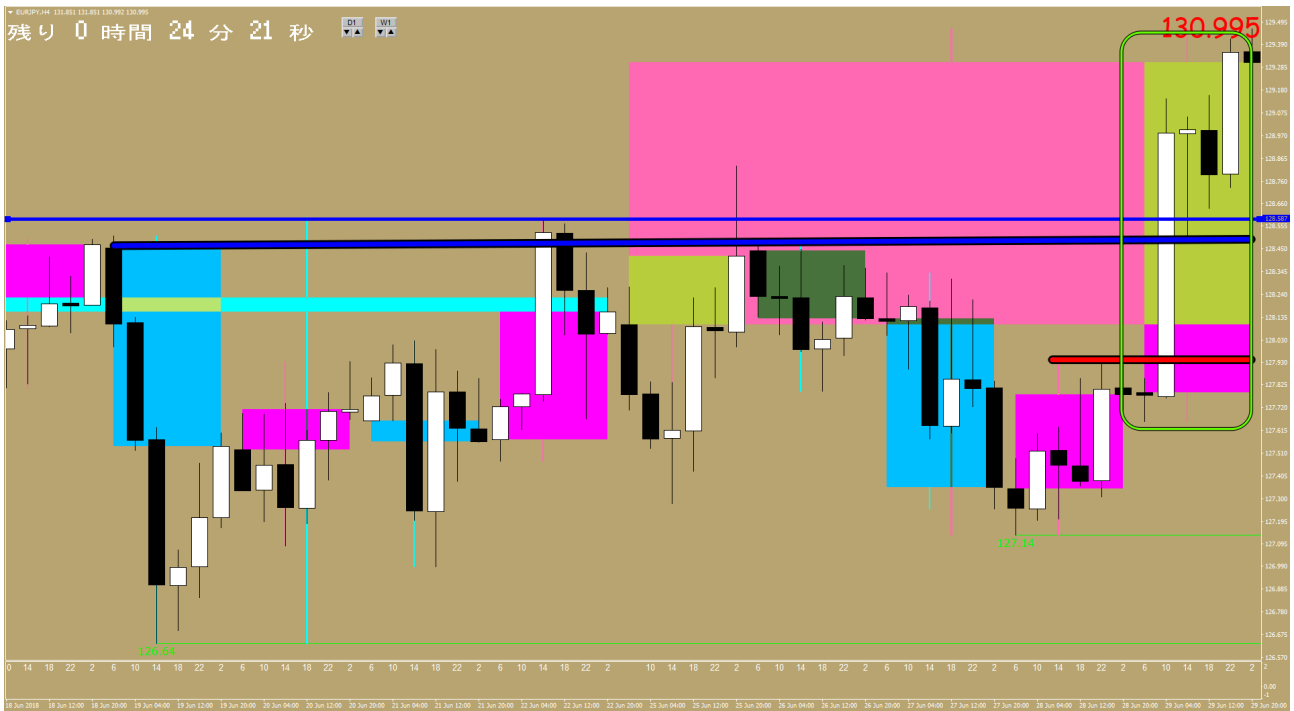


今度は、日足と週足同時に4時間足チャートに表示させて相場環境認識を行ってみましょう。既に週足ネックラインと思われる箇所には水平線を引いておきました。皆様は、この後、相場がどの様に動いていくとお考えでしょうか？

- アップトレンドかダウトレンドかはわからないが、週足陰線の高値を更新しているのだから、トレンドはアップ方向かな？
- 週足ネックラインと思われる箇所があるのだから、サポートされるまで待たばいいのでは？

このように考えているかもしれませんが、でもここまでくれば、ある程度予想も立てやすいですが、油断してはいけません。

重要なことは週足だけではなく日足や4時間足にも水平線を引くことです。まずはネックラインや始値に対する水平線を引き、水平線に反応するポイントをローソク足で判断し確認していくことにしましょう。



この相場では重要なポイントがいくつかあります。

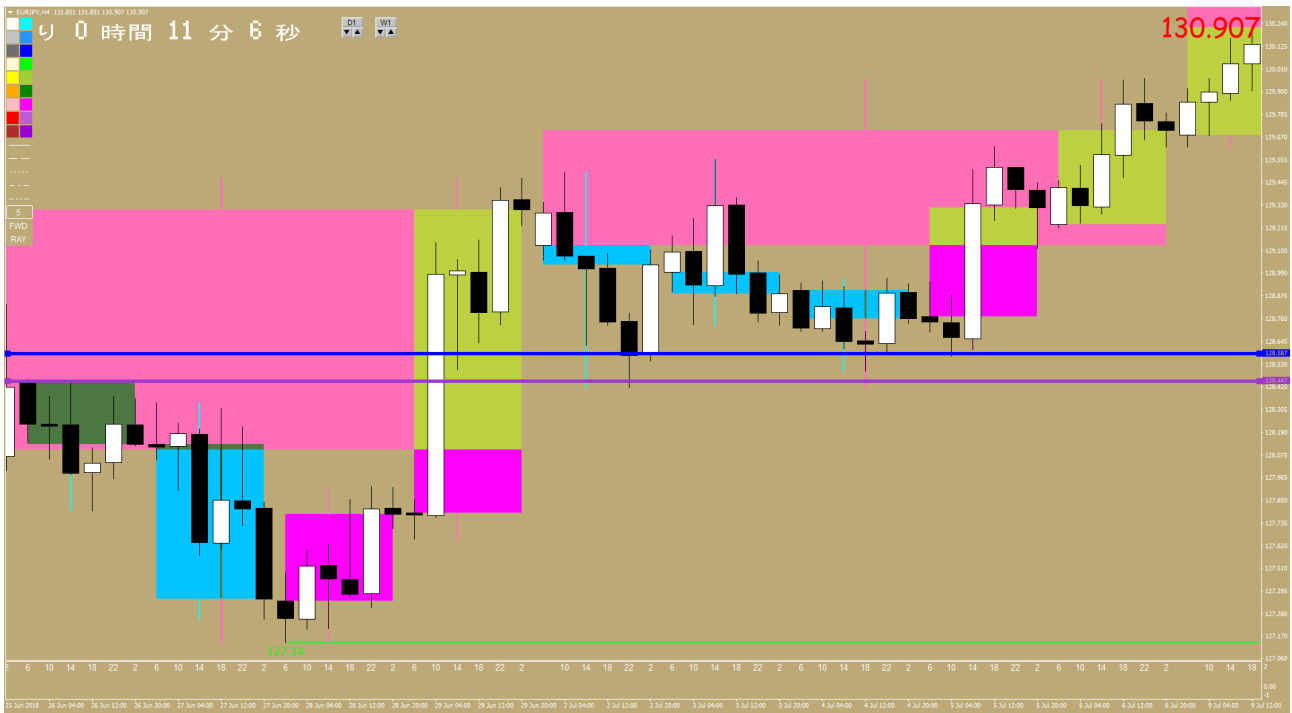
まずは左側の日足陰線始値に対する水平線です。今までこの水平線に阻まれて上昇することが出来ずに動いていたことが相場から分かります。この水平線が邪魔で仕方がなかったと思いますが、大陽線の出現で注目する水平線を壊してくれたことが、相場の未来を占う上で、ものすごく重要なポイントとなります。

皆様覚えていますか？レジサポラインになるための条件ですよ？勢いよく更新したローソク足や波があるとレジサポラインになりやすいと解説しましたよね。

ということはこの後、サポートラインが出現する可能性が高くなりますので、ロングポジションを持てるようにチャンスを待ちましょう。

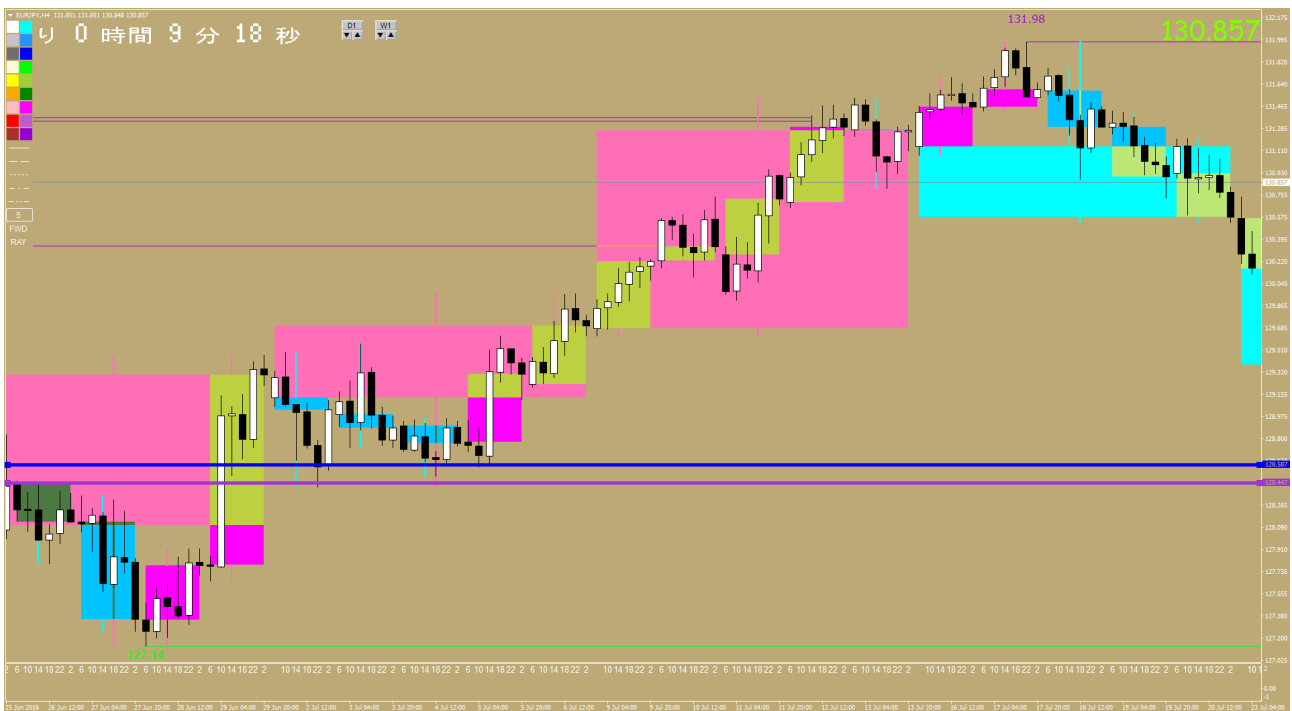
その間に、日足ネックラインを引いて待ち構えておきましょう。今回は週足ネックラインも既に引いております。どこかにタッチすれば一気に動くことは間違いないので、週足ネックラインと陰線日足始値の水平線のどちらかで動いてもいいようにしっかりエントリー準備をしておきましょう。どこのネックラインで動くのか楽しみですね。

この後の相場がどうなったのか確認してみます。



青い水平線が週足ネックラインで紫のラインが日足陰線始値の水平線です。しっかりサポートラインを作って上昇していることが分かります。

しかも週足ネックラインに週足自体も反応を出しており、この後の上昇相場を予見する動きとなっております。この後の相場も確認してみましょう。

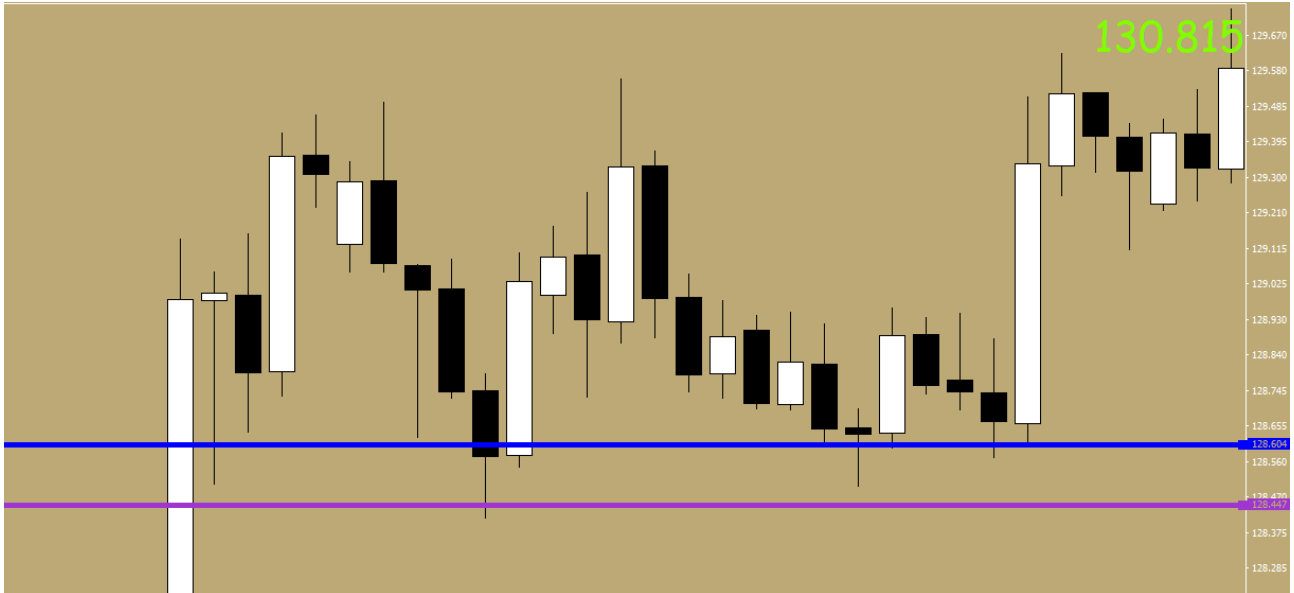


相場はそのまま上昇を続け、注目するゴール（長期水平線）まで到達してから下落しております。しっかり週足でも日足でも水平線を引いてチャンスを待っていれば、このような相場でも損小利大を狙ってトレードすることは可能なのです。

エントリーパターン⑤

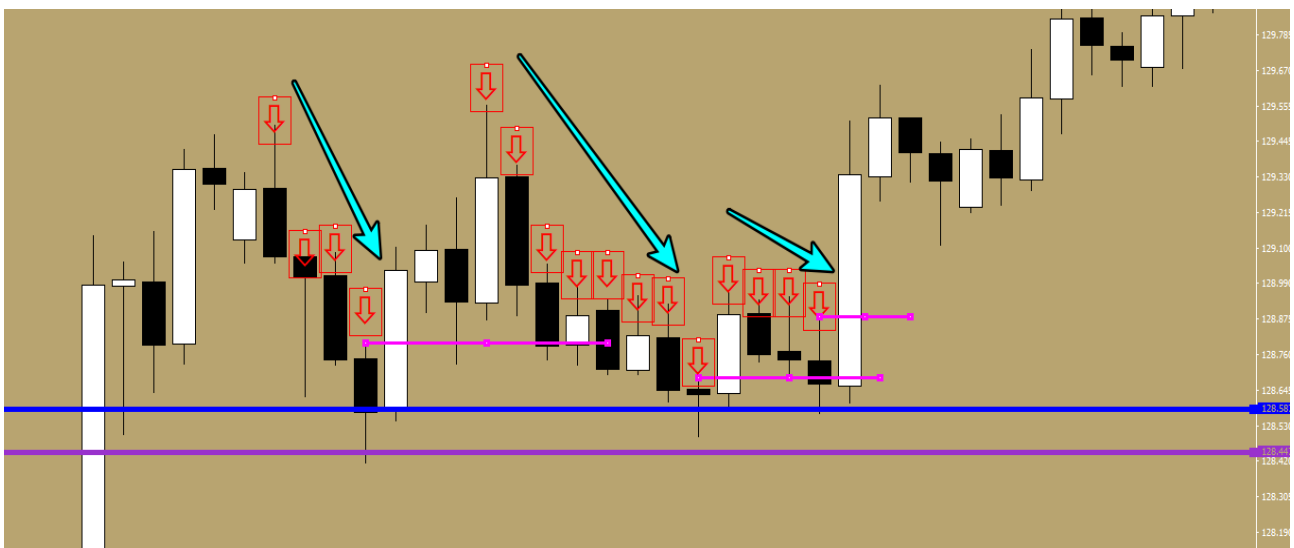
ここまで幾つかのエントリーパターンをご紹介してきましたが、これでもわからない！そんなことは偶然だろ？という意見を述べている方も多いかもかもしれませんね。

実際、水平線を引けばその威力が分かると思うのですが、更に細かく水平線を使った相場の見方も知る必要があると思います。それでは先程のチャートを細かく見ていきましょう。



週足ネックラインや日足陰線始値の水平線に対してサポートされていたとしても、もしかしたらこのまま下落するのでは？と思っているかもしれません。それに週足ネックラインが分かったとしても、どこからエントリーすれば良いのかわからないという意見もあることでしょう。

そこでエントリーポイントを探るためには、まず注目すべき箇所のローソク足の高値安値に注目します。今回のチャートではローソク足の高値に対して注目していくようにしてください。チャートに描くとこのようになります。



短期的な下落をしている相場に見えますが、全てネックラインや始値に引く水平線付近で止まり反発しております。

この場合、ローソク足の高値に注目していき、ローソク足を短期的な波として捉えてみてください。その短期的な波を壊してくるローソク足が、4時間足のネックラインになります。相場はここから上昇する可能性が高く、4時間足のネックラインもしっかり考えて捉えていければ、チャンスを更に効率的に狙うことが可能になります。

先程のチャートでは、一番最初に出現する4時間足のネックライン（左側のピンクのライン）付近でローソク足の反発を確認することが出来ませんでした。しかし週足のネックラインでは再び反発し陽線を作り出しております。こんな相場でショートポジションを出すことは無いと思いますが、メンタルに負けてショートポジションを持たないように注意しながら相場を確認してみてください。

再び二番目の4時間足ネックラインと思われる水平線が出現しました。

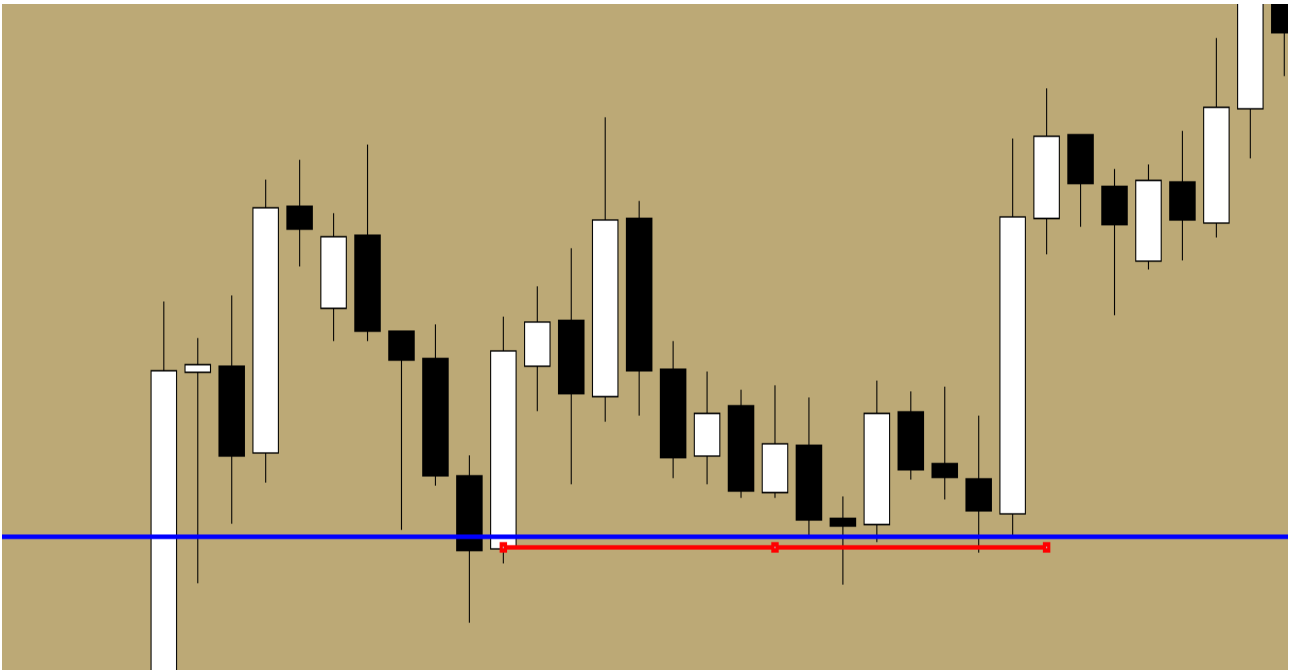
二番目のピンクのネックラインに対して、ローソク足陰線が越えているように見えますが、ここまで来ると、どう考えても週足ネックラインを意識した動きになっているようにしか見えませんので、損切りをしっかりと決めてアップトレンドとして、ポジションを持つように心がければ、必ず出現する大陽線の後押しで相場は上昇し、しっかりと稼ぐことが出来るようになるでしょう。

ここでのポイントはいくつかありますが、まず1つ目は損切りです。

損切りを浅く取ることも大切なのですが、浅すぎてしまうと損切りの嵐になってしまうので、短期的なローソク足の波を負かすローソク足を見るまではエントリーしないという、しっかりとしたメンタルでエントリーを心がけてみてください。

次のポイントは4時間足の始値に対する考え方です。

このチャートの場合、4時間足の始値でもしっかりとローソク足の反応を見せているので大いに使えます。週足のネックや日足の始値の水平線と並行し同時に4時間足の始値にも水平線を引いておけば、即座に対応すること出来ると思います。



赤いラインは4時間足の始値に対して水平線を引いたものです。同時に使用することによって注目する水平線をよりはっきり表すことができるようになります。

注目する水平線は4時間足、日足、週足に散らばっているように感じますが、本当に重要な水平線は重なることがあるので、もし重なった場合、チャンス相場になると事前に察知しておけば、下準備を重ねて相場に臨むことも出来ると思います。

そのためにはローソク足を使った波引きや相場環境認識が不可欠となります。

今回の水平線トレードでは、事前の相場環境認識が大切な情報を与えてくれることは言うまでもありませんので、水平線に自信がない方はトレンドやエリオット波動論など、基礎理論もしっかり学習するように心がけてみてください。

14. 各章ごとの動画解説

それではここまでお読み頂き、ある程度理解できるようになったと思いますが、文章を読んだだけではよく理解できない！という方のために、このレポートでは動画による説明も添付させていただきました。

レポートと一緒にご覧になっていただければ、足りない情報を補うことが出来ると思いますので是非何回もご覧になってください。

動画をご覧になるためにはインターネットに繋がっている端末が必要になります。

スマートフォンの場合、大量の packets が必要になりますので必ず定額プランにご加入されることをお勧め致します。

動画をご覧になる際、下のメニューをクリックするとお使いになっている端末のブラウザが起動します。そこへ専用パスワードをご入力後閲覧可能となります。

専用パスワードは「7714」です。セキュリティ上変更されることがございます。ご了承ください。

- [事前準備](#)
- [水平線の基本](#)
- [レジスタンスとサポート](#)
- [長期、中期、短期水平線](#)
- [推進波と修正波の水平線](#)
- [ローソク足の基本](#)
- [太陽線と大陰線の始値](#)
- [特殊ハラミ足](#)
- [ネックライン](#)
- [超短期水平線](#)
- [長期ローソク足の始値](#)
- [ローソク足の始値の応用](#)
- [エントリータイミング](#)

15. 最後に・・・

ここまで水平線を使ったトレード手法をご紹介してきましたが、いかがだったでしょうか？

しんたろうのFX勉強会では、水平線の重要性をこれでもか！というほど解説し指導してきましたが、水平線がないチャートを確認することが怖くなったのではないのでしょうか？水平線の世界は奥が深くて中々マスターすることが困難となっております。

しかし今回、レポートという形で何とか皆様の不安や悩みを解消できるように執筆してみました。自分も日々のトレードで当たり前に使っている水平線の価値を再認識することが出来ました。取り組んでみて本当に良かったと思っております。

相場には、買いのグループと売りのグループという巨大な二大勢力が常日頃から戦っているのですが、この2つの存在がある限り、水平線の考え方がなくなることは絶対にあり得ません。

水平線を一日も早くマスターして頂き、今までのチャートの見方から解放され、水平線を使ったチャンス相場に強いトレーダーになっていただければ幸いです。

どこでエントリーすれば良いのかわからない、どうやってFXで勝てば良いのかわからないという意見がある以上、これからもどんどん有益な情報を配信していきます。しんたろうのFX勉強会をこれからも末永く応援してください。

それではここまでお読み頂き誠にありがとうございました。ご購入者様からの素晴らしいトレード結果が出ることを心より楽しみにお待ちしております。それではまた～

2018年12月吉日

しんたろうのFX勉強会

管理人：しんたろう